

令和8年度

教科の指導計画と評価規準
&
6年間の学習計画



東京都立三鷹中等教育学校
前期課程

目 次

目次	1
時程表	2
学習に向けての心構え	3
国語科	4
社会科	5
数学科	6
理科	7
音楽科	9
美術科	10
保健体育科	11
技術・家庭（技術分野）科	12
技術・家庭（家庭分野）科	13
英語科	14
年間の指導計画と評価基準	15
国語科	16
文化科学Ⅰ	22
社会科	23
数学科	31
自然科学Ⅰ	38
理科	39
自然科学Ⅱ	49
音楽科	50
美術科	53
文化一般	56
保健体育科	57
技術・家庭（技術分野）科	63
技術・家庭（家庭分野）科	66
英語科	71
総合的な学習の時間	78
道徳	81
探究	84
特別活動	87
図書室・保健室から	88
図書室から	89
保健室より	90
6年間の学習計画	91
国語科	92
社会・地理歴史・公民科	93
数学科	94
理科	97
音楽科	99
美術科	100
書写・書道	101
保健体育科	102
技術・家庭・情報科	103
英語科	104
総合的な学習の時間	105
道徳	106
キャリア教育	107
道徳教育全体計画	108
特別活動全体計画	109
食に関する指導の全体計画	110
学校安全計画全体計画	111

三鷹中等教育学校 日課表・週時程表（前期課程）

時程	曜日	月	火	水	木	金	土
	8:25 ~ 8:35	朝読書・学活					
1校時	8:40 ~ 9:30	1	7	13	19	25	31
2校時	9:40 ~ 10:30	2	8	14	20	26	32
3校時	10:40 ~ 11:30	3	9	15	21	27	33
4校時	11:40 ~ 12:30	4	10	16	22	28	34
給食	12:30 ~ 13:00	給食					
昼休み	13:00 ~ 13:15	昼休み					
5校時	13:20 ~ 14:10	5	11	17	23	29	
6校時	14:20 ~ 15:10	6	12	18	24	30	
学活	15:10 ~ 15:20	学活					
清掃	15:20 ~ 15:40	清掃					
下校	17:00	下校（届出による延長 18:00）					

※ 土曜授業は、年間 18 回実施

学習に向けての心構え
〈前期課程〉

国語科

1 学習について

学習の目標：豊かな日本語の力をつける。その力で人とつながり知識を獲得し文化を創造する。

(1) 何にでも疑問を持つ まずは自分で考えよう

疑問を持つから、理解へつながる。わかったつもりになって何も考えないでいると、結局何もわからないまままで終わってしまう。

(2) いろいろな人の意見を聞いてみよう

さまざまな意見を知り、たくさんの方向から考えることで、自分の意見をより確かなものにできる。

☆ 家族・友だち・先生……声をかけよう、話し合おう。

☆ 遠い国の人・違う時代の人……本の中であなたを待っている。話しにいこう。

(3) 辞書と友だちになろう

国語辞典は家庭に1冊、学校に1冊置いておこう。テレビを見たり新聞を読んだりしているときに、わからない言葉や字があったらすぐに辞書を引いて確かめよう。「そのときすぐに」が大切。「あとで」と思うと、忘れてしまう。これを続けることで、毎日の生活の中で自然と言葉の力が培われていく。

2 学習への取り組み

(1) 予習をしよう

教科書を読んで、わからない言葉は意味を調べ、大まかな内容をとらえておこう。

完全に理解しようとしなくていい。疑問を抱いて授業に臨むことが大切。

(2) 積極的に授業に参加しよう

「教えてもらう」のではなく「自分で授業を作る」心がまえで臨もう。

積極的に質問や発言をして、授業をいきいきさせよう。

人の意見をよく聞き、話し合い、考えて、予習をしたときに生まれた疑問を解決しよう。

(3) 自分なりのノートを作ろう

黒板を写すだけでなく、

- 先生の説明
- クラスの人の意見でなるほど思ったところ
- 授業を受けながら気づいたり考えたりしたこと
- 辞書を引いて調べたこと

などをどんどん書きこみ、復習しやすいノートを作ろう。

社会科

1 学習について

前期課程（中学校）での社会科の学習の特色は、地理、歴史、公民の3つの分野に分かれて小学校より専門的に学習することと、その学習を通して後期課程（高等学校）につながる基礎を学んでいくことです。

学習する事項も内容もかなり多くなります。1年生では週4時間の配当（一般の公立中学校は3時間）で、地理的分野と歴史的分野を学んでいきます。地理では日本のことに加えて世界のことでも学習します。歴史的分野では、おもに日本の歴史を学びますが、必要に応じて、後期課程の世界史学習の基礎となる事項については前期課程でも学んでいきます。

小学校と比べてずいぶん難しいのではないかと不安な人もいるかもしれませんが、なにごと基礎基本を大切にすれば心配ありません。あせらずじっくりと一つ一つをしっかりと学習していきましょう。そうすれば確実に、実力が付きます。さあいっしょに学習していきましょう。



2 学習への取り組み

まずは、「予習→授業→復習」というサイクルを確立しよう。

(1) 予習 「短時間でいいから予習はしたほうがいい」

- 次の授業でどんなことをするのか、テーマぐらいいは知っておく。
- 事前課題が出ていたら、自力で、できる範囲でやっておく。
(できなくてもいい、できるようにするために授業がある)

(2) 授業 「いちばん大切なのは授業」

- まずは、授業者の説明を理解に努めながら集中して聴こう。
- 黒板に提示されたものだけをノートに写すのではなく、大切なところや説明のポイントなどを図なども用いて工夫して記録しよう。
- グループワークや発表などには積極的に取り組もう。

(3) 復習 「短時間でもいい、その日にやろう」

- 試験範囲のテキスト（教科書、副読本、資料集）を読み直し、頭の中で授業を再現してみる。
- 授業の感触が残っているうちにもう一度確認しておくことは想像以上に頭に残る。もしも復習で理解が不十分であることが判明したら、遠慮なく質問に行こう。

(4) 試験対策 「試験勉強は二週間前から」

- 最初の一週間は、試験範囲のテキスト（教科書、副読本、資料集）を読み直し、授業の再確認をしよう。
- 試験一週間前になったら、問題練習に取り組もう。



数学科

1 数学科の目標

- (1) 数学的な見方、考え方を伸ばそう
 - ① 身近な課題を通して、数量や図形に対して関心をもつようにしよう。
 - ② 数学的な見方、考え方を積極的に活用して、課題を解決しよう。
- (2) 数量や図形の基礎的、基本的な概念や原理・法則を理解しよう
 - ① 数と数式の計算規則や図形の基本性質を学ぼう。
 - ② 問題練習を通して、基礎的、基本的な知識を深め、問題解決能力を高めよう。
- (3) 事象を数理的に捉え考える能力を高め、正確に表現・処理する方法を学ぼう
 - ① 事象を数理的に表現し処理する方法を学び、進んで活用してみよう。
 - ② 事象を数理的に捉え考える過程で、新しい表現方法や処理の仕方を学ぼう。

2 学習への取り組み

- (1) 予習
 - ① 次の授業で学習する教科書の内容を読んで理解しましょう。
 - ② 疑問に感じたこと、理解できなかったことをノートに整理しておきましょう。
- (2) 授業中
 - ① 先生の説明や指示をよく聞いて、課題に積極的に取り組みましょう。
また、疑問点や分からない点について先生に質問しましょう。
 - ② 授業用のノートには、黒板に書かれた内容や計算式を記入するだけでなく、学んだことが財産として残るように工夫して整理しておきましょう。
- (3) 復習（宿題を含む）
 - ① 授業で学んだ内容を見直し、学習事項を定着させましょう。
 - ② 定理、公式、性質などは、「何に役立つのか」、「何ができるようになったのか」ということについても考え整理しておくようにしましょう。
 - ③ 問題集用ノートを用意し、学習内容について計画的に演習を進めましょう。
- (4) 課題などの提出物
 - ・ 課題については計画的に学習を進め、提出日を守るようにしましょう。
- (5) 定期考査・小テストへの取り組み
 - ① 定期考査や小テストに向けて、計画をしっかりと立てて家庭学習に取り組みましょう。
 - ② 試験後は、間違えた問題を解き直し、間違えた理由を確かめておきましょう。

理科

1 学習について

(1) 自然に対して関心を持つ

- 関心をもつことは「学習」の第一歩であり、「理解」への近道です。
- 観察や実験などに積極的に自分からかかわってみることで、「なんでだろう？」という興味と関心が高まっていきます。

(2) 「科学的姿勢」を身に付けよう

- 「科学的姿勢」とは、物事を科学的に見たり考えたりしようとする態度のことです。
- 他人に対して何かを主張するときに、自分だけの独りよがりな論理ではなく、常に科学的な裏付けを用意してのぞむことが大切です。
- さまざまな現象を見たり、問題演習を解くことなどを通して科学的な思考力をみがき、また、レポートを作成したり、人の前で発表したりすることで、物事を道筋立てて説明する力を身に付けましょう。

(3) 新しい課題に挑戦しよう

- 普段の生活で疑問に思った「小さなこと」を放置せず、科学的に思考し取り組んでいく態度を身に付けましょう。
- 自分の考えを他の人に説明することで、科学的に分析したり、判断したりすることができているかを確認してみましょう。

2 学習への取り組み

(1) 予習

- ① 予習に時間をかけすぎる必要はないが、次の時間におこなう実験の進め方などは、安全にも関わるのでしっかりと頭に入れておきましょう。
- ② 前の時間に出された課題・問題などは、必ず自分なりの解答を用意して授業にのぞむようにしましょう。
- ③ 日常生活の中で目にする現象や、科学に関する記述・報道に関心を持ちましょう。

(2) 授業中

- ① 理科は、説明をただ聞いているだけで簡単に理解できるような教科ではありません。先生の説明を注意深く聞くことはもちろんであるが、ノートを書くなどして、手で内容を確認するように努めることが大切です。
- ② わからない点があるときには、すぐあきらめず、自分で調べたり、先生に質問したりするなど積極的に解決する習慣を付けるようにしましょう。そういった習慣が、後々の実力の伸び方に大きく効いてきます。
- ③ ノートを上手に使うことができるかどうか、学習の効果に大きく影響します。黒板に書かれたことだけを書くのではなく、授業中に自分で思いついたことや疑問に思ったこと、あとで勉強して分かったことなどをどんどん書き込むようにしましょう。そのための余白を前もって多めにとっておくとよいでしょう。
- ④ 配布されたプリント類は、教科書、ノートと同じくらい重要な内容が書かれています。ノートに張り付けたり、ファイルに保存したりして、きちんと管理をしましょう。
- ⑤ 実験室での実験は楽しいものだが、良い経験とするためにも、班の中で協力し、安全には十分に気を付け、実験操作の内容や順番を間違えないようにしましょう。安全に行うためにも、実験時には、先生の指示に従うようにしましょう。

(3) 復習

- ① 復習は、授業内容を理解するうえで最も大切な学習方法です。ノートを見直したり、問題集をわかるまで解いたりして、授業内容を整理し、疑問点などを克服しておきましょう。
- ② 克服できない疑問点などが残った場合は、インターネットや図書館などを利用して自分で調べたり、身近な人や先生に質問したりするなどして積極的に解決しましょう。このような経験を積み重ねることで、後々、実力が大きく伸びてくるでしょう。

(4) 宿題や課題レポート等

- ① 宿題や課題は、提出日を厳守するよう、計画的に学習し、やり遂げましょう。
- ② 課題レポートなどは、本や資料などを使って自分で調べ、まとめあげましょう。

(5) 定期テスト・小テストへの取り組み

- ① 定期テスト・小テストに向けて、計画をしっかりと立て家庭学習に取り組みましょう。
- ② 試験で解くことができなかった問題は、必ず再度やり直してできるようにしておこう。
- ③ 理科の学習は、はるかな頂へと続く細い山道であり、一步一步着実に登っていかなければ、決して頂上に立つことはできません。登りがきつくなってきたときは、少し下へ降りて足もとを確認し、なんどでもあきらめずに挑戦していく態度が大切です。その態度を養うための道しるべが、テストです。

(6) その他

机に向かうだけが、理科の勉強ではありません。休日などは、科学館や博物館、自然の多い森や山など、科学や生物に出会える場所に、積極的に出かけて、科学的な視野を広げていきましょう。

音楽科

1 学習について

- ① 学習内容について自ら課題意識を持ちましょう。あらかじめ楽譜や資料に目を通し、歌詞や音楽記号・用語などを確認し、演奏や鑑賞の学習に備えましょう。
- ② 授業中に「できた、分かった」つもりでも、時間が経つと知識は忘れ、技術は衰えるものです。作品の特徴や歌詞を復習したり、反復練習をしたりするなど努力をしましょう。欠席した場合はクラスメイトや音楽科教員に学習内容や配布物を確認し、各自で学習しておこう。
- ③ 日々の生活の中で身の回りの音に耳を傾けてみましょう。何気なく聞き逃してしまうテレビ番組のBGMやCMの音楽を意識して聴いたり、動画や演奏会などを利用してたくさんの音楽に接したりするなど、日々の様々な機会を利用して積極的にいろいろな音に触れてみてください。

2 学習への取り組み

- ① 進んで学習活動に参加しましょう。
- ② 音楽は「音」で表現する芸術です。音を大切にしてください。
- ③ 音楽は時間芸術です。授業の開始ベルが鳴る前に教室移動をすませましょう。
- ④ 演奏や意見交流、発表に向けて積極的に練習に臨みましょう。
- ⑤ 立つ姿勢、歌う姿勢、座った姿勢など、姿勢は音楽活動と密接な関係があります。自分の姿勢を意識して取り組みましょう。
- ⑥ 音や音楽に対して自らイメージを持ち、雰囲気を感じ取ってください。
- ⑦ 新しい楽曲との出会いを大切にし、既に知っている楽曲にも新たな発見や感動を見つけだしましょう。
- ⑧ しっかり音を聴き、喜びや感動を共有できる時間を持ちましょう。
- ⑨ グループで協力してよりよいものを創り、発表では堂々と自己表現しましょう。また、目標達成に向けて練習の仕方を工夫しよう。
- ⑩ 個性を認め合い互いの表現を理解し合い、より良い音楽表現を追求しましょう。

美術科

1 学習について

- ① 様々な素材に出会い、色と形の基礎的な表現能力を身に付け、他の学習や生活に生かせるようにしましょう。
- ② 対象を観察し粘り強く作品を作り上げ、達成感と表現することの楽しさを実感し、豊かな心になりましょう。
- ③ 自分の内面を見つめ、感じたことや考えたことを言語化・視覚化し、イメージを広げ発想につなげていく力をつけましょう。
- ④ 作品鑑賞・日本の伝統文化に触れ、思考力・判断力・表現力をつけましょう。また、芸術文化を尊重し、国際理解力を深めましょう。
- ⑤ 「うまさ」ではなく、「よさ」を追求していきましょう。
- ⑥ 自分自身の良い点、感性や思いやりを大切にしていきましょう。

2 学習への取り組み

授業では、今日のねらいをよく意識、理解し

- ① 忘れ物がなく、説明をよく聞き、準備、制作、後片付けなど積極的に行いましょう。
- ② 作品の完成度を高め、期限を守って提出し、**作品を大事に**しましょう。
- ③ 活動の中でよさや価値を見つけ出しましょう。
- ④ 豊かにテーマやアイデアを練りましょう。
- ⑤ 自分のテーマにそった**色・形・素材を工夫**しながら制作しましょう。
- ⑥ 用具や工具を安全かつ効果的に扱いながら、構想に基づいて完成させましょう。
- ⑦ 自分の見方をしっかりと持ち、意欲的に鑑賞を行いましょう。
- ⑧ 鑑賞を通じて、多様な見方や感じ方に気づき、互いの個性のよさを大切にしましょう。
- ⑨ 鑑賞を通じて、社会における美術の役割や価値を理解しましょう。
- ⑩ 日本や諸外国の美術、伝統と文化について興味・関心を広げましょう。

※⑧⑨⑩は、記述や発言を通して第三者に伝えられるようにしましょう。

保健体育科

1 学習について

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成しましょう。

(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにしましょう。

(2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養いましょう。

(3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養いましょう。

2 学習への取り組み

(1) 授業

① 健康・安全に気を付ける

- 事故を事前に防ぐことができるよう、常に周囲の状態に気を付ける。
- 授業内の約束や先生の指示は絶対に守る。
- 自己の体調に気を配る。

② 積極的な姿勢で臨む

- 精一杯取り組み、挑戦を続けることで、自分のもつ運動能力・体力を向上させる。
- 学習内容を自分の生活に関連させて考える。
- 友人と意見交換し多様な視点から物事をとらえられるようにする。
- はっきりと大きな声で質問や発言をする。
- ノートやプリントは工夫しながらまとめる。

③ マナーを守る

- 互いの頑張りを認め合うなど、思いやりの気持ちをもって授業に臨む。
- 授業の準備、後片付けを協力して行う。
- 決まりを遵守し、勝敗に対して公正な態度で臨む。

(2) その他

- ① スポーツ、健康に関する時事問題やニュースに関心をもつ。
- ② 充実した学校生活を送るために、基本的な生活習慣を整える。

技術・家庭（技術分野）科

1 学習について

生活について見直し、課題の解決を目指し、基礎的な知識と技能を身に付け、生活を充実させる。

2 学習への取り組み

(1) 授業

- ① 自分の頭で考え、自分の手でものづくりをしましょう。
- ② どうすれば自分の思いを実現できるか、どうすればもっと良くなるのかを絶えず考えましょう。
- ③ 授業に集中しましょう。
- ④ 忘れ物をしないようにしましょう。一つの忘れ物が大きな遅れになってしまいます。
- ⑤ 授業中に配布されたプリントは必ずノートにきれいに貼っておきましょう。

(2) 課題等

- ① 提出物は期限までに必ず提出しましょう。
- ② わからないところがあれば早めに質問しましょう。

(3) 定期考査への取り組み

- ① 授業で学習したことをしっかりまとめておきましょう。
- ② 試験中はあきらめずに最後まで取り組みましょう。
- ③ 教科書・ノートを何度も読んでおきましょう。
- ④ 作業でどんなことをやったか思い出してみましょう。

(4) その他

- ① 安全には十分注意しましょう。自分だけでなく他人の安全にも十分注意しましょう。
- ② ノートや教科書等自分の物にはしっかりと名前を書きましょう。
- ③ 授業時間を大切にするために、必ずチャイムが鳴るまでに教室移動をしましょう。
- ④ 班の人と協力して作業しましょう。
- ⑤ 先生の話をよく聞くようにしましょう。
 - 講義内容を自分の生活に関連させて考える、友人と意見交換しよう。
 - 授業の内容はプリントにまとめ、すぐにノートに貼っておきましょう。
 - 教材、持ち物は忘れず、授業の準備をしっかりしよう。

技術・家庭（家庭分野）科

1 学習について

人の一生を通して家庭や生活を総合的にとらえ、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な知識を育てます。内容を精選し、生徒の発達段階に応じた指導を行っていきます。

《技術・家庭（家庭分野）で身に付けてほしいこと》

- ① 社会と家庭のつながりの中で、様々な文化を理解し、地球上に生きている人々とともに生きようとする態度
- ② 科学的な知識と技術を身に付け、生活にかかわる情報を活用し、的確に判断ができる力
- ③ 生活の中の課題を、意欲的に解決しようとする行動力

2 学習への取り組み

(1) 授業

① 講義

- 講義内容を自分の生活に関連させて考えよう。クラスメイトと意見交換しよう。
- 授業中に配布されたプリントは必ず保管し、学習の記録を作ろう。
- 教材、持ち物、宿題は忘れず、授業の準備をしっかりしよう。
忘れ物をしたときは、その日の朝に連絡をすること。

② 実習

- 事前に実習の手順を理解し予定を立てておこう。
- 実習中は安全を考えながら、協力して積極的に取り組もう。
- 実習後は結果を自分の生活に関連させて考え、次回への改善点や課題をまとめよう。

(2) 授業以外の学習

① 課題意識

- 家庭や地域での生活から様々な課題を発見しよう。

② 情報活用

- 様々な情報媒体を活用しよう。

英語

1 学習について

英語はただ授業を受けていたり、ただたくさん英語を聞いていたりするだけで、いつのまにか身に付けられるものではありません。日本語を母国語とするみなさんが、さらに英語を身につけようとするとき、赤ちゃんが歩きを覚えるように学ぼうとしてもうまくはいかないのです。英語の学習はむしろ「逆立ちで歩くことができるようになること」に似ています。一生懸命練習しなければなりません。ただ、同じ目標に向かう練習でも効率のいいやり方と悪いやり方があるので、以下の勉強の仕方を参考にして、集中して効率よく勉強して下さい。これから述べる勉強法はあくまでファースト・ステップ（1，2年生）でのものです。

2 学習への取り組み

（1）授業の前に


次に勉強するレッスンの単語の意味を確認してください。最初はテキストの巻末の **Word List** でもかまいませんが、慣れてきたら英和辞典を使うようにして下さい。そのあと本文がどんな内容か想像してみてください。


（2）授業中

先生の指示に従って、「読み」、「聞き」、「書き」、「話す」活動を積極的に行ってください。集中力が鍵になります。また、ALT や JET のネイティブの先生との授業もあります。ここでも、積極的に活動して下さい。

（3）授業後の復習

- ① まず、授業で扱ったテキストの単語、本文の意味を確認しましょう。本文の細かい訳はそれほど気にしなくてもいいので、どういう内容かを確認してください。
- ② 学習した単語をCDについて発音しましょう。授業で習った発音の仕方やアクセントの位置に注意しながら何度も発音して下さい。

dog → 犬 →  と日本語を使うのではなく

a dog  というふうに英語とイメージと一緒に浮かぶようになるといいです。

また最初からパーフェクトな発音を目指すのではなく、大きな声で発音することが大事です。少しずつCDの発音に近づくように練習して下さい。

- ③ さらにスペル（つづり）を覚えるために、発音しながら書きましょう。五感をフルに使うのが英語上達の秘訣です。
- ④ 次にテキストの本文をCDについて1回音読し、CDなしで4回音読。また同じようにCDについて1回音読、CDなしで4回音読。（もちろん、うまくいかない場合はCDを何回利用してもかまいません。）このセットを何度も繰り返して下さい。最終的にはテキストの本文をそらで言えるまで繰り返すのが理想です。
- ⑤ 次にCDを一文ずつ流しながら、ノートや紙に流れた英文を書きとって下さい。（ディクテーション）単純な作業に思えるかもしれませんが、しかしこういった勉強は、たとえば野球なら素振りに相当します。基礎体力、基礎技術を身につける部分でとても大事なものですから、こうした基礎訓練をしっかりとやって下さい。

（4）授業以外に

- ① NHKのラジオ講座の視聴を勧めます。（「基礎英語1・2・3」）ラジオ講座に関しては、集中して聴いて、放送で指示されるままに練習して下さい。継続して聴くことが大事です。
- ② 家庭での継続した学習はとても効果的です。英語専用のトレーニングノートを作り、記録シートを貼って毎日の学習に活用して下さい。トレーニングの内容は、ラジオ基礎英語の視聴、**Key Points** や単語などの音読筆写、多読などです。1，2年生は毎日30分程度（年間で180時間）、3年生は毎日45分（年間270時間）が目標です。

年間の指導計画と評価規準 〈前期課程〉

令和8年度 <1学年 国語科> 年間指導計画

週時数	4時間
使用教科書	国語1 (光村図書)
使用補助教材	国語 活用資料集 東京都版 (新学社) 新 基礎の学習 国語1年 (新学社) すらすら基本文法 (浜島書店)

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・文化の源となる国語教育という視点に立ち、「ことば」の働き・成り立ちに興味関心を持ち、言語文化を深く理解し尊重する態度を育てる。 ・社会において「ことば」を正しく、主体的に使い、自己の考えを適切に表現できる能力を育てる。他者の考えを的確に受け止め、自分と異なる意見を理解し、物事を論理的に思考することのできる言語力を育てる。 ・読書を通して新たな知識を得る喜びを味わい、主体的に学ぼうとする態度を育てる。

評価の観点と方法・材料

定期考査、小テスト、提出物(ノート、ワークシート、課題等)、授業での観察(発言、発表、取り組み等)等

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	・朝のリレー ・野原はうたう	3	・音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。	・目的や意図に応じて、生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。	・音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読している。
		・声を届ける書き留める言葉を調べる続けてみよう	6	・聞き手を意識して速さ、声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを工夫している。	・日常生活やこれまでに読んだ本の中から題材を決め、情報を整理している。	・進んで日常生活の中から題材を決め、これまでの学習を生かしている。
		・はじまりの風	4	・登場人物の心情や行動を表す言葉に着目して作品を読み進めている。	・場面ごとに会話や描写を整理して、登場人物の心情や関係の変化を捉えている。	・場面の展開について、描写を基に積極的に捉え、学習課題に沿って感想を交流しようとしている。
	5	・情報整理のレッスン ・情報を整理して書こう	5	・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。	・相手を意識して、情報を集めて整理し、説明の文章の構成を考えている。	・学習課題に沿って、積極的に情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。
		・漢字1 漢字の組み立てと部首 ・漢字に親しもう1	1	・漢字の組み立てと部首について理解し、漢和辞典を使って調べている。	・学年別漢字配当表の漢字を書き、文や文章の中で使っている。	・課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
		・ダイコンは大きな根?	3	・本文中で比較がどのように使われているかを理解している。	・「問い」と「答え」から中心的な部分を捉え、筆者の主張を理解している。	・文章の中心的な部分と付加的な部分について積極的に捉え、学習課題に沿って筆者の工夫を伝え合おうとしている。
	6	・ちょっと立ち止まって	4	・筆者の主張と事例との関係を理解している。	・序論・本論・結論の段落のまとまりに着目し、要旨を捉えている。	・進んで要旨を把握し、考えたことを伝え合おうとしている。
		・思考のレッスン1 意見と根拠 ・話の構成を工夫しよう	1 3	・説得力のある根拠や、意見と根拠の結び付きについて理解している。	・聞き手を意識して話題を決め、話の内容を選んで整理している。	・学習課題に沿って積極的に意見と根拠の関係について理解している。
		・漢字に親しもう2	2	・中学校で学習する漢字の読み方について理解している。	・学年別漢字配当表の漢字を書き、文や文章の中で使っている。	・課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
	7	・情報を集めよう 情報を読み取ろう 情報を引用しよう	3	・グラフや文章の中の情報を関連づけて情報を整理し、引用のしかたを理解している。	・目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。	・引用のしかたや出典の示し方について積極的に理解を深めている。
		・比喻で広がる言葉の世界	2	・文中で使われている表現の意味を理解している。	・各段落の役割を理解し、要旨を捉えている。	・今までの学習を生かして、積極的に事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使おうとしている。
		・言葉を集めよう もっと「伝わる」表現を目ざして	2	・似た意味の言葉や修飾する言葉を考え、伝えたいことに合う的確な言葉を探している。	・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。	
2	9	・大人になれなかった弟たちに……	4	・作品の時代背景や、その中で暮らす人々の生活苦を理解している。	・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。	・登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習の見通しをもっている。
		・星の花が降るころに	4	・様子や動きを何かにたとえた表現を探し、どのような情景や心情をたとえているのか考えている。	・場面ごとの状況や、場面と人物などの描写を結び付けて、内容を読み深めている。	・進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈し、学習の見通しをもって考えを伝え合おうとしている。
		・聞き上手になろう 質問で話を引き出す	2	・音声の働きや仕組みについて理解を深めている。	・質問のしかたを工夫し、対話をしながら話を理解している。	・今までの学習を生かして話を引き出そうとしている。
2	9	・項目を立てて書こう 案内文を書く	3	・情報を項目ごとに整理することを理解し、案内文の作成に生かしている。	・伝えたい事柄・相手に応じて、必要な情報が明確に伝わるように、項目ごとに整理して案内文を書いている。	・集めた材料を積極的に理解し、学習課題に沿って案内文を書くようとしている。

10	11	・漢字に親しもう2	1	・漢字の組み立てと部首について理解し、漢和辞典を使って調べている。	・学年別漢字配当表の漢字を書き、文や文章の中で使っている。	・課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。	
		・「言葉」をもつ鳥、ジジュウカラ	6	・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。	・筆者の意見と、それを支える根拠との関係を考えている。	・文章の構成や展開について粘り強く考え、文章にまとめている。	
		・思考のレッスン2 原因と結果 ・根拠を示して説明しよう	2 4	・原因と結果がどうつながっているか整理し、二つの関係について理解している。	・自分の考えに説得力をもたせるようなレポートの構成を考えている。	・積極的に原因と結果の関係について理解しようとしている。	
	12	11	・漢字に親しもう3	2	・中学校で学習する漢字の読み方について理解している。	・学年別漢字配当表の漢字を書き、文や文章の中で使っている。	・課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
			・音読を楽しもう いろは歌 ・古典の世界 蓬萊の玉の枝 ―「竹取物語」から	1 5	・言葉の調子や間の取り方などを意識して音読している。	・登場する人々の関係や思いに着目して読み、現代の自分たちと比べ、古典の世界と現代の人々に共通する部分を考えている。	・進んで古文を音読し、学習課題に沿って描かれている古典の世界を想像しようとしている。
		・今に生きる言葉 故事成語	4	・音読に必要な文語のきまり、漢文特有のリズムや言い回しなどについて理解している。	・基になった故事を調べ、どんな意味に使われるようになったか説明している。	・積極的に漢文を音読し、今までの学習を生かして故事成語を使った文章を書こうとしている。	
		・「不便」の価値を見つめ直す ・根拠を明確にして、意見をまとめよう	4	・情報の整理のしかたを理解し、自分の考えをまとめるときに要約や引用を明確に示している。	・賛成か反対か、立場を明確にして、筆者の主張に対する自分の考えをまとめている。	・積極的に必要な情報に着目して要約し、自分の考えを文章にまとめようとしている。	
		・漢字に親しもう4	1	・中学校で学習する漢字の読み方について理解している。	・学年別漢字配当表の漢字を書き、文や文章の中で使っている。	・課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。	
		・君たちはどう生きるか 読書案内 本の世界を広げよう	1	・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。	・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。	・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを積極的に理解している。	
		3	1	・少年の日の思い出 別の人物の視点から 文章を書き換えよう	5	・場面描写の言葉や登場人物の心情を表す言葉に着目している。	・時間・場所・出来事・語り手に着目して作品の構成や展開を捉えたり、具体的な表現を挙げてその効果について自分の考えをまとめている。
・漢字に親しもう5	2			・中学校で学習する漢字の読み方について理解している。	・学年別漢字配当表の漢字を書き、文や文章の中で使っている。	・課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。	
2	・随筆二編		4	・語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	・場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈している。	・場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈し、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。	
	漢字3 漢字の成り立ち 漢字に親しもう6		2	・中学校で学習する漢字の読み方について理解している。	・学年別漢字配当表の漢字を書き、文や文章の中で使っている。	・課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。	
	・一年間の学びを振り返ろう 要点をまとめ発表する		5	・情報の整理のしかたを理解し、要点をわかりやすくまとめている。	・「観点」に見合った情報を集め整理し、内容が伝わる端的な言葉を用いている。	・集めた材料を積極的に整理し、要点をまとめ、発表しようとしている。	
・さくらの はなびら	2		・詩に用いられている表現の技法を理解し使っている。	・詩の解釈を通して理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。	・文章を読んで理解したことに基づいて、積極的に自分の考えを確かなものにし、考えたことを伝え合おうとしている。		
通年	随時	・口語文法	10	・文法の必要性を知り、言葉の単位とその働きについて理解している。	・漢字語彙の拡充及び口語と文語の文法を適切に使う力をつけている。	・単語の類別を理解するために、積極的に文の組み立てについて理解しようとしている。	
		・書写	20	・楷書・仮名・行書の筆づかいと字形を学び、調和を考えて書くことができる。	・筆づかいや字形について、互いに評価しあいながら、交流している。	・読む人をイメージし、言葉にふさわしい字を書こうとしている。	
		・読書マラソンのまとめと展開	6	・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。	・ものの見方や考え方が表れている部分に線を引き、自分の理解を確かなものにしていく。	・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを進んで理解し、本の魅力を伝え合おうとしている。	
年間授業時数			140				

令和8年度 <2学年 国語科> 年間指導計画

週時数	4時間	目標 ・文化の源となる国語教育という視点に立ち、「ことば」の働き・成り立ちに興味関心を持ち、言語文化を深く理解し尊重する態度を育てる。 ・社会において「ことば」を正しく、主体的に使い、自己の考えを適切に表現できる能力を育てる。他者の考えを的確に受け止め、自分と異なる意見を理解し、物事を論理的に思考することのできる言語力を育てる。 ・読書を通して新たな知識を得る喜びを味わい、主体的に学ぼうとする態度を育てる。
使用教科書	国語2 (光村図書)	
使用補助教材	国語 活用資料集 東京都版 (新学社) 新 基礎の学習 国語2年 (新学社) すらすら基本文法 (浜島書店) 常用漢字ダブルクリア五訂版	

評価の観点と方法・材料

定期考査、小テスト、提出物(ノート、ワークシート、課題等)、授業での観察(発言、発表、取り組み等)等

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準			
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度	
1	4	・見えないだけ	2	・詩の中に出てくる好きな言葉や表現を、理由と共にまとめている。	・抽象的な概念を表す語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。	・進んで語感を磨き、今までの学習を生かして朗読しようとしている。	
		・アイスブラネット	5	・登場人物の心情や考え方が表れた語句に注意して、作品を読んでいる。	・登場人物の言動から特徴を捉え、他の人物との関係を人物相関図にまとめている。	・登場人物の設定のしかたなどを捉え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。	
	5	・枕草子 自分流「枕草子」を書こう	6	・現代語訳や語注を手掛かりに「枕草子」を読み、作者のものの見方や考え方を捉えている。	・目的や意図に応じて、生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。	・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分ならではの季節感を表す文章を書こうとしている。	
		・情報整理のレッスン 思考の視覚化 ・多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る	5	・情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。	・知りたいことに適した方法を考え、情報を収集している。また、収集した情報を整理し、自分の目的に合うものを取捨選択している。	・学習課題に沿って、積極的に情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使おうとしている。	
		・漢字1 熟語の構成 ・漢字に親しもう1	1	・中学校で学習する漢字の読み方について理解している。	・学年別漢字配当表の漢字を書き、文や文章の中で使っている。	・課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。	
		・クマゼミ増加の原因を探る	6	・文章の構成を理解し、線や矢印を用いてそれらの関係を整理している。	・文章中の図表やグラフが何のために示されているのかを、対応する文章を基に考えている。	・積極的に文章と図表などを結び付け、学習の見通しをもって考えたことを話し合おうとしている。	
		・思考のレッスン1 具体と抽象 ・魅力的な提案をしよう 資料を示してプレゼンテーションをする	5	・複数の情報をまとめて抽象化したり、具体例を挙げて言葉の意味を説明したりしている。	・自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫することができる。	・学習課題に沿って、積極的に具体と抽象の関係について理解しようとしている。	
	7	・メディアを比べよう メディアの特徴を生かして情報を集めよう	3	・情報メディアの特徴を、表や図などにまとめている。	・同一の話題について書かれた複数の情報メディアを比較し、それぞれ特徴について考えている。	・観点を明確にして文章を比較し、目的や状況に応じたメディアの選び方を理解しようとしている。	
		・言葉の力	3	・本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。	・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。	・進んで文章を読み理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。	
		・表現を工夫して書こう 手紙や電子メールを書く	3	・敬語の働きについて理解し、文章の中で使っている。	・具体例を加えたり、表現の効果を考え描写したりし、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫している。	・自分の考えが伝わる文章になるよう積極的に工夫し、学習課題に沿って通信文を書こうとしている。	
	2	9	・聞き上手になろう 質問で思いや考えを引き出す	2	・言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気付いている。	・論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。	・論理の展開に注意して聞き、今までの学習を生かして思いや考えを引き出す質問をしようとしている。
			・盆土産	5	・抽象的な概念を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	・登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈している。	・登場人物の言動の意味について考え、作品の印象を伝え合おうとしている。

2	10	・モアイは語る —地球の未来	5	・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。	・文章の構成や論理の展開について考えている。	・論理の展開について考え、筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめようとしている。
		・思考のレッスン2 根拠の吟味	2	・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。	・文章の構成や論理の展開について考えている。	・課題に沿って、意見と根拠の関係について理解しようとしている。
		・源氏と平家 音読を楽しもう	2	・作品の特徴を生かして朗読し、古典の世界に親しんでいる。	・作品に登場する人々の関係や思いに着目して読んでいる。	・古典に表れたものの見方や考え方を知り、朗読しようとしている。
	11	・扇の的 —「平家物語」から	6	・現代語訳や語注等を手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を理解している。	・登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈している。	・登場人物の言動の意味について進んで考え、課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
		・仁和寺にある法師 —「徒然草」から	5	・現代語訳や語注等を手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を理解している。	・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。	・考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを書こうとしている。
		・漢字に親しもう2	1	・中学校で学習する漢字の読み方について理解している。	・学年別漢字配当表の漢字を書き、文や文章の中で使っている。	・課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
		・君は「最後の晚餐」を知っているか ・「最後の晚餐」の新しさ	5	・情報と情報の関係の様々な表し方を理解し使っている。	・目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈している。	・観点を明確にして文章を比較し、考えたことを文章にまとめようとしている。
3	1	・走れメロス	7	・抽象的な概念を表す語句や多義的な意味を表す語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	・登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈し、根拠の適切さを考えて自分の考えの伝わる文章を書こうとしている。	・登場人物の言動の意味などについて考え、作品の魅力を文章にまとめようとしている。
		・漢字に親しもう3	1	・中学校で学習する漢字の読み方について理解している。	・学年別漢字配当表の漢字を書き、文や文章の中で使っている。	・観点を明確にして文章を比較し、考えたことを文章にまとめようとしている。
	2	・構成や展開を工夫して書こう 「ある日の自分」の物語を書く	4	・話や文章の構成や展開について理解を深めている。	・表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章の良い点や改善点を見出している。	・文章の構成や展開を工夫し、物語を創作しようとしている。
	3	・漢詩の風景	5	・漢文特有の言葉遣いや調子を意識して朗読している。	・観点を明確にして漢詩を比較し、漢詩の構成や表現の効果について考えている。	・作品の特徴を生かして朗読し、進んで漢詩について理解しようとしている。
		・木	2	・抽象的な概念を表す語句の量を増やし、章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	・自分の知識や経験と結び付けて、作者のものの見方について考えている。	・詩を読んで理解したことや考えたことについて、進んで話し合おうとしている。
通年	随時	・口語文法	25	・文法の必要性を知り、言葉の単位とその働きについて理解している。	・漢字語句の拡充及び口語と文語の文法を適切に使う力をつけている。	・単語の類別を理解するために、積極的に文の組み立てについて理解しようとしている。
		・書写	20	・行書と仮名を調和させて書くことができ、全体がバランスよく配置されている。	・筆づかいや字形について、互いに評価しあいながら、交流している。	・行書と仮名の調和を考え、文字の大きさに注意して書こうとしている。
		・読書マラソンのまとめと展開	4	・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。	・ものの見方や考え方が表れている部分に線を引き、自分の理解を確かなものにしていく。	・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを進んで理解し、本の魅力を伝え合おうとしている。
年間授業時数			140			

令和8年度 <3学年 国語科> 年間指導計画

週時数	4時間
使用教科書	国語3 (光村図書)
使用補助教材	国語 活用資料集 東京都版 (新学社) 新 基礎の学習 国語3年 (新学社) 古文単語330 (いっぴな書店) 新明説漢文 (尚文出版) 新常用漢字必携パーフェクトクリア (尚文出版)

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活の中で目的や場面に応じ、相手の立場や場に応じて話す能力、表現の工夫を評価して聞く能力、課題の解決に向けて話し合う能力を身につけると共に、話したり聞いたりして考えを深めようとする態度を育てる。 ・目的や意図に応じ、論理の展開を工夫して書く能力を見つけさせ、文章を書いて考えを深めようとする態度を育てる。 ・文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む能力を身につけさせ、読書を通じて自己を向上させようとする態度を育てる。

評価の観点と方法・材料

定期考査、小テスト、提出物(ノート、ワークシート、課題等)、授業での観察(発言、発表、取り組み等)等

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準			
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度	
1	4	・詩「世界は美しいと」	1	・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。	・印象に残る表現を抜き出し、その効果や工夫について考えることができる。	・表現の特徴や作者の思いを捉え、自分の考えをもととしている。	
		・漢字に親しもう1 ・意見を聞き、適切さを判断する ・スピーチで心を動かす	3	・文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることができる。	・目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができる。	・学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしている。	
		・握手	4	・作品に使われている言葉の意味を調べたり、比喩表現に着目したりして、作品を読み深めている。	・抽象的な概念を表す語句などを用いて、人物像を読み取っている。	・作品を読み、そのよさや特徴について、自分の考えを深めている。	
	5	・学びて時に之を習ふ —「論語」から ・漢文の訓読	4 2	・教材の書き下し文や訓読文を読むことができる。	・人間の生き方に関する孔子の考え方を、自分の生き方や生活と関連づけて考えている。	・積極的に自分の意見を持ち、今までの学習を生かして考えている。	
		・作られた「物語」を超えて ・思考のレッスン 具体化・抽象化	4 1	・具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。	・「意見と根拠」「原因と結果」「具体と抽象」などの論理の展開を捉えている。	・学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。	
		・論理の展開を意識して書こう	4	・資料から得られた事実とその解釈を基に考えたことを、自分の言葉で書いている。	・目的や意図に応じて、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。	・粘り強く考え、学習課題に沿って説得力のある文章を書こうとしている。	
		・俳句の可能性 ・俳句を味わう	4 4	・語句の効果的な使い方に注意し、語感を磨き語彙を豊かにしている。	・俳句の約束事を理解し、俳句に込められた作者の思いや情景を読み味わっている。 ・語順や表現のしかたに注意して、自分の思いや感動を俳句に表現している。	・俳句の形式に興味をもち、表現上の特徴を生かして俳句を作ろうとしている。	
	6	・言葉の釣り糸を垂らす ・実用的な文章を読もう 報道文を比較する ・情報の信頼性 ・読書を楽しむ	2 2 1 2	・文章中の語句・表現から、印象に残ったものを挙げ、その理由や効果について考えている。	・文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。	・筆者のものの見方や考え方を積極的に読み取っている。	
		・「私の一冊」を探しにしよう	2	・さまざまな読書の楽しみ方について理解し、読書活動を通して、読書の楽しさや意義を発見している。	・登場人物の生き方、作品に描かれた時代、社会状況などについて、自分の意見を持っている。	・読書の意義と効用について理解し、学習の見直しをもって読書を楽しむ活動に参加している。	
		7	・詩「挨拶」	3	・詩の一語一語を注意して読み、語感を磨き語彙を豊かにしている。	・比喩や象徴的な表現に着目し、作者の思いを読み取っている。作品に込められた思いを、詩の世界と現実の世界の在り方とを重ね合わせながら考え、自分の言葉で説明している。	・作品を読み、作者のものの見方や考え方について自分なりに考えようとしている。
			・故郷	6	・作品中の漢語表現に注意して読み、語感を磨き語彙を豊かにしている。	・場面や登場人物の設定を表す語句や表現に着目し、登場人物の心情を読み取っている。 ・時代や社会の変化の中での人と人との関わりについて、自分の考えをもっている。	・作品を読み、人と人との関わりについて考えようとしている。
		2	9	・詩「挨拶」	3	・詩の一語一語を注意して読み、語感を磨き語彙を豊かにしている。	・比喩や象徴的な表現に着目し、作者の思いを読み取っている。作品に込められた思いを、詩の世界と現実の世界の在り方とを重ね合わせながら考え、自分の言葉で説明している。
			・故郷	6	・作品中の漢語表現に注意して読み、語感を磨き語彙を豊かにしている。	・場面や登場人物の設定を表す語句や表現に着目し、登場人物の心情を読み取っている。 ・時代や社会の変化の中での人と人との関わりについて、自分の考えをもっている。	・作品を読み、人と人との関わりについて考えようとしている。

2	9	・論理の展開を整える ・慣用句・ことわざ・故事成語	3 2	・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。	・目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えることができる。	・目的や意図に応じた表現になっているかを粘り強く確認して推敲している。	
		・質問で相手の思いに迫る ・複数の意見を読んで、考えよう ・考えを効果的に伝えよう	1 3 5	・敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。	・話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりしている。	・今までの学習を生かして質問したり評価を述べたりしている。	
		・古今和歌集 仮名序 ・君待つと 万葉・古今・新古今	2 6	・現代語訳や脚注、出典欄などを基に、歴史的な背景に注意して和歌を読んでいる。	・和歌の表現技法や語句の使い方について読み、感想をもっている。 ・脚注を参考にしながら古人の心情や情景を読み取り、和歌に対して自分の考えをもっている。	・それぞれの和歌集に興味をもち、和歌に表れた古人の心情や情景について現代語訳を基に想像しようとしている。	
	10	11	・夏草 奥の細道	6	・歴史的背景を踏まえながら作品を読んだり、古典の一節を引用した文章を書いたりして、古典の世界に親しんでいる。	・作品の表現のしかたや文体の特徴に着目しながら読んでいる。 ・芭蕉の感じたことを踏まえながら、選んだ俳句が心に響いた理由を述べている。	・俳句に込められた芭蕉の思いを考えようとしている。
			・つながる古典	4	・古典の知識に触れ、その世界に親しんでいる。	・古典には人の姿やさまざまな世界が描かれていることを理解している。	・古典のさまざまな作品に関心をもとうとしている。
		・それでも、言葉を	4	・抽象的な概念を表す語句について、言葉の意味を辞書などで確かめ、具体的な事例を挙げている。	・文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。	・文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。	
		・話し合いを効果的に進めよう	2	・話し合いという場を意識し、適切な言葉遣いをしている。	・社会生活の中から話題を決めて資料などを活用して提案し、話し合いを通して自分のものの見方や考え方を深めている。	・自分が取り組みたい課題を考えようとしている	
3	1	・説得力のある文章を書こう	4	・自分の意見を効果的に表現するために、批評するときの言葉を適切に使っている。	・分析のための観点を示し、判断や批評の根拠を明確にし、資料を適切に引用して、説得力のある構成で批評文を書いている。	・社会生活の中の事柄について、自分の意見を明確にして批評文を書こうとしている。	
		・温かいスープ	3	・文章に表現された人と人との関係を通して、国際性とは何かを読み取っている。	・自分の生き方と作品に表現された考え方を比較して、自分の考えをまとめている。	・人間、社会などについて進んで自分の意見をもち、考えを伝え合っている。	
		・アラスカとの出会い	3	・一枚の写真との出会いが筆者の人生においてどのような意味をもっていたのか、読み取ることができる。	・電車から家族の団欒を見たときの経験から、筆者が何を伝えようとしているのか、読み取っている。	・人間、社会などについて進んで自分の意見をもち、考えを伝え合っている。	
	・詩「わたしを束ねないで」	3	・語感を磨き語彙を豊かにしている。	・詩における語句の効果的ない方や表現の工夫に注意して読み、自分の可能性や生き方などについて考え、自分の意見をもっている。	・現の特徴や作者の思いを捉え、自分の考えをもとうとしている。		
通年	随時	・語句・語法 ・口語文法・文語文法	4 12	・文法の必要性を知り、言葉の働きについて理解している。	・漢字語彙の拡充及び口語と文語の文法を適切に使う力をつける。	・単語の類別を理解するために、積極的に文の組み立てについて理解しようとしている。	
		・書写	20	・楷書、行書への理解を深め、様々な書き方を理解する。	・場面や目的に応じた書き方を工夫し、表現する。	・手本を参考としてよりよい書き方となるよう工夫して実践できている。	
		・読書マラソンのまとめと展開	6	・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。	・ものの見方や考え方が表れている部分に線を引き、自分の理解を確かなものにしている。	・さまざまな分野の本に興味を持って読書の世界を広げようとしている。	
年間授業時数			140				

令和8年度 <1学年 文化科学I> 年間指導計画

週時数	1
使用教科書	
使用補助教材	国語 活用資料集 東京都版(新学社)

目標
<ul style="list-style-type: none"> 読解力、表現力、コミュニケーション能力の基礎を養う。 考えるための読解力・社会的リーダーとして必要な心情的理解力の養成に重点を置く。 学習を通して自他について主体的に思考する力を身に付ける。

評価の観点と方法・材料
発表・ワークシート・作文・レポート等

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	スピーチ 「私のお気に入り」 ・自己紹介を兼ねて、自分のお気に入りのものについてスピーチをする。	4	・人に届きやすい声でスピーチを話している。	・わかりやすいスピーチの構成を作っている。	・スピーチ内容について、意欲的に考えている。 ・人のスピーチを、意欲的に聴いている。
	5					
	6	書くことの基礎 論理のしくみ ・言葉遣い、主語と述語の対応、修飾語の位置、呼応の副詞などの使い方に気を付けて文を構成する。	6	・正しい文の組み立てを理解している ・接続詞の役割について知識を整理できている。	・主語や述語の関係、接続詞の使い方などに気を付けて文を書くことができる。	・読みやすい文を意欲的に書いている。
	7	・具体と抽象や、言葉の対比関係を理解して文を構成する。				
2	9	ビブリオバトル ・これまでに行った読書の中から、級友に勧めたい1冊を選び、その内容を既習事項や他の教科等と関連させながら紹介する。	5	・発表方法について基礎的な知識を身につけている。	・わかりやすく効果的な発表をしている。 ・自分のおすすめの本について、工夫してプレゼンテーションを行っている。	・おすすめの本について、周囲と交流させて考えを深めようとしている。 ・周囲との交流から、さらに発展的な読書活動に結び付けようとしている。 ・読書の喜びを共有し、今後の読書活動について考えを深めている。
	10	論理の利用 論理の実践① ・テーマについて、根拠や具体例を挙げて文を書く。 ・対比して立場を選び、反論を想定して文章を構成する。	6	・根拠とは何かを理解している。 ・具体例とは何かを理解している。 ・対比という概念を理解している。	・テーマについて、根拠や具体例をあげることができる。 ・テーマについて反論を想定することができる。	・説得力のある文章を意欲的に描こうとしている。 ・テーマについて対比して立場を選ぶことができる。
	11					
	12	百人一首 ・百人一首を覚え、親しむ。	3	・百人一首について、基礎的な知識を理解している。	・1番～50番までの歌の上の句から、下の句を理解している。	・意欲的に百人一首の暗誦や、鑑賞などの活動を行っている。
3	1	発表活動 ・課題を見出し、グループやクラス全体での話し合いを行う。	3	・話し合いの進め方を理解している。	・周囲と協力して、言いたいことを明らかにしながら発表の内容を創り上げることができる。	・人前でわかりやすい発表をすることについて、興味を持って理解しようとしている。
	2					
	3	論理の実践② ・資料を読み取ったうえで、文章を書く。	3	・資料の内容を読み取ることができる。	・様々な図やグラフの特徴を理解している。 ・複数の資料を比較して考察することができる。	・資料に何が書かれているかを、意欲的に読み取り、そのうえで文章を書こうとしている。
年間授業時数			30			

令和8年度 <1学年 社会科 (歴史的分野)> 年間指導計画

週時数	3
使用教科書	<地理的分野> 新しい社会 地理 (東京書籍) <歴史的分野> 中学歴史 日本と世界 (山川出版社)
使用補助教材	<地理的分野> 図説地理資料世界の諸地域 NOW (帝国書院) 中学校社会科地図 (帝国書院) 新中学問題集 地理Ⅰ・Ⅱ (教育開発出版) <歴史的分野> 東京都版資料カラー歴史 (浜島書店) 新中学問題集 歴史Ⅰ (教育開発出版)

目標
<ul style="list-style-type: none"> 我が国の地理的・歴史的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の国土の地域的・歴史的特色を考察し理解させ、地理的・歴史的な見方や考え方の基礎を培い、我が国の国土に対する認識を養う。 国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を、その時代や地域との関連において理解させ、尊重する態度を育てる。 歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせるとともに、他民族の文化、生活などに関心をもたせ、国際協調の精神を養う。 具体的な事象の学習や身近な地域の地理や歴史の学習を通して、地理や歴史に対する興味や関心を高め、様々な資料を活用して事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

評価の観点と方法・材料
定期考査、レポート、提出物(ノート、ワークシート、課題など)、授業での観察(発表、授業の取り組みなど) 評価は地理的分野の日本地理、歴史的分野のみで行うのではなく、地理的分野の世界地理と合わせて行う。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	世界の地域構成 ・地球儀や世界地図の活用。緯度と経度。大陸と海洋の分布。主な国々の名称と位置。地域区分。世界の地域構成の大観。大まかな世界地図の描図。	10	・世界の地域構成を地球上の位置関係と水陸の分布、国々の構成と地域区分を基に理解し、その知識や技能を身に付けている。	・世界の地域構成を地球上の位置関係と水陸の分布、国々の構成と地域区分を基に多面的・多角的に考察している。	・生活舞台としての地球に対する関心を高め、地球上の位置関係と水陸の分布、国々の構成と地域区分を主体的に追究し、世界の地域構成をとらえようとしている。
	5	世界各地の人々の生活と環境 ・世界各地の人々の生活の様子を考察を行う。その際、衣食住の特色や生活と宗教とのかかわりなどに着目する。	16	・世界各地の人々の生活や環境が多様で、その暮らしが変化していくのは、自然的条件や社会的条件によることを理解している。 ・世界各地の多様な生活や文化、自然環境などについて、地球儀や世界地図を用いて示すことができる知識や技能を身に付けている。	・世界各地の人々の生活と環境の多様性について、自然的条件および社会的条件と関連付けて、自分たちとの生活と比較しながら考察し、その過程と結果を適切に表現している。	・世界各地の人々の生活と環境の多様性について、自然的条件および社会的条件と関連付けて主体的に追究し、とらえようとしている。 ・世界の人々の生活の多様性を生み出している自然的条件および宗教や伝統的文化などの社会的条件に対して関心を高めている。
	6	世界の様々な地域の調査 ・適切な主題を設けて、調査を行う際の視点や方法を身に付ける。	5		・世界の様々な地域の調査を行う際の視点や方法を多面的・多角的に考察し、調査活動の過程やその結果を適切に表現している。	・設定した課題の解決に向けて、世界の様々な地域の調査を行う際の視点や方法をもとに地域を調査し地域的特色を明らかにすることに関心を高め、それを主体的に追究し捉えようとしている。
2	9	調査の発表 ・学習した内容を活用して、各々が調べた地域について大観し表現する活動を通して、地域の特色をとらえる。	3			・世界の国々に関する地図や統計その他の資料を用いた調査に主体的に取り組んでいる。

		歴史への招待 ・歴史を学ぶということ。 年代や時代区分を確認。	1	・歴史を学ぶのに必要な基本的な知識や技能を身につけている。		・歴史の流れに対する関心を高め、主体的に追究しようとしている。
10		原始と古代の日本と世界 ・世界の古代文明や宗教のおこり。日本列島での農耕の広まりと生活の変化。大和朝廷による統一と東アジアとのかかわり。世界の各地で文明が築かれ、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていった過程について学ぶ。	24	・人類の出現、古代文明の発生、日本列島における人々の生活の変化、国家が形成されていく過程のからましを、我が国の歴史とかがわる東アジアの歴史を背景に理解し、その知識や技能を身に付けている。 ・国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことを、我が国の歴史とかがわる東アジアの歴史を背景に理解し、その知識や技能を身に付けている。	・人類の出現、古代文明の発生、日本列島における人々の生活の変化国家が形成されていくあらましに対して多面的・多角的に考察している。 ・古代の文化の特色を代表的な事例を取り上げて多面的・多角的に考察している。	・人類の出現、古代文明の発生、日本列島における人々の生活の変化国家が形成されていく過程のあらましに対する関心を高め、主体的に追究し、文化遺産を尊重しようとする。 ・国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことに対する関心を高め、主体的に追究し、文化遺産を尊重しようとする。
11						
12		中世の日本 ・鎌倉幕府の成立。南北朝の争乱と室町幕府。東アジアの国際関係。応仁の乱後の社会的な変動。武家政治の特色。武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界と密接にかかわっていった過程について学ぶ。	20	・武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きを、我が国の歴史とかがわる東アジア世界の歴史を背景に理解し、その知識や技能を身に付けている。	・武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きから課題を見だし、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察している。	・武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きに対する関心を高め、主体的に追究し、文化遺産を尊重しようとする。
3	1	日本の地域構成 ・地球儀や地図の活用。我が国の国土の位置。世界各地との時差。領域の特色と変化。地域区分。日本の地域構成の大観。都道府県の名称と位置。都道府県庁所在地名について学ぶ	8	・日本の地域構成を日本の位置と領域、都道府県の構成と地域区分を基に理解し、その知識や技能を身に付けている。	・日本の地域構成を日本の位置と領域、都道府県の構成と地域区分を基に多面的・多角的に考察している。	・日本の国土に対する関心を高め、日本の位置と領域、都道府県の構成と地域区分を主体的に追究し、日本の地域構成をとらえようとしている。
	2					
	3	世界と比べた日本の地域的特色 ・世界的視野や日本全体の視野から見た日本の地域的特色。我が国の国土の特色の様々な面からの大観を行う。 (ア) 自然環境 (イ) 人口 (ウ) 資源・エネルギー (エ) 地域間の結びつき	18	・世界的視野と日本全体の視野に立って様々な面からとらえた日本の国土の特色とともに、地域間を比較し関連付けて地域的特色を明らかにする視点や方法を理解し、それらの知識や技能を身に付けている。	・日本の国土の特色を世界的視野と日本全体の視野に立って様々な面から追究するとともに、地域間を比較し関連付けて地域的特色を明らかにする視点や方法を考察している。	・日本の国土の特色に対する関心を高め、それを世界的視野と日本全体の視野に立って様々な面から主体的に追究し、我が国の国土の特色をとらえようとしている。
		年間授業時数	105			

令和8年度 < 1学年 社会科（地理的分野） > 年間指導計画

週時数	1
使用教科書	新しい社会 地理（東京書籍）
使用補助教材	図説地理資料世界の諸地域 NOW（帝国書院） 中学校社会科地図（帝国書院） 新中学問題集 地理 I（教育開発出版）

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ・日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。

評価の観点と方法・材料
定期考査、提出物（ノート、ワークシート、課題など）、授業での観察（発表、授業の取り組みなど）
評価は地理的分野の世界地理のみで行うのではなく、地理的分野の日本地理、歴史的分野と合わせて行う。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	世界各地の人々の生活と環境 ・世界各地の人々の生活の様子を考察する。衣食住の特色や生活と宗教とのかかわりなどに着目する。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し理解している。 ・我が国の国土の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色などを基に、日本の地域構成を大観し理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布や主な国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。 ・日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界と日本の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
	5	・世界の主な宗教に関して、キリスト教、仏教、イスラム教などの分布について理解する。				
	6	アジア 【主題】人口急増と多様な民族・文化 ・自然や産業など基礎的なことを身に付ける。	8	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の環境条件や他の地域との結びつきなどと人間の営みとのかかわりに着目してとらえた世界の国々の地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。 ・国家規模の地域的特色を地図や統計その他の資料を用いてとらえる視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法を理解し、その知識を身に付けている。 ・世界の国々に関する地図や国家単位の統計その他の資料を収集している。 ・世界の国々の地域的特色をとらえるために、地図の読み取り、統計のグラフ化 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の国々の諸事象を位置や空間的な広がりとのかかわりでとらえ、地理的事象として見いだしている。 ・世界の国々の地理的事象を基にして適切な課題設定をしている。 ・世界の国々の地理的事象を基にして設定した課題を、地域の環境条件や他地域との結びつきなどと人間の営みとのかかわりに着目 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の諸地域について、その地域的特色を、「自然環境」、「人口」、「資源や産業」、「生活・文化」、「地域間の結びつき」の五つの観点から主体的に追究しようとしている。 ・世界の国々と諸地域に関する地図や統計その他の資料を用いた調査に主体的に取り組んでいる。 ・世界の国々の地理的事象から見いだした課題を基に世界の国々の地域的特色を主体的に捉えようとしている。
7	・人口急増地域の分布、産業発展と人々の生活のかかわり、民族や宗教分布、宗教と生活のかかわりなどを追究する。					
2	9	アジア 【主題】人口急増と多様な民族・文化 ・自然や産業など基礎的なことを身に付ける。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の国々の地理的事象を基にして設定した課題を、地域の環境条件や他地域との結びつきなどと人間の営みとのかかわりに着目 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の国々の地理的事象を基にして設定した課題を、地域の環境条件や他地域との結びつきなどと人間の営みとのかかわりに着目 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の国々の地理的事象から見いだした課題を基に世界の国々の地域的特色を主体的に捉えようとしている。
	10	・人口急増地域の分布、産業発展と人々の生活のかかわり、民族や宗教分布、宗教と生活のかかわりなどを追究する。				

	11	<p>アフリカ</p> <p>【主題】モノカルチャーと人々の生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然や産業など基礎的なことを身に付ける。 ・モノカルチャー経済下の人々の生活について考える。 	3	<p>や地図化などを通して、学習に役立つ情報を適切に選択して活用している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の国々の地域的な特色を追究し考察した過程や結果を地図化したり報告書にまとめたり、発表したりしている。 	<p>して多面的多角的に考察している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家規模の地域的特色をとらえる課題を追究するための視点や方法を適切に判断し、選択している。
	12	<p>ヨーロッパ</p> <p>【主題】EUの発展と地域間格差</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然や産業など基礎的なことを身に付ける。 ・EUを構成する国の相互関係や域内の地域間格差の実態とヨーロッパの地域的特色を理解する。 	6		
3	1	<p>北アメリカ</p> <p>【主題】大規模農業と工業の発展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然や産業など基礎的なことを身に付ける。 ・アメリカ合衆国、カナダの貿易、農産物の生産分布、工業都市の分布、暮らしなどを追究する。 	5		
	2	<p>南アメリカ</p> <p>【主題】森林破壊と環境保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然や産業など基礎的なことを身に付ける。 ・環境問題やエネルギー問題を地域に即してとらえ、南アメリカの地域的特色を理解する。 	3		
	3	<p>オセアニア</p> <p>【主題】アジアとの結びつき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然や産業など基礎的なことを身に付ける。 ・アジア諸国と結び付きを強め、多文化社会が進む生活の様子から、オセアニアを理解する。 	3		
年間授業時数			35		

令和8年度 <2学年 社会科（歴史的分野）> 年間指導計画

週時数	2
使用教科書	中学歴史 日本と世界（山川出版社）
使用補助教材	東京都版資料カラー歴史（浜島書店） 新中学問題集 歴史Ⅰ・Ⅱ（教育開発出版）

目標
・我が国の歴史的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の歴史的特色を考察し理解させ、歴史的な見方や考え方の基礎を培い、我が国の歴史に対する認識を養う。

評価の観点と方法・材料
定期考査、小テスト、提出物（ノート、ワークシート、課題など）、授業での観察（発表、忘れ物の点検、授業の取り組みなど）

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	○欧米との出会いと戦乱の世 ・戦国の動乱、ヨーロッパ人來航の背景と影響、織田・豊臣による統一事業と当時の対外関係、生活文化の展開。	8	・ヨーロッパ人の來航や織豊期の政治や社会の大きな変化と、豪商などの生活文化の展開と特色に関する知識を身に付けている。	・ヨーロッパ人の來航や織豊政權の成立の学習を通して、歴史の流れと時代の特色や、中世から近世にかけての歴史の変容を、多面的・多角的に考察している。	・日清・日露戦争、条約改正などを通して、わが国の国際的な地位が向上したことを理解しようとしている。
	5					
	6	○江戸幕府の政治 ・江戸幕府の成立、鎖国政策、身分制度の確立及び農村の様子、対外関係。	8	・江戸時代の成立の経緯や幕府の政治制度、鎖国下におけるの対外政策、身分制度や農村の様子などに関する知識を身に付けている。	・江戸幕府の統制政策や対外政策の変化、身分制度下におけるの差別などが、どのような時代背景のもとで行われたのかを、多面的・多角的に考察している。	・江戸時代の成立の経緯や成立幕府の政治制度、対外政策や身分制度などについての関心を高め、意欲的に追究している。
	7	○産業の発達と三都の繁栄 ・江戸時代の産業の発達、教育の普及と文化の広がり。	6	・江戸時代を通じた産業・交通の発達、文化の特色を理解し、その知識を身に付けている。	・江戸時代を通じた産業・交通の発達、文化の特色を身近な地域の事例や代表的な事例を取り上げて多面的・多角的に考察している。	・江戸時代を通じた産業・交通の発達、文化に対する関心を高め、意欲的に追究し文化遺産を尊重しようとする。
2	9	○幕府政治の展開 ・社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動き。	10	・江戸幕府の政治改革と政治の行き詰まりや社会の変動と新しい学問・思想の動きについてその背景を理解する。	・江戸幕府の政治改革と政治の行き詰まりや新しい学問・思想の動きを多面的・多角的に考察している。	・江戸幕府の政治改革と政治の行き詰まりや新しい学問・思想の動きに対する関心を高め、意欲的に追究している。
	10	○欧米の進出と幕末の危機 ・欧米諸国のアジアへの進出や我が国の開国とその影響。	10	・欧米諸国のアジアへの進出や我が国の開国とその影響を理解し、その知識を身に付けている。	・欧米諸国のアジアへの進出や我が国の開国とその影響を多面的・多角的に考察し公正に判断している。	・欧米諸国のアジアへの進出や我が国の開国とその影響に対する関心を高め、意欲的に追究している。
	11	○明治維新 ・明治維新によって近代国家の基礎が整えられたことによる生活の変化。	8	・明治維新の経緯のあらましや人々の生活の大きな変化を理解し、その知識を身に付けている。	・明治維新の経緯のあらましや人々の生活の大きな変化を多面的・多角的に考察し公正に判断している。	・明治維新の経緯のあらましや人々の生活の大きな変化に対する関心を高め、意欲的に追究している。
	12					
3	1	○国会開設のあゆみ ・自由民権運動と大日本帝国憲法の制定。	8	・自由民権運動と大日本帝国憲法の制定について理解し、その知識を身に付けている。	・自由民権運動と大日本帝国憲法の制定について多面的・多角的に考察している。	・自由民権運動と大日本帝国憲法の制定について、意欲的に追究している。
	2	○アジアの日本から世界の日本へ ・日清・日露戦争、条約改正。	12	・日清・日露戦争、条約改正などを通して、わが国の国際的な地位が向上したことを理解し、その知識を身に付けている。	・日清・日露戦争、条約改正などを通して、わが国の国際的な地位が向上したことを多面的・多角的に考察している。	・日清・日露戦争、条約改正などを通して、わが国の国際的な地位が向上したことを意欲的に追究している。
	3					
年間授業時数			70			

令和8年度 <2学年 社会科（地理的分野）> 年間指導計画

週時数	1
使用教科書	新しい社会 地理（東京書籍） 中学校社会科地図（帝国書院）
使用補助教材	アクティブ地理日本（浜島書店） 新中学問題集 地理Ⅱ（教育開発出版）

目標
我が国の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の国土の地域的特色を考察し理解させ、地理的な見方や考え方の基礎を培い、我が国の国土に対する認識を養う。

評価の観点と方法・材料
「(1)知識・技能」、「(2)思考・判断・表現」及び「(3)主体的に学習に取り組む態度」の観点について、定期考査、小テストや課題等における習得度、到達度及び完成度や、学習への取組状況等を評価材料とし、総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	○日本の諸地域 ○環境問題や環境保全を中核とした考察 ・地域の地形や気候など自然環境に関する特色ある事象を中核としてそれを人々の生活や産業と関連付けて考える。 ○人口や都市・村落を中核とした考察 ・地域の人口、都市・村落の機能などを中核としてそれを人々の生活と関連付け、過疎過密問題についても考える。	12	<ul style="list-style-type: none"> 日本の地域構成をとらえるために地球儀や地図を活用するとともに、日本の地域構成を追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。 日本の地域構成を日本の位置と領域、都道府県の構成と地域区分を基に理解し、その知識を身に付けている。 世界的視野と日本全体の視野に立って様々な面からとらえた日本の国土の特色とともに、地域間を比較し関連付けて地域的特色を明らかにする視点や方法を理解し、それらの知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の地域構成を日本の位置と領域、都道府県の構成と地域区分を基に多面的・多角的に考察している。 日本の国土の特色を世界的視野と日本全体の視野に立って様々な面から追究するとともに、地域間を比較し関連付けて地域的特色を明らかにする視点や方法を考察している。 地理的事象から課題を見だし、それを環境条件や人々の営みなどと関連付けて多面的・多角的に追究するとともに、地域的特色をとらえる視点や方法を考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の国土に対する関心を高め、日本の位置と領域、都道府県の構成と地域区分を意欲的に追究し、日本の地域構成をとらえようとしている。 日本の国土の特色に対する関心を高め、それを世界的視野と日本全体の視野に立って様々な面から意欲的に追究し、我が国の国土の特色をとらえようとしている。
	5					
	6					
2	9	○歴史的背景を中核とした考察 ・地域の地理的事象の形成や特色に歴史的背景がかかわっていることを考察する。 ○産業を中核とした考察 ・地域に果たす産業の役割やその動向は他の事象との関連で変化するものであることについて考える。 ○他地域との結びつきを中核とした考察 ・世界や日本の他の地域との結びつきの影響を受けながら地域は変容していることなどについて考える。	13	<ul style="list-style-type: none"> 地域的特色をとらえる視点や方法などを理解し、それらの知識を身に付けている。 世界や日本の地図や統計その他の資料を収集し、様々な面から日本の国土の特色をとらえるための情報を適切に選択して活用するとともに、我が国の国土の特色を追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地理的事象から課題を見だし、それを環境条件や人々の営みなどと関連付けて多面的・多角的に追究するとともに、地域的特色をとらえる視点や方法を考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県の位置と名称、その他おもな地名などを、日本地図を活用して意欲的に追究している。 日本の国土の位置、領域の特色、都道府県の位置と名称などをもとに日本の地域構成をとらえようとしている。 身近な地域に関する関心を高め観察や調査などに意欲的に取り組み身近な地域の特色をとらえようとしている。
	10					
	11					
3	1	○生活文化を中心とした考察 ・近年の都市化や国際化によって地域の伝統的な生活・文化が変容していることなどについて考える。 ○自然環境を中核とした考察 ・自然環境が地域の人々の生活や産業などと深い関係をもっていることなどについて考える。 ○身近な地域調査 ・身近な地域の諸事象を取り上げ、生徒が生活している土地に対する理解と関心を深め、地域社会に参画する態度を養う。	10	<ul style="list-style-type: none"> 地図や統計その他の資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、地域的特色を追究し考察した過程や結果をまとめたり、発表したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地理的事象から課題を見だし、それを環境条件や人々の営みなどと関連付けて多面的・多角的に追究するとともに、地域的特色をとらえる視点や方法を考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な地域に関する関心を高め観察や調査などに意欲的に取り組み身近な地域の特色をとらえようとしている。
	2					
	3					
年間授業時数			35			

令和8年度 <3学年 社会科（歴史・公民的分野1）> 年間指導計画

週時数	2
使用教科書	中学歴史 日本と世界（山川出版社） 中学社会公民ともに生きる（教育出版）
使用補助教材	東京都版資料カラー歴史（浜島書店） 新中学問題集歴史II（教育開発出版） 新しい公民 東京都版（浜島書店） 新中学問題集 公民（教育開発出版）

目標
歴史的事象及び現代社会の見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する。

評価の観点と方法・材料
「(1)知識・技能」、「(2)思考・判断・表現」及び「(3)主体的に学習に取り組む態度」の観点について、定期考査、小テスト、レポート課題、作業課題、発表活動等における習得度、到達度及び完成度や、学習への取組状況等を評価材料とし、総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準					
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度			
1	4	・第一次世界大戦前後の日本と世界	7	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦の惨禍と、その後世界の新しい動きなどを理解している。 ・恐慌や戦争中の各国の動向に関する諸資料を読み取り、内容について理解している。 ・現代の日本がかかえている国内外の課題を資料から読み取り、国際社会の中で果たす役割について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・列強の一員として日本が負った責務や民主化の高まりについて考察している。 ・恐慌やファシズム台頭による、世界各国や日本の政治的動向について考察している。 ・冷戦や公害、石油危機など、わが国が多くの問題に直面し、乗り越えてきた過程について、考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民主政治の成熟が促した世界情勢に関心をもち、意欲的に調べている。 ・戦争の原因やその過程、被害の状況に関心をもち、意欲的に調べている。 ・GHQ 統治下で新憲法が制定された経緯、戦後の歩み及び社会の変化に関心をもち、意欲的に調べている。 			
	5	・第二次世界大戦終結までの日本と世界	10						
	6	・第二次世界大戦後の民主化と再建、日本の国際的役割	9						
	7		9						
2	9	・わたしたちの生活と現代社会	4	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な事例の資料をもとに、対立と合意、効率と公正の視点を、具体的な社会生活と関連づけて理解している。 ・図表などを活用しつつ、国民主権、平和主義、基本的人権の尊重などの内容や課題について正しく理解している。 ・新しい人権や身のまわりの差別、国際社会における人権問題について、資料と関連づけて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会集団の中での対立について、効率と公正の視点からとらえ直し、合意への方策を考察している。 ・日本国憲法について制定の経緯、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、憲法改正など多面的に考察している。 ・新たな人権問題や基本的人権にかかわる課題解決について、日本国憲法をもとに考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会集団の中で、物事の決定の仕方、きまりを守るものの意味などに対する関心を高め、意欲的に追究している。 ・日本国憲法への関心を高めると共に、憲法改正の手続について意欲的に調べている。 ・基本的人権にかかわる問題を人権尊重の視点から取り上げ、意欲的に調べようとしている。 			
	10	・日本国憲法の基本原則	8						
	11	・基本的人権の尊重	10						
	12		10						
3	1	・民主政治のしくみ	8	<ul style="list-style-type: none"> ・選挙のしくみに関する資料から、課題についての的確に読み取りつつ、主権者として積極的に政治に参加することの意義について理解している。 ・三権分立や政策制定までの流れの図を基本として抑えつつ、国会、内閣、裁判所のそれぞれのしくみやはたらきについて理解している。 ・住民自治を基本とする地方自治の考え方や、地方政治のしくみ及び課題について、資料などを活用しつつ理解を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主権者として国民が政治に参加する意義や国及び地方の政治的課題について、身近な事例を通して、多面的・多角的に考察している。 ・議院内閣制や裁判員制度について、国民とのかかわりを踏まえてその意義を考察しつつ、現代の政治課題について意欲的に考察している。 ・地方自治が直接民主制の手法を導入している理由について、具体的な事例や制度に基づいて考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の政治や選挙制度、マスメディアの課題に関心をもち、意欲的にしくみや制度、問題点について考え、積極的な政治参加の姿勢を示している。 ・国会や内閣、裁判所のしくみやはたらきについて、現在の日本の実態や国民のかかわり方などについて関心をもち、意欲的に追及している。 ・自分たちが住む地域社会への関心をもち、地域住民の一人として、意欲的にその解決法を追及している。 			
	2	・国会、内閣、裁判所	8						
	3	・地方自治と住民	4						
	年間授業時数						70		

令和8年度 <3学年 社会科（公民的分野2）> 年間指導計画

週時数	2
使用教科書	中学社会公民ともに生きる（教育出版）
使用補助教材	新しい公民 東京都版（浜島書店） 新中学問題集 公民（教育開発出版）

目標
現代社会の見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する。

評価の観点と方法・材料
「(1)知識・技能」、「(2)思考・判断・表現」及び「(3)主体的に学習に取り組む態度」の観点について、定期考査、小テスト、レポート課題、作業課題、発表活動等における習得度、到達度及び完成度や、学習への取組状況等を評価材料とし、総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	・消費生活と経済活動	8	・消費生活や経済活動に関する資料を読み取り、人々の生活の維持・向上のためにあるという経済活動の意義を理解している。 ・現代の生産の仕組みや働きや勤労の権利と義務、労働組合の意義を呼び労働基準法の意味について理解している。 ・市場経済の基本的な考え方について、市場における価格の決まり方や資源の配分を含めて理解している。	・消費活動や経済活動に関する事象を多面的・多角的にとらえ、身近な事例から経済活動について考察し、表現している。 ・企業の経済活動における役割と社会的責任について、分業と交換に着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・市場経済について、効率と公正、希少性などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。	・身近な消費生活を通して、経済活動や産業構造について関心をもつことができる。また、身近な消費者問題について主体的に学んでいる。 ・企業の生産活動や労働に対する関心を高め、課題について意欲的に追究している。 ・市場経済のもとで行われる経済活動について、主体的に追究している。
	5	・企業の生産の仕組みと労働 ・市場の仕組みとはたらき	10			
	6		8			
	7		8			
2	9	・金融の仕組みと財政の役割	10	・現代の金融や財政の仕組みと役割、租税の役割や国民の納税の義務について理解している。 ・社会資本の整備や少子高齢社会における社会保障の充実・安定化について、意義を理解している。 ・日本の経済的課題について、公害の防止など環境の保全などを含め理解している。	・金融や財政及び租税の役割と現状について、現代社会の特色を踏まえ考察し、表現している。 ・市場の働きに委ねることが難しい諸問題について、国や地方公共団体が果たす役割について考察し、表現している。 ・日本の経済課題について、現代社会の特色を踏まえ、多角的に考察し、表現している。	・現代の金融や財政に対する関心を高め、社会とどのように結びついているかを意欲的に追究している。 ・社会資本の整備や少子高齢社会における社会保障の充実・安定化について、主体的に学習し、課題を解決しようとして追究している。 ・日本の経済課題について、現代社会の特色を踏まえ、主体的に追究している。
	10	8				
	11	6				
	12	6				
3	1	・国際社会に生きる私たち	8	・世界平和の実現と人類の福祉の増大に向け、国家相互の主権の尊重と協力、国民の相互理解と協力の重要性及び領土、国家主権、国際連合の働きを理解している。 ・地球環境、資源・エネルギー、貧困、紛争などの課題を解決に向けて、基本的事項を理解する。 ・よりよい社会を築くため、解決すべき課題について、資料を集めたり、読み取ったりしている。	・日本国憲法の平和主義を基に、安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における日本の役割について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・持続可能な社会の実現に向けて、国際社会の抱える課題の解決に向けて考察し、構想し、表現している。 ・よりよい社会を築くため、解決すべき課題を多面的・多角的に構想し、自分の考えを説明、論述している。	・国際社会の諸課題に対する関心を高め、課題を意欲的に追究し、世界平和を確立するために主体的に学んでいる。 ・現代の諸課題に対する関心を高め、諸課題について考え続けようとしている。 ・よりよい社会を築くため、解決すべき課題について主体的に探究している。
	2	8				
	3	4				
年間授業時数			70			

令和8年度 <1学年 数学科> 年間指導計画及び評価と評価材料

週時数	4	目標
使用教科書	学校図書 数学1	<ul style="list-style-type: none"> ・正の数と負の数、文字を用いた式と一元一次方程式、平面図形と空間図形、比例と反比例、データの分布と確率、連立二元一次方程式、などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ・数の範囲を拡張し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力、図形の構成要素や構成の仕方に着目し、図形の性質や関係を直観的に捉え論理的に考察する力、数量の変化や対応に着目して関数関係を見だし、その特徴を表、式、グラフなどで考察する力、データの分布に着目し、その傾向を読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力を養う。 ・数学的活動の楽しさや数学のよさに気付いて粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って検討しようとする態度、多面的に捉え考えようとする態度を養う。
使用補助教材	体系数学1 代数編 体系数学1 幾何編 数BEKI 代数I 数BEKI 幾何I 体系数学2 代数編 数BEKI 代数II 数学の泉	

評価の観点と方法・材料	
定期考査、宿題テスト、提出物（長期休業中の課題も含む）、小テスト、授業の取り組み方	

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5	<正の数・負の数> ・正の数・負の数 ・加法・減法 ・乗法・除法 ・四則の混じった計算 ・正の数・負の数の利用 ・数の集合と四則 ・素数	15	<ul style="list-style-type: none"> ・正の数と負の数の必要性和意味を理解している。 ・正の数と負の数の四則計算をすることができる。 ・素数の意味を理解し、自然数を素因数分解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数で学習した四則計算と関連付けて、正の数と負の数の四則の方法を考察し表現することができる。 ・正の数と負の数を具体的な場面で活用することができる。 ・自然数を素数の積として表すことにより、約数、倍数などの性質について捉え直すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正の数と負の数や素因数分解のよさに気付いて粘り強く考えようしたり、学んだことを生活や学習に生かそうしたりしている。 ・正の数と負の数や素因数分解を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
1	6	<文字の式①> ・文字式 ・式の値 <文字の式②> ・単項式の乗法と除法 ・文字式の利用	20	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を用いることの必要性和意味を理解している。 ・簡単な整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算をすることができる。 ・文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明することを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な数の計算に関連付けて、整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算の方法を考察し表現することができる。 ・文字を用いた式を具体的な場面で活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を用いることのよさに気付いて必要性和意味を考えようとしている。 ・文字を用いた式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
1	6	<方程式> ・方程式とその解	5	<ul style="list-style-type: none"> ・方程式の必要性和意味及び方程式の中の文字や解の意味 	<ul style="list-style-type: none"> ・等式の性質を基にして、1次方程式を解く方法を考 	<ul style="list-style-type: none"> ・1次方程式のよさに気付いて粘り強く考えよ

	7	・1次方程式の解き方 (移項)		<ul style="list-style-type: none"> を理解している。 ・等式の性質や移項の意味を理解している。 ・簡単な1次方程式や比例式を解くことができる。 	察し表現することができる。	うとしている。 ・1次方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
2	8 9 10	<p><方程式></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1次方程式の利用・解き方 <p><比例と反比例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・変化と関数 ・比例とそのグラフ ・反比例とそのグラフ ・比例, 反比例の利用 <p><平面図形></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平面図形の基礎・計量 ・作図とその利用 ・図形の移動 ・平面図形の計量 ・おうぎ形 <p><空間図形></p> <ul style="list-style-type: none"> ・空間図形の見方 ・空間図形の計量 	10 12 16 16	<ul style="list-style-type: none"> ・事象の中の数量やその関係に着目し, 1次方程式をつくることができる。 ・変数, 変域の意味を理解している。 ・関数関係の意味を理解している。 ・比例・反比例について理解している。 ・座標の意味を理解している。 ・線分の垂直二等分線, 垂線, 角の二等分線などの基本的な作図の方法を理解している。 ・平行移動, 対称移動及び回転移動について理解している。 ・おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。 ・空間における直線や平面の位置関係について理解している。 ・立体を平面上に表すことの意味について理解している。 ・面が動いてできる立体の意味を理解している。 ・基本的な柱体や錐体, 球の表面積や体積を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1次方程式を具体的な場面で活用することができる。 ・比例, 反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。 ・図形の性質に着目し, 基本的な作図の方法を考察し表現することができる。 ・基本的な作図や図形の移動を具体的な場面で活用することができる。 ・空間図形を平面上に表現して平面上の表現から空間図形の性質を見いだしたりすることができる。 ・空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されるものと捉えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。 ・比例や反比例について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・比例, 反比例を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。 ・平面図形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・作図や図形の移動を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。 ・空間図形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・空間図形を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
3	2	<p><等式変形></p> <p><連立方程式></p> <ul style="list-style-type: none"> ・連立方程式 ・連立方程式の利用 	17	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて, 簡単な式を変形することができる。 ・2元1次方程式とその解の意味を理解している。 ・連立2元(および3元)1次 	<ul style="list-style-type: none"> ・等式の性質を利用して, 計算が容易になるような式を考察することができる。 ・1元1次方程式と関連付けて, 連立2元1次方程式や連立3元1次方程式を 	<ul style="list-style-type: none"> ・等式の性質を理解して, それを用いて等式変形しようとしている。 ・連立方程式のよさを実感して粘り強く考えようとしている。

				<p>方程式の必要性と意味及びその解の意味を理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な連立2元(3元)1次方程式を解くことができる。 ・事象の中の数量やその関係に着目し、連立2元(及び3元)1次方程式をつくることができる。 	<p>解く方法を考察し表現することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連立2元1次方程式や連立3元1次方程式を具体的な場面で活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連立方程式について学んだことを生活や学習に活かそうしている。 ・連立方程式を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。
3	3	<p><データの活用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・データの傾向の調べ方 ・データの活用 <p><統計的確率></p> <p>コンピューターの利用</p> <p><まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合復習② 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・範囲の意味を理解している。 ・度数分布表、ヒストグラムなどの必要性と意味を理解している。 ・相対度数の必要性と意味、累積度数と累積相対度数の意味を理解している。 ・コンピューターなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・データに基づいて調べることのよさに気付いて粘り強く考えようとしている。 ・データの分布について学んだことを生活や学習に活かそうとしている。 ・データを活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたり、多面的に捉え考えようとしている。
				<ul style="list-style-type: none"> ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性と意味を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多数の観察や多数回の試行の結果を基にして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率のよさに気付いて粘り強く考えようとしている。 ・不確定な事象の起こりやすさについて学んだことを生活や学習に活かそうとしている。 ・統計的確率を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
年間授業時数			129			

代数・幾何分野 129 時間+定期考査・宿題テスト 11 時間+計 140 時間

令和8年度 <2学年 数学科> 年間指導計画及び評価と評価材料

週時数	4 時間
使用教科書	学校図書 数学2
使用 補助教材	体系数学1 代数編 体系数学1 幾何編 体系数学2 代数編 体系数学2 幾何編 BEKI 代数I BEKI 幾何I BEKI 代数II 数学の泉

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・多項式、平方根、平面図形と数学的な推論、一次関数、データの分布と確率、二次方程式などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ・数の範囲に着目し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察する力、数学的な推論の過程に着目し、図形の性質や関係を論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取り批判的に考察して判断したり、不確実な事象の起こりやすさについて考察したりする力を養う。 ・数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとする態度を養う。

評価の観点と方法・材料
定期考査、宿題テスト、小テスト、提出物（長期休業中の課題も含む）、授業の取り組み方

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	<1次関数> ・1次関数 ・方程式と1次関数 ・1次関数の利用	15	<ul style="list-style-type: none"> ・1次関数について理解している。 ・事象の中には1次関数として捉えられるものがあることを知っている。 ・2元1次方程式が関数を表す式とみることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 ・1次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1次関数のよさを実感して粘り強く考えようとしたり、学んだことを生活や学習に生かそうとしたりしている。 ・1次関数を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。
	5		[20]			
1	5	<図形の性質の調べ方> ・平行線と多角形 ・図形の合同	14	<ul style="list-style-type: none"> ・平行線や角の性質を理解している。 ・多角形の角についての性質が見いだせることを知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な平面図形の性質を見だし、平行線や角の性質を基にしてそれらを確認説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平面図形の性質のよさを実感して粘り強く考え、学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。
	6		[19]			
1	7	<三角形・四角形> ・三角形 ・四角形 ・平行線と面積	6	<ul style="list-style-type: none"> ・平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件について理解している。 ・証明の必要性と意味及びその方法について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり、証明を読んで新たな性質を見だしたりすることができる。 ・三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・証明のよさを実感して粘り強く考え、図形の合同について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、平面図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。
	8		[16]			
2	8	<式の計算①> ・多項式の計算 ・因数分解	14	<ul style="list-style-type: none"> ・単項式と多項式の乗法・除法の計算をすることができる。 ・簡単な一次式の乗法の計算及び2次の基本公式を用いる簡単な式の展開や因数分解をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既に学習した計算の方法と関連付けて、式の展開や因数分解をする方法を考察し表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・式の展開や因数分解のよさを実感して粘り強く考えようとしている。 ・多項式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
	9		[18]			
2	9	<平方根> ・平方根 ・根号をふくむ式の計算	6	<ul style="list-style-type: none"> ・数の平方根の必要性と意味を理解している。 ・数の平方根を含む簡単な式の計算をすることができる。 ・具体的な場面で数の平方根を用いて表したり処理したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既に学習した計算の方法と関連付けて、数の平方根を含む式の計算の方法を考察し表現することができる。 ・数の平方根を具体的な場面で活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数の平方根のよさを実感して粘り強く考えようとしたり、学んだことを生活や学習に生かそうとしたりしている。 ・数の平方根を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。
	10		[15]			

2	11 12	<2次方程式> ・2次方程式の解き方 ・2次方程式の利用	10 [15]	<ul style="list-style-type: none"> ・2次方程式の必要性と意味及びその解の意味を理解している。 ・因数分解したり平方の形に変形したりして2次方程式を解くことができる。 ・解の公式を用いて2次方程式を解くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・因数分解や平方根の考えを基にして、2次方程式を解く方法を考察し表現することができる。 ・2次方程式を具体的な場面で活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2次方程式のよさを実感して粘り強く考え、学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、2次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている。
3	1	<関数 $y=ax^2$ > ・2乗に比例する関数 ・関数 $y=ax^2$ のグラフ ・関数 $y=ax^2$ の値の変化 ・関数 $y=ax^2$ の利用 ・いろいろな関数	8 8 [18]	<ul style="list-style-type: none"> ・関数 $y=ax^2$ について理解している。 ・事象の中には関数 $y=ax^2$ として捉えられるものがあることを知っている。 ・いろいろな事象の中に、関数関係があることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関数 $y=ax^2$ として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 ・関数 $y=ax^2$ を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関数 $y=ax^2$ について考えようとしている。 ・関数 $y=ax^2$ について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・関数 $y=ax^2$ を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。
3	2 3	<相似な図形> ・相似な図形の性質 ・三角形の相似条件 ・平行線と線分の比 ・中点連結定理 ・相似な図形の面積比・体積比	18 5 [22]	<ul style="list-style-type: none"> ・平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解し、記号を用いて表すことができる。 ・基本的な立体の相似の意味及び相似な図形の相似比と面積比や体積比との関係について理解している。 ・誤差や近似値、$a \times 10^n$ の形の表現について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめることができる。 ・平行線と線分の比についての性質を見だし、それらを確かめることができる。 ・相似な図形の性質を具体的な場面で活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相似な図形の性質のよさを実感して粘り強く考えようとしている。 ・図形の相似について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・相似な図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。
2	3	<まとめ>総合演習	14			
年間授業時数			129			

代数分野 75 時間 + 幾何分野 54 時間 + 定期考査・宿題テスト 11 時間 = 計 140 時間

令和8年度 <3学年 数学科> 年間指導計画

週時数	4	目標
使用教科書	学校図書 数学3	
使用 補助教材	体系数学2 代数編 体系数学2 幾何編 体系数学3 数式・関数編 体系数学3 論理・確率編 BEKI 代数Ⅱ BEKI 幾何Ⅱ チャート式 基礎からの数学Ⅰ+A サクシードⅠ+A	・関数 $y=ax^2$ 、三平方の定理（空間図形）、図形の相似、円に関する定理、数の拡張、絶対値を含む方程式・不等式、集合と命題、2次関数などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ・数の範囲に着目し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力、図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を養う。 ・数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとする態度を養う。

評価の観点と方法・材料
定期考査、宿題テスト、提出物（長期休業中の課題も含む）、小テスト、授業の取り組み方

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	<三平方の定理> ・三平方の定理の基本 ・三平方の定理の利用	10	・三平方の定理の意味を理解し、図形の計量に活用することができる。	・三平方の定理を具体的な場面で活用することができる。	・三平方の定理についてことを生活や学習に生かそうとしている。 ・三平方の定理を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。
	5	<関数 $y=ax^2$ （復習）> ・放物線と座標 ・放物線と直線	5	・関数 $y=ax^2$ について理解している。 ・図形は座標平面上で捉えられるものであることを知っている。	・関数 $y=ax^2$ を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。	・関数 $y=ax^2$ を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。
	6	<円> ・円と弦（外接円を含む） ・円周角の定理とその逆 ・円に内接する四角形の性質とその逆 ・円の接線（内接円を含む） ・接線と弦のつくる角 ・方べきの定理 ・2つの円	20	・円周角と中心角の関係の意味を理解し、それが証明できることを知っている。 ・円周角の定理の逆について理解している。 ・円に関する諸定理の意味を理解している。	・円周角と中心角の関係を見いだすことができる。 ・円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用することができる。 ・円に関する諸定理を具体的な場面で活用することができる。	・円周角と中心角の関係及び円の諸定理について ①よさを実感して粘り強く考えようとしている。 ②学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③定理を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。
	7	<線分の比と計量> ・三角形の重心 ・線分の比と面積比 ・メネラウスの定理 ・チェバの定理 ・幾何演習（算額課題）	5	・三角形の重心や線分比と面積比の関係を理解している。 ・メネラウスの定理とチェバの定理およびそれらの定理の逆について理解し、それらが証明できることを知っている。 ・幾何の諸定理を利用して、演習課題や算額作りに取り組むことができる。	・三角形の重心や線分比と面積比の関係を具体的な場面で活用することができる。 ・メネラウスの定理とチェバの定理およびそれらの逆を具体的な場面で活用することができる。 ・幾何の諸定理を利用して、演習課題や算額の解法や解答を確かめることができる。	・三角形の重心や線分比と面積比の関係について考えようとしている。 ・メネラウスの定理とチェバの定理を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。 ・課題解決に粘り強く取り組むとともに、思考過程を振り返って検討しようとしている。
		<まとめ> ・総合演習	12			

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
2	9 10	<不等式(数学I)> ・1次不等式 ・連立不等式 ・絶対値を含む 方程式・不等式	12	・1次不等式, 連立不等式, 絶対値を含む方程式・不等式について理解し解くことができる。	・方程式・不等式を具体的な場面で活用することができる。	・方程式・不等式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
	11 12	<数と式(数学I)> ・整式の計算, 因数分解 ・実数 ・根号を含む計算 (二重根号を含む)	18	・整式の計算, 式の展開, 因数, 因数分解の意味を理解している。	・既に学習した計算の方法と関連付けて, 式の展開や因数分解をする方法を考察し表現することができる。	・整数の計算や式の展開, 因数分解について考えようとしている。
3	1	<集合・命題(数学IA)> ・集合 ・命題と条件 ・命題と証明 ・集合の要素の個数	20	・集合や命題に関する基本的な概念を理解することができる。	・集合の考えを用いて論理的に考察し, 簡単な命題を証明することができる。	・集合や命題を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。
	2 3	<2次関数> ・2次関数のグラフ ・関数のグラフの移動 ・2次関数の最大値, 最小値 ・2次関数の決定 ・2次関数のグラフと方程式 ・2次不等式	20	・2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。 ・2次関数の最大値や最小値を求めることができる。 ・2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解している。 ・2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し, 2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求めることができる。	・2次関数の式とグラフとの関係について, コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察することができる。 ・二つの数量の関係に着目し, 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え, 問題を解決したり, 解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。	・事象を2次関数の考えを用いて考察するよさを認識し, 問題解決にそれらを活用しようとしたり, 粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとしている。
		<まとめ> ・総合復習	10			
年間授業時数			132			

132 時間 + 定期考査・宿題テスト 8 時間 = 計 140 時間

令和8年度 <2学年 自然科学I> 年間指導計画

週時数	1時間 (年間 30 時間)
使用教科書	学校図書数学2
使用補助教材	体系数学2 代数編 体系数学2 幾何編 BEKI 代数II BEKI 幾何II 数学の泉

目 標
<ul style="list-style-type: none"> ・和算や算額の歴史的な事柄について調べ、作品づくりを通して、互いに考えを共有しながら数学を楽しむとともに、数学への興味・関心を高める。 ・自分で決めたテーマに対して論理的に考察し、筋道を立てて説明できるようにする。 ・目的に応じてデータを収集し、適切な統計量や表現方法を選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。

評価の観点と方法・材料
定期考査、提出物(ノート、レポート、課題作品)、授業での観察(発表、授業の取組)

学 期	月	単元と学習内容	時 数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	〔記述統計・中学生段階〕 ・統計・データについて <データの活用> ・データの傾向の調べ方 ・データの活用	13	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理することができる。 ・四分位範囲や箱ひげ図の必要性と意味を理解している。 ・コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを整理し箱ひげ図で表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができる。 ・四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・データの分布について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・データを活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしていたり、多面的に捉え考えようとしている。
	5		(2)			
	6		(4)			
2	7	<データの分布> ・データの分布	(5)			
	9	〔記述統計・高校生段階〕 ・分散と標準偏差 ・散布図、相関関係、相関係数	6	<ul style="list-style-type: none"> ・分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解している。 ・コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察することができる。 ・目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事象をデータの分析の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしていたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
	10		(3)			
	10	<場合の数> ・順列と組合せ	11	<ul style="list-style-type: none"> ・和の法則や積の法則などの数え上げの原則について理解している。 ・具体的な事象を基に順列や組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求めることができる。 ・多数回の試行によって得られる確率と関連付けて、場合の数を基にして得られる確率の必要性と意味を理解している。 ・簡単な場合について確率を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事象の構造(規則性や対応など)に着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 ・同様に確からしいことに着目し、場合の数を基にして得られる確率の求め方を考察し表現することができる。 ・確率を用いて不確実な事象を捉え考察し表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場合の数や、場合の数を基にして得られる確率のよさを実感して粘り強く考え、順列や組合せ、確率について学んだことを生活や学習に生かそうとしていたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている。
	11	(6)				
12	(5)					
3	1	〔推測統計〕 ・標本調査 ・仮説検定の考え	7	<ul style="list-style-type: none"> ・全数調査の意味及び標本調査の必要性と意味を理解している。 ・コンピュータなどの情報手段を用いるなどして無作為に標本を取り出し、整理することができる。 ・具体的な事象において仮説検定の考え方を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現することができる。 ・簡単な場合について標本調査を行い、母集団の傾向を推定し判断することができる。 ・不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・標本調査の必要性と意味を考えようとしている。 ・標本調査について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・標本調査を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。
	2		(5)			
	3		(2)			
年間授業時数			35			

令和8年度 <1学年 理科> 年間指導計画

週時数	3
使用教科書	未来へひろがるサイエンス 1年 (啓林館)
使用補助教材	新中学問題集理科1年 (教育開発出版社) ウイニングフィニッシュ (好学出版)

目標
化学的、物理的、生物的事物・現象についての観察、実験を行い、観察・実験技能を習得させ、観察、実験の結果を考察して自らの考えを導き出し表現する能力を育てるとともに、身の回りの物質や光・音の現象、植物や動物の生活と種類、生物の細胞と生殖などについて理解させ、これらの事象に対する科学的な見方や考え方を養う。地球やそれを取り巻く地学現象について関心を高め、観察・実習を通して時間的および空間的スケールの大きさを理解させるとともに、観察や実習の結果をもとに考察することで、これらの地学的事象に対する科学的捉え方を養う。

評価の観点と方法・材料
行動観察、ポートフォリオ、レポート、ノート、プリント、小テスト、振り返り、定期考査

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	序章 身のまわりの生物の観察	8	いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら、生物の観察と分類のしかたについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	生物の観察と分類のしかたについての観察、実験などを通して、いろいろな生物の共通点や相違点を見いだすとともに、生物を分類するための観点や基準を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	生物の観察と分類のしかたに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	5	第1章 植物の特徴と分類	8	いろいろな植物の共通点と相違点に着目しながら、植物の体の共通点と相違点についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	植物の体の共通点と相違点についての観察、実験などを通して、いろいろな植物の共通点や相違点を見いだすとともに、植物を分類するための観点や基準を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	植物の体の共通点と相違点に関する事物・現象に進んでかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
6	6	第2章 動物の特徴と分類	8	いろいろな動物の共通点と相違点に着目しながら、動物の体の共通点と相違点についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	動物の体の共通点と相違点についての観察、実験などを通して、いろいろな動物の共通点や相違点を見いだすとともに、動物を分類するための観点や基準を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	動物の体の共通点と相違点に関する事物・現象に進んでかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	7	第1章 いろいろな物質とその性質	8	身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、身のまわりの物質とその性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	物質のすがたについて、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質やその変化における規則性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	物質のすがたに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
7	7	第2章 いろいろな気体とその性質	7	身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、気体の発生とその性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	物質のすがたについて、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質やその変化における規則性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	物質のすがたに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

2	9	第3章 水溶液の性質	8	身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、水溶液についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	水溶液について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質やその変化における規則性を見だして表現しているなど、科学的に探究している。	水溶液に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	10	第4章 物質のすがたとその変化	8	身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、状態変化と熱、物質の融点と沸点についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	状態変化について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見だして表現しているなど、科学的に探究している。	状態変化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	11	第1章 光による現象	7	光に関する事物・現象を日常生活や社会と関連づけながら、光の反射や屈折、凸レンズのはたらきについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	光について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズのはたらきの規則性や関係性を見だして表現しているなど、科学的に探究している。	光に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	12	第2章 音による現象	5	音に関する事物・現象を日常生活や社会と関連づけながら、音の性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	音について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、音の性質の規則性や関係性を見だして表現しているなど、科学的に探究している。	音に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
3	1	第3章 力による現象	7	力のはたらきに関する事物・現象を日常生活や社会と関連づけながら、力のはたらきについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	力のはたらきについて、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、力のはたらきの規則性や関係性を見だして表現しているなど、科学的に探究している。	力のはたらきに関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	2	第1章 身近な大地	8	大地の成り立ちと変化を地表に見られるさまざまな事物・現象と関連づけながら、身近な地形や地層、岩石の観察についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	身近な地形や地層、岩石の観察について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、地層の重なり方や広がり方の規則性などを見だして表現しているなど、科学的に探究している。	身近な地形や地層、岩石の観察に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	3	第2章 ゆれる大地	7	大地の成り立ちと変化を地表に見られるさまざまな事物・現象と関連づけながら、地震の伝わり方と地球内部のはたらきについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	地震について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、地震のゆれの大きさや伝わり方の規則性などを見だして表現しているなど、科学的に探究している。	地震に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

	第3章 火をふく大地	8	大地の成り立ちと変化を地表に見られるさまざまな事物・現象と関連づけながら、火山活動と火成岩についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	火山について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、地下のマグマの性質と火山の形との関係性などを見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	火山に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	第4章 語る大地	8	大地の成り立ちと変化を地表に見られるさまざまな事物・現象と関連づけながら、地層の重なりと過去のようす、自然の恵みと火山災害・地震災害についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	地層の重なりと過去のようす、自然の恵みと火山災害・地震災害について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、地層の重なり方や広がり方の規則性、火山活動や地震発生のしくみとの関係性などを見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	地層の重なりと過去のようす、自然の恵みと火山災害・地震災害に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
年間授業時数		105			

令和8年度 <2学年 理科> 年間指導計画

週時数	4
使用教科書	未来へひろがるサイエンス 2年 (啓林館)
使用 補助教材	新中学問題集理科2年 (教育開発出版社) ウイニングフィニッシュ (好学出版)

目標
<p>化学変化における物質の変化や量的な関係を、実験を通して探究的に追究させるとともに、それらの現象について原子・分子のモデルを用いた微視的物質概念などの科学的な見方や考え方を養う。</p> <p>生物や生物現象について、自らの考えを導きだし表現する能力を育てるとともに、植物や動物の生活とつながりなどについて理解させ、これらの事象に対する科学的な見方や考え方を養う。</p> <p>地球やそれを取り巻く地学現象について関心を高め、観察・実習を通して時間的および空間的スケールの大きさを理解させるとともに、観察や実習の結果をもとに考察することで、これらの地学的事象に対する科学的な見方や考え方を養う。</p> <p>日常生活との関連をはかりながら、電流と回路や静電気、電流の磁気作用などの実験を通して、電流の性質や正体、電流のはたらきについて理解させ、科学的な見方や考え方を養う。</p>

評価の観点と方法・材料
行動観察、ポートフォリオ、実験レポート、授業ノート、プリント、小テスト、振り返り、定期考査

学期	月	単元と学習内容	時 数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	単元1 化学変化と原子・分子 第1章 物質の成り立ち	8	<ul style="list-style-type: none"> 物質の性質を調べるための実験器具等を適切に選択し、これらの基本操作を行うことができる。 化学変化、分解、電気分解について理解し、説明することができる。 物質は原子からできており、原子には、その種類ごとに元素記号がつけられていることを理解する。 いくつかの原子が結びついて分子ができていることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 物質を構成する粒子について、自分の考えを表現することができる。 炭酸水素ナトリウムの加熱による変化について見通しをもって解決方法を立案できる。 実験結果を分析・解釈し、もとの物質とは異なる性質をもった別の物質に分かれたことを論理的に説明できる。 物質を混合物と純物質に分類し、純物質が単体か化合物かを、化学式やモデルから判断できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ケーキやカルメ焼きがふくらむことに興味を示し、炭酸水素ナトリウムの変化について考えようとする。 身のまわりの化学変化に興味・関心を示し、炭酸水素ナトリウムの分解の実験を行おうとする。 空気中での水素の燃焼によって水が生成することから、水が分解するとどうなるかという課題を設定し、探求の見通しをもつ。
		第2章 物質の表し方	8	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな物質を化学式で表せる。 化学変化を、原子・分子のモデルや化学反応式で表せる。 鉄と硫黄の化合の実験を安全に行い、生成した物質を調べ、結果を記録することができる。 2種類以上の物質が結びつく変化や分解などの化学変化について、原子・分子のモデルや化学反応式を用いて説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな化学変化を、原子・分子のモデルと関連づけながら、化学反応式で表すことができる。 実験結果を分析・解釈し、鉄と硫黄の混合物を加熱すると別の物質ができることを、論理的に説明することができる。 酸化を原子・分子のモデルと関連させながら化学反応式で表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の過程をふり振り返り、状態変化と化学変化の違いについて、原子や分子のモデルと関連づけながら、粘り強く課題を解決しようとする。 鉄と硫黄を加熱したときの変化を予想しようとする。 硫黄による鉄の変化について問題を見出し、課題を設定して、探求の見通しをもつ。
		第3章 さまざまな化学変化	8	<ul style="list-style-type: none"> 酸化や燃焼がどのような化学変化であるかを説明できる。 金属酸化物の還元がどのような化学変化であるかを説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 物質が酸化される化学変化や燃焼を原子・分子のモデルと関連づけながら、化学反応式で表せる。 炎の位置によって銅板が酸化したり、還元したりする理由を推測できる。 酸化銅の還元実験の結果を、原子・分子のモデルを使って考察できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄が酸化すると何ができるかについて原子・分子のモデルと関連づけながら、考えようとする。

6	第4章 化学変化と物質の質量	8	<ul style="list-style-type: none"> ・質量保存の法則について理解する。 ・化学変化に関係する物質の質量を注意深く測定できる。 ・反応前と反応後の質量を測定することができる。 ・化学変化で結びつく物質どうしの質量の比が、一定になっていることを理解する。 ・温度が変化する化学変化の実験を適切に行い、結果を記録することができる。 ・熱の発生や吸収を伴う実験を適切に行い、結果を記録することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・質量保存の法則を原子・分子のモデルおよび化学反応式と関連づけて考えることができる。 ・金属の加熱回数と質量変化の関係について、予想することができる。 ・金属の質量とその金属に結びつく酸素の質量の関係性について、仮説を確かめるための実験を計画できる。 ・実験結果を分析し・解釈し、化学変化における物質の質量の関係を見だし、相手にわかりやすく伝えることができる。 ・化学変化と熱の出入りの関係について説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・うすい塩酸と炭酸水素ナトリウムの反応における質量の変化について、見通しをもって仮説を設定することができる。 ・金属と結びつく酸素の質量について、実験計画をもとに実験を行い、粘り強く課題を解決しようとする。 ・金属の質量と化合する酸素の質量の間に、どのような関係があるか考えようとする。 ・銅またはマグネシウムの質量と化合した酸素の質量を測定する実験を行い、規則性を見いだそうとする。 ・化学変化による熱の利用に興味をもち、身のまわりへの活用を自ら探究しようとする。
	単元2 生物の体のつくりとはたらき 第1章 生物の体をつくるもの	8	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな生物を顕微鏡で観察するための技能を身につけている。 ・植物を顕微鏡で観察するために必要な操作の意味を理解し、その技能を身につけている。 ・動物の細胞を観察するために必要な操作の意味を理解し、その技能を身につけている。また、観察できたものを正しく記録している。 ・単細胞生物の特徴が細胞のつくりと深く関係していることについてまとめている。 ・多細胞生物における組織と器官について説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察結果を整理し、それぞれの生物の特徴についてまとめ、分類を行い、図などを用いて表現している。 ・いくつかの観察結果をもとに、さまざまな植物細胞に見られる共通点を言葉や図を用いて表現している。 ・観察結果から、動物細胞の特徴をまとめ、植物細胞との共通点を、比較しながら表現している。また、大きさや形など、植物細胞との相違点をまとめている。 ・単細胞生物と多細胞生物を比較し、多細胞生物では細胞の役割分担が見られることを見いだしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察をふり返り、ほかの生徒との話し合いを通じて理解を深め、「多様な生物の間に見られる共通点について説明してみよう。」という問いかけについて、学習前後をふり返り、自己の成長や変容を表現しようとしている。
2	第2章 植物の体のつくりとはたらき	10	<ul style="list-style-type: none"> ・上から見ると葉が互いに重なり合わないようについていることを理解する。 ・光合成のしくみを理解する。 ・葉の表皮や断面のプレパラートをつくり、顕微鏡で、観察することができる。 ・道管と師管の役割を理解している。 ・根や茎の切片をつくり、それらのつくりを観察することができる。 ・吸水と蒸散の関係の実験結果をふまえて、葉で蒸散が生じることで吸水が生じることを理解している。 ・水の移動を中心にして、植物のつくりとはたらきについて総合的に理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・葉のデンプンの生成について、ヨウ素液の反応をふまえて自分の考えをまとめて表現している。 ・光合成と二酸化炭素の関係の実験結果を正しく記録し、結果を考察している。 ・植物が呼吸をしていることを確認し、光合成や呼吸が行われているか、自らの考えを文章にまとめて表現している。 ・吸水と蒸散の関係を調べる実験で、自分たちの仮説を立て、その仮説の設定理由を科学的に考えている。 ・水の通り道の実験において、結果を正しく記録し、吸水された水が葉や茎のどこを通るのか考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・葉の細胞の中で光合成が行われている部分についての実験に進んでかかわり、ほかの生徒と協力しながら、粘り強く課題を解決しようとしている。 ・吸水と蒸散の関係の実験について、自分たちの考えた方法をもとにして実験に対して粘り強くとり組もうとしている。 ・葉や茎の水の通り道について、探究した過程をふり返ろうとしている。
	第3章 動物の体のつくりとはたらき	14	<ul style="list-style-type: none"> ・消化にかかわる器官について、消化管とそれにつく器官のつながりを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食物に関して気づいたことや疑問に思ったことから、食物が変化することを見だし 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習をふり返り、話し合いを通して、細胞の活動と器官のはたらきを結びつ

10			<ul style="list-style-type: none"> ・食物にさまざまな成分がふくまれていること、消化酵素には、さまざまなはたらきをもつものが存在することを理解している。 ・細胞の呼吸について理解している。また、肺が酸素をとりこみ、二酸化炭素を排出するための器官であることを理解している。 ・肺循環と体循環のちがいを心臓の構造と結びつけて理解している。また、動脈血および静脈血が流れている部分や、酸素の運搬について理解している。 ・血球の種類など血液の成分や、組織液の関係について理解している。 ・尿は腎臓でつくられ、尿尿素などの不要物がふくまれていることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デンプンが消化によって糖に変化することを確かめる実験方法について話し合い、表現している。 ・実験結果の記録方法について話し合い、表をつくるなどのくふうをして、適切にまとめている。 ・だ液のはたらきについての対照実験の意味をよく理解している。 ・デンプン、タンパク質、脂肪が、消化されていく過程を理解している。吸収がおもに小腸のかべで行われることを理解し、柔毛の構造と吸収のようすを表現している。 ・心臓に4つの部屋があることの意味を理解し、動脈、毛細血管、静脈、心臓、肺のつながりを表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・P.146 図1に掲載されている情報を整理し、生命を維持するはたらきについて理解を深めようとしている。 ・これまでの動物と植物に関する学習を、細胞、養分の獲得という2つの視点からふり返り、共通点と相違点を表や文章を使ってまとめ直すなど、粘り強く自らの学びを深めようとしている。
	第4章 動物の行動のしくみ	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトの感覚器官について理解している。 ・中枢神経と末しょう神経のはたらきについて理解しているとともに、実験を実施し、その結果を適切に記録している。 ・うでの曲げのばしの例などをもとに、骨と筋肉のはたらきについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・刺激にはどのようなものがあるか、動物はその刺激をからだのどこで受けとっているのかということを考え、それを話し合いなどで表現している。 ・実験の結果から、刺激から反応までの流れを適切に説明し、反射の特徴についても理解し、まとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習をふり返りながら、イカの解剖と観察について計画を立て、自ら探究しようとしている。
11	単元3 地球の大気と天気の変化	8	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの気象要素について、気象観測の方法を理解し、気象観測の計画を立てている。 ・気象観測の結果を記録・整理している。 ・空気に質量があることを理解し、地上の物体にはあらゆる方向から大気圧がはたらいていることを理解している。 ・気圧の値は等圧線というもので天気図として表され、時間変化することを理解している。また、風が気圧と関係していることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・天気の変化がどのような気象要素に関係するかを考え、表現している。 ・気象要素について、気象要素の時間変化をデータとしてまとめて整理している。 ・気象観測の結果から気象要素を整理してまとめている。 ・風が、気圧の高いところから低いところへとふくことを見いだしている。 ・水蒸気が水になるときの条件を調べる実験を計画している。 ・実験から、なぜ温度が下がると水蒸気が凝結するのかわ、説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大気圧に関してふり返り、具体的な数値の計算をするなどして自らの学習を調整しようとしている。 ・気圧と風の関係をもまえて、天気図から風向や風速を推定している。
	第1章 地球をとり巻く大気の様子				
12	第2章 空気中の水の変化	8	<ul style="list-style-type: none"> ・水蒸気をふくむ空気のかたまりが、気圧の低い場所に移動したときの空気の変化の実験を実施する技能を身につけ、結果を正確に記述している。 ・水が地球全体に循環していることを説明している。 ・演示実験より、暖気と寒気は境の面をつくることを理解し、暖気と寒気の接し方のちがいにより、種類の異なる前線がつけられることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果から、雲ができる現象を科学的に考察している。 ・前線付近では雲が多いこと、温帯低気圧の付近では天気は急激に変化することを説明している。 ・各データから、気象要素のグラフを作成し、グラフから気象要素の変化を読みとっている。 ・気象要素の変化から、前線の通過時刻や、通過した前線の種類を推定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・寒冷前線および温暖前線が通過したときの天気の変化に興味をもち、自分たちの住む地域で前線が通過したとき、どのような天気の変化が生じるのか科学的に探究しようとしている。
	第3章 天気の変化と大気の動き	8	<ul style="list-style-type: none"> ・天気予報で用いられる天気図や気象衛星画像などの資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節風や海陸風が生じるしくみを、陸と海のあたたまり 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本付近の大気の動きを地球規模の大気の動きの中で捉

				をもとに、低気圧や雲の移動をとらえ、大気の動きと関連づけて理解している。 ・日本付近の夏と冬の天気を、影響している気団に着目して、特徴を理解している。	方がちがうことと関連づけて説明している。	え、地球規模の大気の動きの原因を理解する。
		第4章 大気の動きと日本の四季	12	・日本の春と秋、梅雨の天気や台風の特徴について、偏西風や天気に影響を与える気団等と関連づけて理解している。	・翌日の天気を予想するにはどのようにすればよいか、科学的な根拠に基づき自分の考えをまとめ、表現している。 ・自分たちで作成した天気予報について、予想した内容や根拠を改善している。 ・水の恵みと災害から、自然と人間との関わり方について自分の考えを表現している。	・明日の天気を予想するための方法を探究しようとしている。 ・気象現象と日常生活とのつながりについて課題をもち、雨がもたらすめぐみや災害に関する事物や現象を進んで調べ、科学的に探究しようとしている。
3	1	単元4 電流とその利用 第1章 電流の性質	16	・回路をつくり、電流の流れ方を調べることができる。 ・直列回路と並列回路について理解する。 ・電圧と電流との関係をグラフに表すことができる。 ・電流計、電圧計、電源装置を正しく使うことができる。 ・直列回路と並列回路での電流、電圧の規則性を理解する。 ・未知の電流や電圧、電気抵抗を求めることができる。 ・導体・不導体について理解する。 ・電力について理解する。 ・電力と発生する熱量との関係について理解する。	・実験の結果から、直列回路と並列回路での電流、電圧、電流と電圧の間の規則性を見いだすことができる。 ・抵抗器のつなぎ方による全体の電気抵抗の大きさの変化を見いだすことができる。 ・電熱線から発生する熱量がどのような要因によって変わるのか、既習事項や日常経験から考えることができる。 ・実験の結果から、電力と発生した熱量との関係を見いだすことができる。	・他者との関わりながら、直列回路と並列回路での豆電球の明るさの違いについて電流や電圧と関連づけて探求している。 ・学習の過程を振り返り、電圧と電流の関係を表すグラフから、電気抵抗の大きさの違いを見いだそうとしている。 ・学習内容を振り返り、電力量の定義とその求め方、電力量の単位、電気器具から発生する熱量や消費する電気エネルギーとの関係を探求しようとする。
	2	第2章 電流の正体	8	・静電気を発生させて、静電気による力の規則性について調べることができる。 ・静電気と電流の関係について理解する。 ・放電現象について理解し、知識を身につけている。 ・電流の正体を理解する。	・静電気に関する日常経験から、髪の毛が下敷きに引きつけられたりする理由を考えることができる。 ・静電気による力の規則性を見いだすことができる。 ・電子の流れと電流の関係を見いだすことができる。	・探究のプロセスを振り返り、静電気による力の規則性について実験結果と関連づけながら現象を解明しようとしている。 ・探究のプロセスを振り返り、電流が電子の流れであることを観察事実と関連づけながら表現しようとしている。
	3	第3章 電流と磁界	10	・磁石のまわりには磁界ができ、磁界の様子は磁力線で表すことができることを理解する。 ・磁石とコイルを使って、電流が磁界から受ける力を調べることができる。 ・電流が磁界から力を受けることや、モーターが回転する仕組みを理解する。 ・コイルや棒磁石、検流計を使って電流が発生しているかを調べることができる。 ・電磁誘導や発電機のしくみを理解し、知識を身につけている。 ・直流と交流の違いを理解する。	・磁界について説明することができる。 ・実験の結果から、電流による磁界の規則性を見いだすことができる。 ・実験の結果から、電流が磁界から受ける力の規則性を見いだすことができる。 ・実験の結果から、電磁誘導の規則性を見いだすことができる。	・磁石による現象に興味をもち、進んで調べようとする。 ・電磁誘導の規則性を見出し、発電のしくみを考えることができる。 ・探究のプロセスを振り返り、電流がつくる磁界について、観測結果と関連付けながら、適切に表現している。
年間授業時数			140			

令和8年度 <3学年 理科> 年間指導計画

週時数	4
使用教科書	未来へひろがるサイエンス3年(啓林館)
使用補助教材	新中学問題集理科3年(教育開発出版社) ウイニングフィニッシュ(好学出版)

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・化学的、物理的、生物的事物・現象についての観察、実験を行い、観察・実験技能を習得させ、観察、実験の結果を考察して自らの考えを導き出し表現する能力を育てる。 ・イオン、物体の運動とエネルギーによる現象、生物の細胞と生殖、宇宙やそれを取り巻く地学現象について理解させ、これらの事象に対する科学的な見方や考え方を養う。

評価の観点と方法・材料
<p>【評価の観点】</p> <p>自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けているか。 日常生活や社会と関連付けながら それらの観察、実験などに関する技能を身に付けているか。</p> <p>【方法と材料】 定期考査、ワークシート、考査後のレポート、授業ノート、問題集ノート、授業での観察、実習中の観察</p>

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	1章 水溶液とイオン	8	化学変化をイオンのモデルと関連づけながら、原子の成り立ちとイオンについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	水溶液とイオンについて、見通しをもって観察、実験などを行い、イオンと関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見いだして表現しているとともに、探究の過程をふり返るなど、科学的に探究している。	水溶液とイオンに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
		2章 電池とイオン	10	化学変化をイオンのモデルと関連づけながら、金属イオン、化学変化と電池についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	化学変化と電池について、見通しをもって観察、実験などを行い、イオンと関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見いだして表現しているとともに、探究の過程をふり返るなど、科学的に探究している。	化学変化と電池に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	5	3章 酸・アルカリと塩	10	化学変化をイオンのモデルと関連づけながら、酸・アルカリ、中和と塩についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	水溶液とイオンについて、見通しをもって観察、実験などを行い、イオンと関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見いだして表現しているとともに、探究の過程をふり返るなど、科学的に探究している。	水溶液とイオンに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
		1章 生物のふえ方と成長	10	生物のふえ方と成長に関する事物・現象の特徴に着目しながら、生物のふえ方、生物の成長と細胞分裂についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生物のふえ方と成長について、観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、生物のふえ方と成長についての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに、探究の過程をふり返るなど、科学的に探究している。	生物のふえ方と成長に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	6	2章 遺伝の規則性と遺伝子	10	遺伝の規則性と遺伝子に関する事物・現象の特徴に着目しながら、遺伝の規則性と遺伝子についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	遺伝の規則性と遺伝子について、観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、遺伝現象についての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに、探究の過程をふり返るなど、科学的に探究している。	遺伝の規則性と遺伝子に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
		3章 生物の種類の多様性と進化	7	生物の種類の多様性と進化に関する事物・現象の特徴に着目しながら、生物の種類の多様性と進化についての基本的な概念や原理・法則などを理	生物の種類の多様性と進化について、観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、生物の種類の多様性と進化についての特徴や規	生物の種類の多様性と進化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
2	9	3章 生物の種類の多様性と進化	7	生物の種類の多様性と進化に関する事物・現象の特徴に着目しながら、生物の種類の多様性と進化についての基本的な概念や原理・法則などを理	生物の種類の多様性と進化について、観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、生物の種類の多様性と進化についての特徴や規	生物の種類の多様性と進化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

				解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	則性を見いだして表現しているとともに、探究の過程を繰り返すなど、科学的に探究している。	
	10	1章 力のつり合い	6	力のつり合いと合成・分解を日常生活や社会と関連づけながら、水中の物体にはたらく力、力の合成・分解についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	力のつり合いと合成・分解について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、力のつり合い、合成や分解の規則性や関係性を見いだして表現しているとともに、探究の過程を繰り返すなど、科学的に探究している。	力のつり合いと合成・分解に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	11	2章 物体の運動	6	運動の規則性を日常生活や社会と関連づけながら、運動の速さと向き、力と運動についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	運動の規則性について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、物体の運動の規則性や関係性を見いだして表現しているとともに、探究の過程を繰り返すなど、科学的に探究している。	運動の規則性に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	12	3章 仕事とエネルギー	6	仕事とエネルギーを日常生活や社会と関連づけながら、仕事とエネルギー、力学的エネルギーの保存についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	仕事とエネルギーについて、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、力学的エネルギーの規則性や関係性を見いだして表現しているとともに、探究の過程を繰り返すなど、科学的に探究している。	仕事とエネルギーに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
		4章 多様なエネルギーとその移り変わり	6	日常生活や社会と関連づけながら、さまざまなエネルギーの基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	日常生活や社会で使われているさまざまなエネルギーについて、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈しているなど、科学的に探究している。	さまざまなエネルギーに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
		5章 エネルギー資源とその利用	6	日常生活や社会と関連づけながら、エネルギー資源などの基本的な概念を理解している。	日常生活や社会で使われているエネルギー資源について、実験結果やデータを分析して解釈しているなど、科学的に探究している。	エネルギー資源に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
		1章 宇宙の天体	12	身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、太陽のようす、惑星と恒星についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	太陽のようす、惑星と恒星について、天体の観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、太陽のようす、惑星と恒星についての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに、探究の過程を繰り返すなど、科学的に探究している。	太陽のようす、惑星と恒星に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
		2章 太陽と恒星の動き	7	身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、日周運動と自転、年周運動と公転についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	天体の動きと地球の自転・公転について、天体の観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、天体の動きと地球の自転・公転についての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに、探究の過程を繰り返すなど、科学的に探究している。	天体の動きと地球の自転・公転に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
3	1	3章 月と金星の動きと見え方	8	身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、月や金星の運動と見え方についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	月や金星の運動と見え方について、天体の観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、月や金星の運動と見え方についての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに、探究の過程を繰り返すなど、科学的に探究している。	月や金星の運動と見え方に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

3	2	1章 自然界のつり合い	6	日常生活や社会と関連づけながら、自然界のつり合いについての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	生物と環境について、生物どうしの関係や、微生物のはたらきを調べる観察、実験などを行い、自然界のつり合いについて科学的に探究している。	生物と環境に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
		2章 さまざまな物質の利用と人間	5	日常生活や社会と関連づけながら、さまざまな物質とその利用についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	日常生活や社会で使われている物質について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈したり、自然環境の保全と科学技術のあり方について科学的に考察して判断したりするなど、科学的に探究している。	さまざまな物質に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
		3章 科学技術と人間	6	日常生活や社会と関連づけながら、科学技術の発展についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な資料調査や記録などの基本的な技能を身につけている。	科学技術の発展について、見通しをもって情報収集や資料調査などを行い、その結果を分析して解釈し、科学技術の発展の方向性について根拠にもとづいて予測しているなど、科学的に探究している。	科学技術の発展に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
		4章 人間と環境	6	日常生活や社会と関連づけながら、自然環境の調査と環境保全、地域の自然災害についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な資料調査や記録などの基本的な技能を身につけている。	自然環境の調査と環境保全、地域の自然災害について、身近な自然環境や地域の自然災害などを調べる調査などを行い、自然環境の保全や自然と人間の関わり方について科学的に考察して判断しているなど、科学的に探究している。	自然環境の調査と環境保全、地域の自然災害に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
		5章 持続可能な社会をめざして	5	日常生活や社会と関連づけながら、自然環境の保全と科学技術の利用についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な資料調査や記録などの基本的な技能を身につけている。	自然環境の保全と科学技術の利用について、調査活動や討論などを行い、持続可能な社会の構築に向けて、科学的な根拠にもとづいて多面的・総合的に考察して判断し、行動しているなど、科学的に探究している。	自然環境の保全と科学技術の利用に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふり返ったりするなど、持続可能な社会の構築に向けて、科学的に探究しようとしている。
年間授業時数			140			

令和8年度 <3学年 自然科学Ⅱ> 年間指導計画

週時数	1
使用教科書	なし
使用補助教材	なし

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・自然現象について教科横断的な探究、観察、実験をとおして科学的な見方、考え方を身に付ける。 ・自らの考えを導き出し、必要なデータを集約し、統計的に分析する能力及びプレゼンテーション能力を育てる。 ・探究を行うために必要な基本的な知識、技能を学習する。

評価の観点と方法・材料
<p>【評価の観点】 自然現象について教科横断的な探究、観察、実験をとおして科学的な見方、考え方を身に付けているか。 自らの考えを導き出し、必要なデータを集約し、統計的に分析する能力を身に付けているか。また、プレゼンテーションすることができているか。 探究を行うために必要な基本的な知識、技能を身に付けているか。</p> <p>【方法と材料】 ワークシートやレポートなど各種提出物の内容や取組のようす。 各種プレゼンテーションの事前準備・発表の内容や取組のようす。</p>

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7	I 理科実験の基礎 <Part1> ①化学・・・実験の基本操作（質量をはかる） 実践編 固体液体気体の密度をはかってみよう ②生物・・・実験の基本操作（長さをはかる） 実践編 小さいものを見よう II 文献読 読 その1	13	<ul style="list-style-type: none"> ・探究や観察等の意義や科学的に探究するために必要な基礎的な操作を行うことができる。 ・データや事実を集約し、統計的に分析してまとめ、グラフ等を活用しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・科学全般の知識を包括的に応用することができる。 ・実験をデータや事実を集約し、統計的に分析をまとめ、グラフ等を活用して表現しようとしている ・科学的に探究することの重要性を具体的に説明でき、事例について正しく判断できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業やグループでの話しあいの中で意見を出しあい、他者の意見についても調べて理解を深めている。 ・他の班の発表等を、関心をもって、意欲的に聞くことができる。 ・自分の意見をまとめることができる。
2	9 10 11 12	I 理科実験の基礎 <Part 2> ③物理・・・様々な測定法 IIIその他 ふれあい天文学講演会 事前学習・発表・講演会 II 文献読 読 その2	14	<ul style="list-style-type: none"> ・データや事実を集約し、統計的に分析してまとめ、グラフ等を活用してしようとしている。 ・パソコンを利用して、調べたことを表現できる。 ・最新の情報を理解し、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験をデータや事実を集約し、統計的に分析してまとめ、グラフ等を活用して表現しようとしている ・調べた内容を決められた時間の中で、班員が協力、分担して適切に発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班員と協力して、内容をまとめ、積極的に発表しようとしている。 ・他の班の発表を、関心をもって、意欲的に聞くことができる。 ・自分の意見をまとめることができる。
3	1 2 3	I 理科実験の基礎 <Part 3> ④地学・・・地球の大きさを測ろう IIIその他 科博（くちばし・生物） II 文献読 読 その3	8	<ul style="list-style-type: none"> ・データや事実を集約し、統計的に分析してまとめ、グラフ等を活用しようとしている。 ・基本内容を科学的に理解し、わかりやすく説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験をデータや事実を集約し、統計的に分析してまとめ、グラフ等を活用して表現しようとしている ・レポート作成などにおいて、適切な考察をしたり、実験内容に自分なりの工夫や調査内容などを示したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班員と協力して、内容をまとめ、積極的に発表しようとしている。 ・他の班の発表を、関心をもって、意欲的に聞くことができる。 ・自分の意見をまとめることができる。
年間授業時数			35			

令和8年度 <1学年 音楽> 年間指導計画

週時数	1
使用教科書	教育芸術社 中学生の音楽1 / 中学生の器楽
使用補助教材	教育芸術者 混声合唱曲集キミウタ

目標
(1) 曲想と音楽との関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。
(2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴く。
(3) 主体的・協働的に学習に取り組み、音楽文化に親しむことができる。

評価の観点と方法・材料
【知識・技能】 定期テスト、実技テスト、レポート課題、実技課題等
【思考・判断・表現】 定期テスト、実技テスト、レポート課題、実技課題等
【主体的に学習に取り組む態度】 学習態度、提出物、リフレクション等

学期	月	題材と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	合唱曲とパートの役割 ・校歌 ・合唱祭自由曲選曲	2	・発音や発声、姿勢等の歌唱の基礎的な技能を身に付けている。	・曲に合う表現を考えて歌唱している。	・全体練習パート練習などの学習に積極的に取り組もうとしている。
	5			・曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。	・音楽の特徴と曲想との関わりや、曲に対する評価とその根拠について考え、作品の良さや美しさを捉えている。	
	6	合唱の響きと表現① ・校歌（2部合唱） ・合唱祭自由曲（混声3部合唱）	7	・全体の響きや各声部の声を聴きながら、他者と合わせて歌っている。	・声部や曲にふさわしい表現を考え、表現意図をもって歌唱している。	・自己やグループの学習状況を振り返り、次回の目標や改善点を捉えている。
	7	詩と音楽の関わり ・リート作品の鑑賞 和楽器の演奏①	3 2	・音楽で登場人物の心情や情景を描写していることを理解している。 ・楽器の音色や響きと奏法とのかわりを理解し、演奏の基礎的な技能を身に付けている。	・聴き取った音楽の特徴と思い浮かぶ情景や感じ取ったことを理解している。 ・曲にふさわしい表現を考え、表現意図を持って演奏している。	・リート作品に関心を持ち、親しんで鑑賞している。 ・練習などの学習に積極的に取り組もうとしている。
2	9	音楽の要素とイメージのつながり ・ソネットの付いた作品の鑑賞	2	・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりを理解している。	・聴き取った音楽の特徴と思い浮かぶ情景や感じ取ったことを結び付けて楽曲を理解している。	・鑑賞の学習活動に積極的に取り組もうとしている。
	10	器楽作品の演奏① ・打楽器を用いたアンサンブル	2	・楽器の特性を理解し、演奏の基礎的な技能を身に付けている。	・全体の響きや他者の音を聴き、曲にふさわしい表現を考え、表現意図を持って演奏している。	・練習などの学習に積極的に取り組もうとしている。
	11	器楽作品の演奏② ・打楽器を用いたアンサンブル	6	・楽譜中の音楽用語や記号を理解している。 ・他者と合わせて演奏する技能を身に付けている。	・全体の響きや他者の音を聴き、曲にふさわしい表現を考え、表現意図を持って演奏している。	・自己やグループの学習状況を振り返り、次回の目標や改善点を捉えている。
	12	和楽器の演奏②	2	・楽器の特性を理解し、全体の響きを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付けている。	・曲にふさわしい表現を考え、表現意図を持って演奏している。	・練習などの学習に積極的に取り組もうとしている。
3	1	日本の音楽① ・民謡の鑑賞	3	・民謡の特徴を理解している。 ・楽器や声の出し方、楽曲の構造を理解している。	・音楽表現の固有性について考え、よさや美しさを味わって聴いている。	・民謡の鑑賞学習に積極的に取り組もうとしている。
	2	独唱曲① ・旋律や強弱の動きと曲想の関わり	3	曲想や表現上の効果と音楽の構造及び作品の背景について理解している。	・曲にふさわしい表現について考え、表現意図をもって歌唱している。	・練習や学習活動に積極的に取り組もうとしている。
	3	次年度の合唱に向けて① ・混声3部合唱	3	・発音や発声、姿勢等の歌唱の基礎的な技能を身に付けている。 ・楽譜中の音楽記号や姿勢等の歌唱の基礎的な技能を身に付けている。	・声部や曲にふさわしい表現を考え、表現意図をもって歌唱している。	・自己の学習状況を振り返り、次回の目標や改善点を捉えている。 ・練習や学習活動に積極的に取り組もうとしている。
年間授業時数			35			

令和8年度 <2学年 音楽> 年間指導計画

週時数	1
使用教科書	教育芸術社 中学生の音楽2・3上/ 教育芸術社 中学生の音楽2・3下/ 中学生の器楽
使用補助教材	正進社 コーラスフェスティバル アルトリコーダー

目標	
(1)	曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。
(2)	曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって鑑賞する。
(3)	主体的・協働的に学習に取り組み、音楽文化に親しみ、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく。

評価の観点と方法・材料	
【知識・技能】	定期テスト、実技テスト、レポート課題、実技課題等
【思考・判断・表現】	定期テスト、実技テスト、レポート課題、実技課題等
【主体的に学習に取り組む態度】	学習態度、提出物、リフレクション等

学期	月	題材と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	合唱曲とパートの役割 ・混声3部合唱 ・合唱祭自由曲選曲	3	・発音や発声、姿勢等の歌唱の基礎的な技能を身に付けている。 ・曲想と音楽の構造とのかかわりについて理解している。	・曲にふさわしい表現で歌唱している。 ・音楽の特徴と曲想の関わりや、曲に対する評価とその根拠について考え、作品の良さや美しさを捉えている。	・パート練習や全体練習などの学習活動に積極的に取り組もうとしている。
	5	合唱の響きと表現② ・合唱祭課題曲(混声3部合唱)	5	・楽譜中の音楽用語や音楽記号を理解し、発音や発声、姿勢等の歌唱の基礎的な技能を身に付けている。	・声部や曲にふさわしい表現を考え、表現意図をもって歌唱している。	・練習や学習活動に積極的に取り組み、自己やグループの学習状況を振り返り、次回の目標や改善点を捉えている。
	6	・合唱祭自由曲(混声3部合唱)				
	7	楽曲の形式 ・フーガ形式作品の鑑賞	3	・フーガ形式やパイプオルガンの仕組みを理解している。	・聴き取った音楽の特徴と感じ取ったことを結び付けて楽曲を解釈している。	・作品に関心を持ち、鑑賞の学習に積極的に取り組もうとしている。
		和楽器の演奏③	2	・楽器の特性を理解し、全体の響きを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付けている。	・作品やその背景を踏まえて、曲にふさわしい表現を考え、表現意図を持って演奏している。	・練習などの学習に積極的に取り組もうとしている。
2	9	独唱曲② ・曲想と歌詞の結びつき	3	・歌詞や曲想、表現上の効果と音楽の構造、作品の背景について理解している。	・曲にふさわしい表現について考え、表現意図をもって歌唱している。	・歌唱の練習や学習活動に積極的に取り組もうとしている。
	10	器楽作品の演奏③ ・アルトリコーダー作品	6	・楽器の特性を理解し、演奏の基礎的な技能を身に付けている。	・曲にふさわしい奏法や表現を考え、表現意図をもって演奏している。	・自己の学習状況を振り返り、次回の目標や改善点を捉えている。
	11	絵画と音楽の結びつき ・標題音楽作品の鑑賞	3	・組曲の仕組みや作品の背景を理解している。 ・標題とそれを表す楽器の用いられ方を理解している。	・聴き取った音楽の特徴と、思い浮かぶ情景や標題を結び付けて楽曲を理解している。	・標題音楽の鑑賞学習に積極的に取り組もうとしている。
3	1	日本の音楽② ・歌舞伎の鑑賞	2	・音楽・舞踏・演技が合わさった舞台芸術であることを理解する。	・音楽の特徴を味わい、音楽表現の固有性について考え、良さや美しさを味わって聴いている。	・歌舞伎の鑑賞学習に積極的に取り組もうとしている。
	2	独唱曲③ ・歌詞と旋律のかかわり	4	・曲想や表現上の効果と音楽の構造、作品の背景について理解している。	・曲にふさわしい表現について考え、表現意図をもって歌唱している。	・練習や学習活動に積極的に取り組もうとしている。
	3	次年度の合唱に向けて② ・混声4部合唱	4	・楽譜中の音楽用語や音楽記号を理解している。 ・発音や発声、姿勢等の歌唱の基礎的な技能を身に付けている。	・声部や曲にふさわしい表現を考え、表現意図をもって歌唱している。	・自己やグループの学習状況を振り返り、次回の目標や改善点を捉えている。 ・練習や学習活動に積極的に取り組もうとしている。
年間授業時数			35			

令和8年度 <3学年 音楽> 年間指導計画

週時数	1
使用教科書	教育芸術社 中学生の音楽2・3上/ 教育芸術社 中学生の音楽2・3下/ 中学生の器楽
使用補助教材	正進社 コーラスフェスティバル アルトリコーダー

目標
(1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。
(2) 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって鑑賞する。
(3) 主体的・協働的に学習に取り組み、音楽文化に親しみ、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく。

評価の観点と方法・材料
【知識・技能】 定期テスト、実技テスト、レポート課題、実技課題等
【思考・判断・表現】 定期テスト、実技テスト、レポート課題、実技課題等
【主体的に学習に取り組む態度】 学習態度、提出物、リフレクション等

学期	月	題材と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7	合唱曲とパートの役割 ・混声4部合唱 ・合唱祭自由曲選曲	3	・発音や発声、姿勢等の歌唱の基礎的な技能を身に付けている。 ・曲想と音楽の構造とのかかわりについて理解している。	・曲にふさわしい表現で歌唱している。 ・音楽の特徴と曲想の関わりや、曲に対する評価とその根拠について考え、作品の良さや美しさを捉えている。	・全体練習やパート練習など学習活動に積極的に取り組もうとしている。
		合唱の響きと表現③ ・合唱祭課題曲(混声4部合唱) ・合唱祭自由曲(混声3部合唱もしくは混声4部合唱)	7	・楽譜中の音楽用語や音楽記号を理解し、発音や発声、姿勢等の歌唱の基礎的な技能を身に付けている。	・声部や曲にふさわしい表現を考え、表現意図をもって歌唱している。	・自己やグループの学習状況を振り返り、次回の目標や改善点を捉えている。
		楽曲の構成 ・管弦楽曲の鑑賞	3	・曲全体を通して繰り返し演奏されるリズムと2つの旋律、演奏で使用する楽器について理解している。	・聴き取った音楽の特徴と思い浮かぶ情景や感じ取ったことを結び付けて楽曲を理解している。	・作品に関心を持ち、学習活動に積極的に取り組もうとしている。
2	9 10 11 12	器楽作品の演奏④ ・アルトリコーダー作品	5	・楽器の特性を理解し、演奏の基礎的な技能を身に付けている。 ・楽譜中の音楽用語や音楽記号を理解している。	・曲にふさわしい表現について考え、表現意図をもって演奏している。	・自己の学習状況を振り返り、次回の目標や改善点を捉えている。 ・演奏の練習や学習活動に積極的に取り組もうとしている。
		作曲者の思いや時代背景と音楽の結びつき ・標題音楽の鑑賞	3	・作曲者が記した標題や解説、作品の時代背景を理解している。	・聴き取った音楽の特徴と思い浮かぶ情景や感じ取ったことを結び付けて鑑賞している。	・鑑賞に積極的に取り組み、次の学習に活用しようとしている。
		器楽作品の演奏⑤ ・アルトリコーダー作品	6	・楽器の特性を理解し、演奏の基礎的な技能を身に付けている。 ・楽譜中の音楽用語や音楽記号を理解している。	・全体の響きや他パートの音を聴き、曲にふさわしい表現を考え、表現意図をもって演奏している。	・自己やグループの学習状況を振り返り、次回の目標や改善点を捉えている。 ・アンサンブルの学習活動に積極的に取り組もうとしている。
3	1 2 3	日本の音楽③ ・文楽の鑑賞	4	・音楽と人形の表現との関わりを理解している。	・音楽の特徴を味わい、音楽表現の固有性について考え、よさや美しさを味わって聴いている。	・文楽の鑑賞学習に積極的に取り組もうとしている。
		独唱曲④ ・旋律のまとめり ・歌詞と旋律のかかわり	2	・曲想や表現上の効果と音楽の構造、作品の背景について理解している。	・曲にふさわしい表現について考え、表現意図をもって歌唱している。	・自己の学習状況を振り返り、次回の目標や改善点を捉えている。 ・学習活動に積極的に取り組もうとしている。
		次年度の合唱に向けて③ ・混声4部合唱	2	・楽譜中の音楽用語や音楽記号を理解している。 ・発音や発声、姿勢等の歌唱の基礎的な技能を身に付けて歌唱している。	・声部や曲にふさわしい表現を考え、表現意図をもって歌唱している。	・自己やグループの学習状況を振り返り、次回の目標や改善点を捉えている。
年間授業時数			35			

令和8年度 <1学年 美術科> 年間指導計画

週時数	1時間
使用教科書	開隆堂
使用補助教材	レタリング字典 (秀学社) 表現と鑑賞 (東京版・開隆堂)

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現活動を工夫することができるようにする。 ・主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。 ・楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

評価の観点と方法・材料
<p>【知識・技能】他の学習や生活の中でも活用できるように概念を理解し、技能を生かせるように身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】美術的知識及び技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力が身につけている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】制作状況を把握し、表現方法について試行錯誤するなど、調整力をもって造形活動できている。</p> <p>評価材料：制作過程、活動状況、作品、行事やクラスでの美術的な活動、ワークシート、クロッキー帳、定期考査</p> <p>※個人内評価：上記以外に含まれないもの（よい点、可能性、進捗状況）</p>

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	オリエンテーション	1	・道具の正しい扱いを理解し、実践できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・色彩の類似性や相違、組み合わせの効果などを理解し、表現しようとしている。 ・文字の特性を生かし、効果的な表現ができる。 ・作品に用いられた色彩のよさや美しさなどの価値を理解し、味わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色の名前などに関心を示し、自然世界、人工世界の色彩の豊かさや違いなどに興味を示している ・生活の中でレタリングが効果的に使われていることに興味が持てる。
	5	色の学習 色相環	5	・色の混色、着色、配色の基礎が身につけている。		
	6	レタリング学習	3	・基本書体の性質や文字のバランスを理解し、表現に生かすことができる。		
	7	絵文字、ロゴマーク	2			
2	9	私の見つけた日本の夏	1	<ul style="list-style-type: none"> ・オノマトペから色と形で表現する方法を身につける。 ・コラグラフの技法を身に付ける。 ・素材、材料の特徴を効果的に生かすことができる。 ・自分の意図する考えを立体で表現できる技術が身についた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の意図に対しての、発見や構成、表現ができる。 ・学校生活の中での課題解決に向けて、考え、判断し、表現できる。 ・受け手の意識を変えることができるような表現方法を光か出そうとしている。 ・学校生活が豊かになるような表現ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの美しさに触れ、記述や発言を通して、第三者に伝えることができている。 ・材料の収集に意欲的である。 ・学校生活の課題に関心をもち、意欲的に取り入れることができる。
	10	【生徒の実態に合わせて選択】 A色と形でオノマトペ B①②③のいずれか1つ	7			
	11	① 生命力を関感じて ～リアルに作ろう～	6			
	12	② デイドリーマー ③ 多版多色木版				
3	1	私の見つけたお正月	1	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統や文化について継承していけるように、概念を理解している。 ・色、形、材料を工夫しながら、用具や工具を安全かつ効果的に扱いながら、構想に基づいて実験できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形実験の中で、よさや価値を見つけ出せる。 ・自身の考えを基に色と形で表現し、意味や価値を創造していくことができる。 ・ねらいに沿った、計画⇒実践⇒問題発見⇒解決策ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統や文化について興味関心を広げようとしている。 ・資料、材料、情報など事前準備ができる。 ・粘り強く取り組み、作業震度を調整するなどの振り返りや目標立てをしようとしている
	2	造形実験 緊張案を考ええる	9			
	3					
年間授業時数			35			

令和8年度 <2学年 美術科> 年間指導計画

週時数	1 時間
使用教科書	開隆堂
使用補助教材	レタリング字典 (秀学社) 表現と鑑賞 (東京版・開隆堂)

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようにする。 ・主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 ・主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

評価の観点と方法・材料
<p>【知識・技能】他の学習や生活の中でも活用できるように概念を理解し、技能を生かせるように身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】美術的知識及び技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力が身につけている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】制作状況を把握し、表現方法について試行錯誤するなど、調整力をもって造形活動できている。</p> <p>評価材料：制作過程、活動状況、作品、行事やクラスでの美術的な活動、ワークシート、クロッキー帳、定期考査</p> <p>※個人内評価：上記以外に含まれないもの（よい点、可能性、進捗状況）</p>

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7	オリエンテーション 木のもちや or 木の文具	1 10	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統的な玩具への理知識を広げる。 ・目的、用途、(発達段階)を理解し、制作の条件が考えられる。 ・木の特性を理解し、電動糸鋸が正しく使える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーモアや遊び心が感じられるデザインである。 ・用途に合わせた色や形、安全性などについて考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木で作られた工芸品に関心を持ち、主体的に取り組める。 ・制作過程を把握し、制作の進め方について試行錯誤するなど、調整力をもって進めている。 ・粘り強く取り組み、完成度を高めている。
2	9 10 11 12	私の見つけたパブリックアート 多版多色木版 モダンテクニック 木の葉で光を表そう	1 8 4	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックアートが何かを理解している ・彫刻刀の種類を知り、正しく使える。 ・版画の種類を理解して、凸版の良さを生かせる。 ・スパッタリングの技法を正しく行える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の周りのアートが生活にどのように関わっているのか考えられる。 ・1 版目の刷りからイメージして、新たな形を見いだせる。 ・色からイメージを膨らませることができる。 ・色や落ち葉の置き方に工夫をこなせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのアートに関心を持ち、常識にとらわれない自由な発想に関心をもてる。 ・何度も印刷を繰り返すなど、自分なりの工夫ができる。 ・自分の理想に向かって、色や彫りにこだわりをもって取り組んでいる。 ・落ち葉の準備がきちん และสามารถ。
3	1 2 3	私の見つけた伝統工芸 造形実験 光の表現を考える	1 10	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統工芸や文化について継承していけるように、概念を理解している。 ・色、形、材料を工夫しながら、用具や工具を安全かつ効果的に扱いながら、構想に基づいて実験できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統工芸に興味を持ち記述や発表を通して第三に伝えることができる。 ・造形実験の中で、よさや価値を見つけ出せる。 ・自身の考えを基に色と形で表現し、意味や価値を創造していくことができる。 ・ねらいに沿った、計画⇒実践⇒問題発見⇒解決策ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統や文化について興味を広げようとしている。 ・資料、材料、情報など事前準備ができる。 ・粘り強く取り組み、作業震度を調整するなどの振り返りや目標立てをしようとしている
年間授業時数			35			

令和8年度 <3学年 美術科> 年間指導計画

週時数	1 時間
使用教科書	開隆堂
使用補助教材	レタリング字典 (秀学社) 表現と鑑賞 (東京版・開隆堂)

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようにする。 ・主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 ・主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

評価の観点と方法・材料
<p>【知識・技能】他の学習や生活の中でも活用できるように概念を理解し、技能を生かせるように身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】美術的知識及び技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力が身につけている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】制作状況を把握し、表現方法について試行錯誤するなど、調整力をもって造形活動できている。</p> <p>評価材料：制作過程、活動状況、作品、行事やクラスでの美術的な活動、ワークシート、クロッキー帳、定期考査</p> <p>※個人内評価：上記以外に含まれないもの（よい点、可能性、進捗状況）</p>

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4 5 6 7	オリエンテーション ドライポイント	1 11	<ul style="list-style-type: none"> ・版画の種類と手法を理解している。 ・単純な線で複雑な形を表現するために様々な工夫があることを理解している。 ・ドライポイントの技法を理解し、ニードルが正しく使える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・モチーフの置き方、画用紙への構図に工夫がみられる。 ・印刷後の濃淡をイメージし、ニードルの強弱に工夫を凝らすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デッサンの中で没頭し、観察することに集中出来ている。 ・ニードルでは息を止めて1ストローク丁寧に線を引いている。
2	9 10 11 12	日本美術史 仏像の種類 寺院建築 修学旅行事前学習 仏像や寺院建築の紹介 私の見つけた奈良・京都の美 西洋美術史	5 8	<ul style="list-style-type: none"> ・仏像の種類、寺院建築について理解が深められ、他教科との学びにつながられている。 ・西洋美術史について基本的な概念を理解し、知識を身に付け、より深い興味を見いだせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルの紹介方法を工夫できる（ポスターやPC等の色やレイアウトの工夫） ・様々な時代背景と、作家たちに興味を見出し、レポート、クロッキー帳を通して西洋美術史について深く追究できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仏像の種類と作り方について興味をよせている。 ・日本の歴史ある造形美について、意見や見解が述べられる。
3	1 2 3	実態に応じて選択 ①自画像 (タイポグラフィ) (実は私は〇〇) ※造形実験として行う ②宝箱 (工芸)	10	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の個性が表れるような表情を明暗により表現することができる。 ・浮き彫り、菱合い彫りや薬研彫りをマスターしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手のポーズを加えることにより表情がよく表れるしぐさを探し出せる。 ・彫りの種類を組み合わせるなど、自分なりの完成形を見つけ出している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な自画像に関心を持ち、自分自身を見つめなおすことができる。 ・自分の見かた感じ方をしっかりと持ち、意欲的に鑑賞を行うことができる。 ・作品を通して、多様な見方、感じ方に気づき、互いの個性を認め合う雰囲気をつくれる。
年間授業時数			35			

令和8年度 <1学年 文化一般> 年間指導計画

週時数	0.9
使用教科書	音楽、美術と同様
使用補助教材	音楽、美術と同様

目標
・国内外の芸術作品を鑑賞することにより、世界文化への理解と自国の伝統文化への愛情を深め、芸術を通じた国際理解力を育てる。 ・作品の発表を通じ、お互いの個性を尊重し、見方・感じ方の違いを感じ、コミュニケーション力の育成を図る。

評価の観点と方法・材料
【知識・技能】他の学習や生活の中でも活用できるように概念を理解し、技能を生かせるように身に付けている。
【思考・判断・表現】音楽・美術的知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力が身につけている。
【主体的に学習に取り組む態度】制作状況を把握し、表現方法について試行錯誤するなど、調整力をもって鑑賞活動できている。
※授業での観察、発表、レポート

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	音ガイダンス・西洋音楽 西洋音楽各時代の音楽鑑賞 バロック時代の音楽	10	音弦楽器による標題音楽の表現方法を理解している。	音各場面のイメージを、どんな楽器をどのように用いて表現しているか気づいている。	音バロック時代の楽曲の形態と演奏法に興味をもち、鑑賞に臨んでいる。
	5	音西洋音楽 古典派の音楽		音バリトン独唱による標題音楽の表現方法を理解している。	音ピアノ伴奏の工夫と、表現の効果を感じ取っている。	音古典派～初期ロマン派の楽曲に興味をもち、鑑賞に臨んでいる。
	6 7	美日本美術 平安～江戸時代の「折の文化」「鳥獣戯画」「暮らしの中の芸術」「風呂敷文化」 葛飾北斎		美時代の中での変貌と変わらぬ日本美術のよさに気づけ、理解を深められる。	美絵画を見てストーリーを組み立てることが出来る。 美作品を鑑賞しイメージをふくらませ、自分の感じ方を表現できる。	美暮らしの中の美術に興味を示し、調べ学習ができる。
2	9	音西洋音楽ロマン派の音楽	12	・管弦楽による標題音楽の表現方法を理解している。	音各場面のイメージを、どんな楽器をどのように用いて表現しているか気づいている。	音ロマン派の楽曲に興味をもち、鑑賞に臨んでいる。
	10	音世界の民俗音楽の鑑賞 韓国「カヤグム」バリ島「ケチャ」ガムラン」インド「シタール」モンゴル「オルティンドー」		音西洋音楽との相違点を理解している。	音聞き手に陶醉感を起こす、持続音の働きに気づいている。 音聞き手に陶醉感を呼び起こす、打楽器の連続するリズムを感じて鑑賞している	音民俗音楽に興味をもち、鑑賞に臨んでいる。 音不協和音がもたらす独特な音楽空間を味わっている。
	11	音日本の郷土芸能 日本の祭り「早池峰神楽」「天神祭り」「三社祭」「長崎くんち」「阿波踊り」		音西洋音楽と異なる独特の価値観を理解している。	美日本と西洋の絵画の違いや暮らしの違いについて、自分なりの感想を第三者に伝えることができる。	音郷土芸能に興味をもち、鑑賞に臨んでいる。
	12	美西洋美術 印象派の絵画 ジョルジュ・スーラ		美日本と西洋の絵画の違いや暮らしの違いを理解している。	美西洋の絵画に興味関心を示し、調べ学習ができている。	
3	1	音日本音楽作品や芸能の鑑賞	8	音箏の構造や奏法を理解している。	音日本人のもつ「良い音」のイメージに気づいている。	音箏に親しみ、鑑賞に臨んでいる。
	2	音箏曲 三味線音楽		音三味線の構造や奏法を理解している。	音三味線曲を通じて日本の音楽を理解している。	音三味線に親しみ、鑑賞に臨んでいる。
	3	美日本の伝統工芸品 手ぬぐい染め		美柄の色や配置の工夫をし、ステンシルの技法を習得できる。	美手ぬぐいの染の手順を理解し、構図を考えることができる。独自の図柄が起こせる。 ・友達の作品と比較し、良い点を自分の作品に生かせる。	美日本の手ぬぐいの図柄に興味を持ち、オリジナルの図柄の資料集めができる。
年間授業時数			30			

令和8年度 <1学年 保健体育科> 年間指導計画

週時数	3
使用教科書	中学校 保健体育 (東京書籍)
使用補助教材	ステップアップ中学体育 (大修館書店) 保健学習ノート (正進社)

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。 ・運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ・生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

評価の観点と方法・材料
<評価の観点> 知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度
<評価の方法と材料> 定期考査、出席状況、授業の様子、実技テスト、提出物などにより総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	・体育理論 (運動やスポーツの多様性)	1	(体づくり運動) 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などを理解し、目的に適した運動を身に付け、組み合わせることができる。	(体育) 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	(体育) 学習に積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとする、話し合いに参加しようすることなどや、健康・安全に気を配っている。
	5	・体づくり運動	8			
		・球技 (バスケットボール)	8			
	6	・陸上競技 (短距離走・ハードル走)	8		(体育理論) 運動やスポーツが多様であることについて、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。	
	7	・水泳 (クロール・平泳ぎ)	5	(器械運動) 技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うことができる。		(体育理論) 運動やスポーツが多様であることについて、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して運動やスポーツが多様であることについての学習に積極的に取り組んでいる。
		・保健: 健康な生活と疾病の予防 (健康の成り立ち、運動と健康、食生活と健康、休養・睡眠と健康、調和のとれた生活)	5		(保健) 健康な生活と疾病の予防に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどに関連付けて解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合っている。	
				(陸上競技:) 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができる。		
2	9	・体育理論 (運動やスポーツの多様性)	2			(保健) 生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養っている。
	10	・水泳 (クロール・平泳ぎ)	4		(保健) 心身の機能の発達と心の健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどに関連付けて、解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合っている。	
	11	・武道 (剣道)	8			
		・器械運動 (マット)	8	(水泳) 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、泳法を身に付けることができる。		
	12	・球技 (バレーボール)	8	(球技) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性		

3	1	・ダンス（現代的なリズムのダンス）	15	や成り立ち、技術の名称や 行い方、その運動に関連し て高まる体力などを理解す るとともに、基本的な技能 や仲間と連携した動きでゲ ームを展開することができる。	
	2	・陸上競技（長距離走）	5		
	3	・保健：心身の発達と心の 健康（人との関わりと自 分らしさ、欲求への対処、 ストレスへの対処、心と 体の関わり）	8		
			4	(球技：ゴール型) ボール操 作と空間に走り込むなどの 動きによってゴール前での 攻防をすることができる。 (球技：ネット型) ボールや 用具の操作と定位置に戻る などの動きによって空いた 場所をめぐる攻防をすこと ができる。 (武道) 技ができる楽しさや 喜びを味わい、武道の特性 や成り立ち、伝統的な考え 方、技の名称や行い方、そ の運動に関連して高まる体 力などを理解するとともに 、基本動作や基本となる 技を用いて簡易な攻防を展 開することができる。 (ダンス) 感じを込めて踊っ たりみんなで踊ったりする 楽しさや喜びを味わい、ダ ンスの特性や由来、表現の 仕方、その運動に関連して 高まる体力などを理解する とともに、イメージを捉え た表現や踊りを通した交流 をすることができる。 (体育理論) 運動やスポーツ が多様であることについ て、課題を発見し、その解 決を目指した活動を通し て、運動やスポーツが多様 であることについて理解し ている (保健：健康な生活と病気の 予防) 課題を発見し、その 解決を目指した活動を通し て、健康な生活と疾病の予 防について理解を深めてい る。 (保健：心身の機能の発達と 心の健康) 課題を発見し、 その解決を目指した活動 を通して、心身の機能の発達 と心の健康について理解を 深めるとともに、ストレス への対処をすること、心身 の機能の発達と心の健康に ついて、理解している。	
年間授業時数			105		

令和8年度 <2学年 保健体育科> 年間指導計画

週時数	3
使用教科書	中学校 保健体育 (東京書籍)
使用補助教材	ステップアップ中学体育 (大修館書店) 保健学習ノート (正進社)

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。 ・運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ・生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

評価の観点と方法・材料
<評価の観点> 知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度
<評価の方法と材料> 定期考査、出席状況、授業の様子、実技テスト、提出物などにより総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	・体育理論 (運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方)	1	(体づくり運動) 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などを理解し、目的に適した運動を身に付け、組み合わせることができる。 (器械運動) 技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うことができる。 (陸上競技:) 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができる。	(体育) 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。 (体育理論) 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。 (保健) 健康な生活と疾病の予防に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどと関連付けて解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合っている。	(体育) 学習に積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとする、話合いに参加しようすることなどや、健康・安全に気を配っている。 (体育理論) 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての学習に積極的に取り組んでいる。 (保健) 生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養っている。
	5	・体づくり運動	8			
	6	・球技 (ソフトボール、バレーボール)	8			
	7	・武道 (剣道)	8			
		・陸上競技 (走り高跳び)	8			
		・水泳 (クロール・平泳ぎ・背泳ぎ)	5			
	・保健: 健康な生活と病気の子防 (生活習慣と健康、生活習慣病などの予防、喫煙・飲酒・薬物乱用と健康)	3				
2	9	・体育理論 (運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方)	2	(水泳) 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、泳法を身に付けることができる。 (球技) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができる。	(保健) 傷害の防止 (交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因、交通事故などによる傷害の防止、自然災害による傷害の防止)	
	10	・水泳 (クロール・平泳ぎ・背泳ぎ)	4			
	11	・球技 (バドミントン、ハンドボール)	8			
	12	・陸上競技 (走り高跳び)	8			
		・器械運動 (跳び箱運動)	7			
		・保健: 傷害の防止 (交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因、交通事故などによる傷害の防止、自然災害による傷害の防止)	4			

3	1	・陸上競技（長距離走）	13	る。
	2	・球技（バドミントン）	7	（球技：ゴール型）ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができる。
		・武道（剣道）	7	
	3	・保健：傷害の防止（応急手当の意義と実際）	4	（球技：ネット型）ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 （球技：ベースボール型）基本的なバット操作と走塁での攻撃，ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすることができる。 （武道）技ができる楽しさや喜びを味わい，武道の特性や成り立ち，伝統的な考え方や，技の名称や行い方，その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに，基本動作や基本となる技を用いて簡易な攻防を展開することができる。 （体育理論）運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について，課題を発見し，その解決を目指した活動を通して，運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について理解している。 （保健：健康な生活と病気の予防）課題を発見し，その解決を目指した活動を通して，健康な生活と疾病の予防について理解を深めている。 （保健：傷害の防止）課題を発見し，その解決を目指した活動を通して，傷害の防止について理解を深めるとともに，応急手当をすること，傷害の防止について，危険の予測やその回避の方法を考え，それらを表現している。
年間授業時数			105	

令和8年度 <3学年 保健体育科> 年間指導計画

週時数	3
使用教科書	中学校 保健体育 (大日本図書)
使用補助教材	ステップアップ中学体育 (大修館書店) 保健学習ノート (正進社)

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。 ・運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ・生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

評価の観点と方法・材料
<評価の観点> 知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度
<評価の方法と材料> 定期考査、出席状況、授業の様子、実技テスト、提出物などにより総合的に評価する。

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	・体育理論 (文化としてのスポーツの意義))	2	(体づくり運動) 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などを理解し、目的に適した運動を身に付け、組み合わせることができる。	(体育) 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	(体育) 学習に積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとする、話し合いに参加しようとするなどや、健康・安全に気を配っている。
	5	・体づくり運動	16			
	6	・球技 (ソフトボール、バスケットボール)	9	(陸上競技) 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができる。	(体育理論) 文化としてのスポーツの意義について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、文化としてのスポーツの意義について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。	(体育理論) 文化としてのスポーツの意義について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、文化としてのスポーツの意義についての学習に主体的に取り組んでいる。
	7	・陸上競技	4			
		・水泳 (4泳法)	5	(水泳) 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、泳法を身に付けることができる。	(保健) 健康な生活と疾病の予防に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどに関連付けて解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合っている。	(保健) 生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養っている。
2	9	・体育理論 (文化としてのスポーツの意義)	2		(保健) 健康と環境に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどに関連付けて解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合っている。	
	10	・水泳 (4泳法)	4	(球技) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができる。		
		・球技 (バドミントン)	9			
	11	・球技 (サッカー)	9			
		・球技 (バレーボール、ハンドボール)	9	(球技: ゴール型) ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができる。		
	12	・健康な生活と病気の予防 (感染症の予防)	7	(球技: ネット型) ボールや		

3	1	・ダンス（フォークダンス）	16	用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。		
		・陸上競技（長距離走）	9			
	2	・健康な生活と病気の予防 （健康の保持増進や疾病の予防のための個人や社会の取組）	4	（球技：ベースボール型）基本的なバット操作と走塁での攻撃，ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすることができる。		
	3			（ダンス） 感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい，ダンスの特性や由来，表現の仕方，その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに，イメージを捉えた表現や踊りを通じた交流をすることができる。		
				（体育理論）文化としてのスポーツの意義について，課題を発見し，その解決を目指した活動を通して，文化としてのスポーツの意義について理解している。		
				（保健：健康な生活と病気の予防） 課題を発見し，その解決を目指した活動を通して，健康な生活と疾病の予防について理解を深めている。		
				（保健）健康と環境について，課題を発見し，その解決を目指した活動を通して，健康と環境について理解を深め，健康と環境に関する情報から課題を発見し，その解決に向けて思考し判断するとともに，それらを表現している。		
年間授業時数			105			

令和8年度 < 1 学年 技術・家庭科 (技術分野) > 年間指導計画

週時数	1
使用教科書	新しい技術・家庭 (技術分野) 東書
使用補助教材	

目標
・生活の自立と共生のための基礎的な考え方や知識・技術を身に付け、生活を工夫し、創造する実践力を養う。

評価の観点と方法・材料
定期考査、製作品、授業態度、発言、レポートなど

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準			
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度	
1	4	生物の育成と栽培に必要な栽培技術・栽培計画・作物が育つ条件生物育成に関する技術	3	・作物に適した栽培計画を作成できる。(栽培計画表) ・栽培記録をレポートにまとめることができる。 ・光、温度、土、水、酸素などの環境要素と作物の生育との関係がわかる。	・作物への病害虫の予防、種まきから収穫までの作業や水耕栽培ができる。	・栽培やバイオ技術、環境などに、やさしい栽培について関心を高める	
	5		4	・安全に配慮しながら実験ができる。 ・木材の種類や各部の組織の名称や特徴、繊維方向と強度の違いの関係、収縮や変形の様子を説明できる。	・繊維方向のちがいによって強度が違うこと理由や木材が乾燥すると変形する理由を、具体的な図やイメージで考え工夫している。	・木材の特徴、構造、変形について関心を持つ。 ・木材と生活について関心を持つ。	
	6						木材の性質と利用
2	9	立体の表し方 簡単なもの作り 設計図の見方と加工の技術	4	・製品ができるまでの構想を理解できる。 ・製品が出来るまでの構想に関する基礎的な知識を身に付けている。	・製品が出来るまでの構想を立てることができる。 ・作るものの材料表や作業計画を作成できる。	・進んで作品の構想をまとめようとしている。 ・進んで作るものの材料表や作業計画を作成しようとしている。	
	10		9	・製品を製作するために必要な作業の手順や、効率のよさを意識して考えている。 ・構想図から材料表を作成することができる。 ・各図面や材料表について性質や使用法を理解している。	・作業の手順の工夫について効率の良い方法を考え、一番良いものを選択できる。 ・効率よく作業ができるよう手順に工夫している。	・工具や機械を安全な使い方を理解して、正しく作業することができる。 ・木取り図、部品図、組み立て図および材料表について関心を持ち、理解しようとする。	
	11						12
	12						
3	1	工夫をこらしたもの作り 身のまわりの材料	8	・材料に適した工具を使い、安全で正確にけがきができる。 ・工具の使い方や、正しい使い方を理解している。 ・塗装の注意点に気をつけながら、塗装ができる。 各種材料製品に関する基礎的な知識を身に付けている。	・正確に板材の切断をしようと工夫している。 ・工具の選択や、材料の固定方法などを工夫している。 ・安全に作業ができるよう工夫し、使用後の工具の管理にも留意している。 ・身の回りの製品はどのような工夫がなされているか理解できる。	・工具の種類や用途について進んで調べようとしている。 ・安全に留意し、部品加工しようとしている。 ・設計どおりに正確で美しい製品をつくらうとしている。 ・工具を適切に使用し、手順を考え、作業している。 ・木材・金属・プラスチック製品の特徴について関心を持つ	
	2		2				
	3						
年間授業時数			35				

令和8年度 <2学年 技術・家庭科（技術分野）> 年間指導計画

週時数	1
使用教科書	新しい技術・家庭（技術分野）東書
使用補助教材	

目標
・生活の自立と共生のための基礎的な考え方や知識・技術を身に付け、生活を工夫し、創造する実践力を養う。

評価の観点と方法・材料
定期考査、製作品、授業態度、発言、レポートなど

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	・エネルギー変換について知る ・電気を作る仕組みを知ろう ・電気を供給するしくみ	2	・エネルギー変換の意味を理解している。 ・各発電方式の特徴を理解している。 電源の種類について理解している ・いくつかの電気機器の電源、負荷、導線などを指摘することができる。	・エネルギー変換の例を発表できる。 ・発電方式の特徴を発表できる ・交流と直流電気について説明できる ・電気の基礎的な知識について調べている。	・エネルギー変換について関心を持つ。 ・発電と資源問題、公害問題について関心を持つ ・送電や配電の必要な理由を調べる ・身近な電気機器の電気回路とその特徴や回路図について調べている
	5					
	6					
	7	・電気回路				
2	9	・電気機器の安全な使用方法	5	・図記号を用いて電気回路をかき表すことができる。 ・屋内配線の仕組みについて理解している ・実際の電気機器を観察し、電力や使用電流がわかる。 ・工具の正しい使い方や特徴を理解している ・各部品のはたらきや取付方法を正しく理解している。 ・いくつかの電子部品について働きや記号を理解する ・トランジスタの働き、特性を理解する	・電気回路の基本的な構成と図記号がわかり、電気回路のかき方が説明できる。 ・電気による事故の原因やヒューズや漏電遮断機などの働きが説明でき意義がわかる。 ・回路計の使用法や、点検の方法について説明できる。 ・工具についてどうすれば正確にできるか工夫している。 ・回路計を用いて、導通テストや絶縁テストを確実に行う工夫をしている。 ・作業の方法や、使用上の注意点について説明できる。	・電気の事故について関心を持ち、その原因を調べる ・電気による事故にはどのようなものがあるか調べようとしている。 ・正しい工具の使用法や、はんだ付けの仕方について関心を持つ。 ・作品が完成しても、安全点検をしてから使用するという姿勢ができています。 ・ショート、漏電、感電について関心を持ち、事故を起こさない意識を持つ。
	10					
	11	・電気実習 延長コードの製作	3			
	12	・エネルギー変換を利用した作品の製作	4			
		・LEDライトの回路設計（常夜灯の製作）	2			
3	1	・電気実習（照明灯の製作） ・運動を伝える仕組み	9	・作業を通して理解したことを説明できる。 ・安全に留意し、工具の正しい使い方を理解しながら確実な作業ができる。 ・回転運動や往復運動の仕組みを理解する	・各部品のはたらきや、図記号、取付方法について理解し、部品で確認している。 ・部品取付の作業をしながら、ワークブックに感想や反省などをきちんと記録している。 ・回転運動や往復運動についてその仕組みを発表できる。	・ラジオで使用されている電子部品について関心を持つ。 ・簡単な照明器具について安全に注意しながら設計しようとしている ・機械の運動を伝える仕組みの種類を調べる
	2					
	3					
年間授業時数			35			

令和8年度 <3学年 技術・家庭科（技術分野）> 年間指導計画

週時数	0.5
使用教科書	新しい技術・家庭（技術分野）東書
使用補助教材	

目標
・生活の自立と共生のための基礎的な考え方や知識・技術を身に付け、生活を工夫し、創造する実践力を養う。

評価の観点と方法・材料
定期考査、製作品、授業態度、発言、レポートなど

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	<ul style="list-style-type: none"> 生活や社会、産業のさまざまな場面でコンピュータなどの情報の技術が利用されていることを知る。 コンピュータは全ての情報を数値化して処理していることを知る。 情報のデジタル化の方法をまとめる。 	3	・情報の表現や記録ができる仕組みを理解している	・情報の技術に込められた工夫を読み取り、「技術の見方・考え方」に気付くことができる。	・主体的に情報の技術について考えようとしている。
	5		3	・情報のデジタル化について実例を使って方法を確認させる。	・情報のデジタル化の仕組み、デジタル化の方法とデータ量の関係について考えることができる。	・身のまわりの技術に、情報のデジタル化が活用されていることを主体的に捉えられる。
	6		7	・デジタル化とデータ量について確認させる。		
2	9	<ul style="list-style-type: none"> 情報通信ネットワークの仕組みについてまとめる。 情報通信ネットワークを使って、情報をやりとりする仕組みについて知る。 情報の特性について考え、情報が社会に与える影響について調べる。 	3	・情報通信ネットワークの構成について理解している。	・LAN やインターネットなどの情報通信ネットワークの基本的な構成を考えることができる。	・情報通信ネットワークを利用するにあたって、発生する可能性のある問題について調べようとしている。
	10		3	・情報通信ネットワーク上での情報を利用する仕組みについて理解している。	・著作権を含めた知的財産権の保護の必要性を判断でき、知的創造活動や発明のためにも、必要な権利であることを考えることができる。	・情報が社会に与える影響を理解して、望ましい情報社会のため取るべき態度を身に付けようとしている。
	11		12	・情報の特性を理解して、情報を安全に利用することができる技能を身に付けている。		
3	1	<ul style="list-style-type: none"> 双方向性のあるコンテンツにはどのようなものがあるか調べる。 双方向性のあるコンテンツの基本的な仕組みについて考える。 	3	・双方向性のあるコンテンツの基本的な仕組みを理解している。	・コンテンツに利用されているメディアの例とその特徴を整理できる。	・主体的に情報の技術について考え、理解しようとしている。
	2		2	・安全で適切なプログラムの制作と動作の確認、デバックができる技能を身に付けている。	・情報処理の手順を表現する図として、アクティビティ図やフローチャートについてその特徴を判断できる。	・自分なりの新しい考え方や捉え方によって、知的財産を創造するとともに、他者のアイデアを尊重し、それらを保護・活用しようとしている
	3					
年間授業時数			17			

令和8年度 <1学年 家庭> 年間指導計画

週時数	1時間
使用教科書	新編 新しい技術・家庭 家庭分野 (東京書籍)
使用補助教材	衣食住の生活 食生活 (地域教材社)

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・家族との関わりについて理解し、よりよい家族関係を築くための工夫を考えることができる。 ・食育の充実を通して自立から共生これからの生活へと視野を広げる。 ・毎日の生活の中での食・家庭・家族などに関する課題を見つけ、課題解決の方法を考える。

評価の観点と方法・材料
提出物、授業への取り組み、定期考査、作品

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	・オリエンテーション ・家族・家庭生活 1 自分の成長と家族・家庭生活	1	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や家族の機能や地域とのかかわりを理解している。 ・幼児の身体の発達や運動機能の発達、言葉及び情緒、社会性の発達の特徴について理解している。 ・幼児の心身の発達を支える家族の役割について理解している。 ・食事の役割や健康と食事のかかわりについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活について課題を見つけ家族関係をよりよくする方法を考え工夫している。 ・自分の食習慣について考え工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住や家族の生活について関心を持っている。 ・これからの自分と家族とのかかわりに関心をもち家族関係をよりよくする方法を考えようとしている。 ・幼いころを振り返り、自分の成長や生活は家族やそれに関わる人々に支えられてきたことに気付いている。 ・食事の役割や健康との関わりについて関心を持っている。
	5	4 家庭生活と地域のかかわり	4			
	6	・食生活 1 食事の役割と食習慣	3			
	7		3			
2	9	2 中学生に必要な栄養素を満たす食事 6 献立づくり	4	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の種類とはたらきについて理解している。 食品に含まれる栄養素は、食品によって違いがあることを理解している。 ・バランスのとれた食生活を考えている。 ・加工食品の表示の意味を読み取ることができる。 ・食品の調理上の性質について理解している。 ・加熱調理と調味の要点について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な食品を6つの食品群に分類する方法や食品群別摂取量のめやすと1日に必要な食品の種類と概量について理解し献立を立てようとしている。 ・中学生に必要な栄養を満たす1日分の献立の立て方を理解している。 ・食品の選択と簡単な日常食の調理を工夫している。 ・安全で能率的な調理の流れと手順を理解し、調理計画を工夫できる。 ・身近な食品の品質について調べ、用途に応じて適切に選択できる。 ・洗う、切る、加熱する、調味するなどの基本的な調理操作ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の種類と働きについて関心をもち、考えようとしている。 ・食品成分表を使い、身近な食品の栄養的な特徴を調べようとしている。 ・1日に必要な食品の種類と概量について関心を持ち、意欲的に調べようとしている。 ・身近な食品に関心を持ち、用途に応じて適切に選択しようとしている。 ・日常食の調理に関心を持ち、調理技術を習得しようとしている。
	10		3			
	11	3 さまざまな食品とその選択	4			
	12	4 日常食の調理	3			

3	1	5 地域の食文化	5	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の食材を用いることの意義について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な食生活を目標として、課題とその解決方法について考え、工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で取れる食材や郷土料理、行事食について調べようとしている。
	2	7 持続可能な食生活	4	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活をとりまく問題について理解している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の食生活をよりよくしようと考えている。
	3					
年間授業時数			35			

令和8年度 <2学年 家庭> 年間指導計画

週時数	1時間
使用教科書	新編 新しい技術・家庭 家庭分野 (東京書籍)
使用補助教材	衣食住の生活 衣生活・住生活 (地域教材社)

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて衣服を着用することの大切さに気付くことができる。 ・環境や資源に配慮した衣生活を送るための課題を見つけることができる。 ・住まいの役割と家族との関わりについて理解し心地よい住まい方の工夫を考えることができる。

評価の観点と方法・材料
提出物、授業への取り組み、定期考査、作品

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	・衣生活 1 衣服の役割	1	目的に応じた着用について理解している。	自分らしい着方について考え、工夫している。	和服について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
		2 私らしさと T.P.O.	2	個性を生かす着用について理解している。		
	5	3 日本の衣服の文化	2	衣服と社会生活との関わり(和服)について理解している。		
		4 衣服計画と必要な衣服の選択	2	衣服の適切な選択について理解している。		
	6	5 作って楽しい布作品	5	製作する物に適した材料や縫い方について理解しているとともに、用具を安全に取り扱い、製作が適切にできる。		
2	9	5 作って楽しい布作品	6	製作する物に適した材料や縫い方について理解しているとともに、用具を安全に取り扱い、製作が適切にできる。	布を用いた物の製作について課題を見いだして課題を設定し、実践に向けた計画を考え、工夫し、実践を評価したり改善したりし、考察したことを論理的に表現している。	よりよい衣生活の実現に向けて、布を用いた物の製作について、課題の解決に主体的に取り組んだり、活動を振り返って改善したりして、工夫し創造し、実践しようとしている。
		10	6 衣服の手入れ	3	衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解しているとともに、適切にできる。	日常着の手入れについて課題を設定し、計画を考え、工夫し、実践を評価したり改善したりし、考察したことを論理的に表現している。
	11		7 持続可能な衣生活を目指して	2		持続可能な衣生活を指して、課題とその解決方法について考え、工夫している。
		12	・住生活 1 住まいの役割	1	住居の基本的な機能について理解している。	
	2 住まいと気候風土の関		2	家族の生活(和式と洋式、		住文化の継承について、課

		わり		気候風土)と住空間の関わりについて理解している。		題の解決に主体的に取り組もうとしている。
3	1	3 健康で快適な室内環境	2	室内の空気環境など家族の健康を考えた住空間の整え方について理解している。	室内の空気環境など家族の健康を考えた住空間の整え方について考え、工夫している。	住空間の整え方について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
		4 家族の住まいを安全・安心に	2	家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。	家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見いだして課題を設定し、実践に向けた計画を考え、工夫し、実践を評価したり改善したりし、活動について、考察したことを論理的に表現している。	住空間の整え方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、活動を振り返って改善したりして、工夫し創造し、実践しようとしている。
	2	5 災害への対策	3	安全を考えた住空間の整え方について理解している。		安全を考えた住空間の整え方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、活動を振り返って改善したりして、工夫し創造し、実践しようとしている。
	3	6 持続可能な住生活を目標して	2		持続可能な住生活を目標して、課題とその解決方法について考え、工夫している。	よりよい住生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、工夫し創造し、実践しようとしている。
年間授業時数			35			

令和8年度 <3学年 家庭> 年間指導計画

週時数	0.5時間
使用教科書	技術・家庭 家庭分野（開隆堂）
使用補助教材	消費生活・環境（地域教材社）

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・家族との関わりについて理解し、よりよい家族関係を築くための工夫を考えることができる。 ・環境や資源に配慮した生活を送るための課題を見つけることができる。

評価の観点と方法・材料
提出物、授業への取り組み、定期考査、作品

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	・家族・家庭生活 1 幼児の生活と家族	1	幼い頃を振り返り、周囲の人との関わり大切さについて気づいている。		
	5	2 幼児とのかかわり	2	幼児の発達の特徴について理解している。	幼児の生活の中から問題を見いだして課題を設定し、実践に向けた計画を考え、工夫し、実践を評価したり改善したりし、課題解決に向けた活動について、考察したことを論理的に表現している。	幼児の生活に関する課題を見つけ、家庭や地域での実践に取り組もうとしている。
	6	3 幼児の食事調理実習	2	幼児の生活の特徴について理解している。 子どもが育つ環境としての家族の役割について理解している		
	7					
2	9	・研修旅行事前学習 1 地域の食材を生かした調理	4	地域の食文化について理解しているとともに、地域の食材を用いた和食の調理が適切にできる。		
10						
11	・消費生活・環境 1 家庭生活と消費	3	売買契約の仕組みについて理解している。			
12						
3	1	2 購入・支払方法と生活情報	2	購入方法や支払い方法の特徴を理解している。	計画的な金銭管理の必要性について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。	物資・サービスの選択・購入について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
	2	3 計画的な金銭管理	2	計画的な金銭管理の必要性について理解している。 売買契約（三者間契約）について理解している。		
	3	4 消費者被害と消費者の自立	2	消費者被害の背景とその対応について理解している。 消費者の基本的な権利と責任について理解している。		
年間授業時数			18			

令和8年度 <1学年 英語科> 年間指導計画

週時数	4
使用教科書	NEW HORIZON 1 (東京書籍)
使用補助教材	NEW TREASURE STAGE1(3rd Edition) New Treasure 文法問題集 1 Winning Plus 1

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できる。 ・初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができる。 ・英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できる。 ・英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができる。

評価の観点と方法・材料
<p>【知識・技能】 定期考査、小テストなど</p> <p>【思考・判断・表現】 定期考査、小テスト、パフォーマンステストなど</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 パフォーマンステストや言語活動に取り組む態度など</p>

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	【NH Unit 0】 W, SI 小学校で習った表現を用いて単語を読んだり、書き写したりできる。	12	①挨拶、好きなもの、英語での簡単な指示を聞きとったりする技能を身につけている。②英語を書く時の基本的なルールを理解し、適切に書くことができる。③和辞書の見出し語配列について理解している。	①学校で習った英語表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。②対面の相手と知り合うために、好きなものや入りたい部活動などを伝えることができる。	①学校で習った英語表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。②対面の相手と知り合うために、好きなものや入りたい部活動などを伝えようとしている。
	5	【Active Phonics】 【NT1 Let's Start】 L, SI アルファベット、身の回りの英語、数字など				
	6	【学び方コーナー①】 辞書	12	①一人称の be 動詞と一般動詞を用いた分の形・意味・用法を理解している。②助動詞 can を用いた文の形・意味・用法を理解している。③ be 動詞や一般動詞、can を適切に用いて会話をする技能を身につけている。	①お互いのことをよりよく知るために名前や好きなものなどについて自分の考えや気持ちを簡単な語句や文を用いて即興で伝え合ったり発表したりしようとしている。②できることやできないことについて即興で尋ねたり答えたりしようとしている。	①お互いのことをよりよく知るために名前や好きなものなどについて自分の考えや気持ちを簡単な語句や文を用いて即興で尋ねようとしている。②疑問に思うことを知るために適切な語句を用いて質問しようとしている。
	7	【NH Unit 1】 SI 自分が普段することや、できることを伝えられる。 【NT1 Lesson1】 R,W (中間考査)				
		【NH Unit 2】 SP, SI 身近な人や物について紹介したり尋ねたりすることができる。【Grammar 1】	10	①This (That, He, She) is…の文の形・用法を理解している。②疑問詞 What, Who, How の用法を理解している。	①知りたいことを簡単な語句や文を用いて即興で尋ねることができる。②疑問に思うことを知るために適切な語句を用いて質問できる。	①相手の職業などについて即興で尋ねようとしている。②自分の要望や気持ちを伝えようとしている。③持ち物などを尋ねるために即興で数を尋ねたり答えたりしようとしている。
		【学び方コーナー②】 発音 【NT1 Lesson2】 R, W 【NT1 Lesson3】 R, W 【NH Unit 3】 SI (英検) (期末考査)	10	①疑問詞 Where, When を用いた文の用法を理解している。②I want to…の文の意味・用法を理解している。③複数形を理解している。	①相手の職業などについて即興で尋ねることができる。②自分の要望や気持ちを伝えることができる。③持ち物などを尋ねるために即興で数を尋ねたり答えたりできる。	

2	<p>9</p> <p>【Grammar 2】【NH Unit 4】 SI 相手に指示したり時刻や好きなものを尋ねられる。</p> <p>【Grammar 3】</p> <p>(PT: "All About Me") 自分の好きなことについてつながりのある文章を書くことができる。W, SP</p> <p>【NH Small Talk 1】 SI</p> <p>【NH Unit 6】 L, W 自分と相手以外の人や物などについて、たずねたり伝えたりすることができる。</p> <p>【NH Let's Talk 1】 SI 【NH Grammar 4】 【NT1 Lesson4】 R, W</p> <p>10</p> <p>【NH Unit 7】 L, SI 自分と相手以外の人について話したり、どちらなのか、だれのものかを尋ねたりすることができる。</p> <p>(英検) 【Grammar 5】 【NH Let's Talk2】 SI 【NH Let's listen 1】 L</p> <p>【NH Unit 8】 L, SI 今していることについて説明したり、尋ねたりすることができる。</p> <p>【Let's Write 1】 W 【Grammar 6】 【NT1 Lesson5, 7】 SP, W</p> <p>11</p> <p>【NH Unit 9】 SI, SP, W したいことや、する必要のあることなどについて説明したり、尋ねたりすることができる。</p> <p>【Let's Talk 3】 SI 【NT1 Lesson6】 SI (中間考査)</p> <p>12</p> <p>【NH Let's Read 1】 R 【NH Unit 10】 L, SI 過去の出来事について説明したり尋ねたりすることができる。</p> <p>【NH Small Talk 2】 SI 【Let's Write 2】 W</p>	<p>5</p> <p>①前置詞の意味・用法を理解している。②like-ingなどの用法を理解している。③基本的な動詞の過去形の用法を理解している。</p> <p>5</p> <p>①既習事項を用いた文の形・意味・用法を理解している。②自分が好きなことについて情報を整理してつながりのある文章を書く技能を身に着けている。</p> <p>5</p> <p>①三人称単数現在形の形・意味・用法を理解している。②三人称単数現在形を用いて、スピーチの内容を聞き取ったり、聞き取った内容をもとにさらに訪ねあったり整理して書いたりする技能を身につけている。</p> <p>5</p> <p>①代名詞や疑問詞 which を用いた分の形・意味・用法を理解している。②代名詞や疑問詞を用いて人について話される内容を聞き取ったり、やり取りしたり書いたりする技能を身につけている。</p> <p>16</p> <p>①現在進行形を用いた文の特徴やきまりを理解している。②現在進行形を用いて、今していることについて、尋ねたり答えたりできる。</p> <p>10</p> <p>①不定詞の特徴や文のきまりを理解している。②行きたい国とそこでしたいことについて、お互いの考えについて不定詞を用いて尋ねたり答えたりする技能を身につけている。</p> <p>14</p> <p>①過去形の特徴やきまりを理解している。②最近の出来事について、自分がしたことを伝える技能を身につけている。③There is/are～. 特徴やきまりを理解している。②自分の町にある施設について尋ねたり、説</p>	<p>①待ち合せをするために、人や物の場所について質問したり答えたりしている。②体験や感想を伝え合っている。</p> <p>①自分が好きなことについて情報を整理してつながりのある文章でポスターを書き、お互いに読んで感想を伝え合うことができる。</p> <p>①身近な人物をALTに紹介するために、構成を考えてスピーチをすることができる。②スピーチについてやり取りしたことを整理・再構築して紹介文を書くことができる。</p> <p>①教科書のキャラクターについてよりよく知るために、その情報を整理して、簡単な語句や文を用いてやり取りしたり書いたりしている。</p> <p>①外国人の生徒に日本の中学校の生活を紹介するために、生徒の活動の様子などについて現在進行形を使って説明することができる。②グリーティングカードを読み、返事を書くことができる。</p> <p>①世界や地域の問題を伝え解決するために、自分にできることやこれから取り組んでいきたいことについて自分の考えを伝え合ったり、書いたりして表現している。②相手が目的地にたどり着けるように適切に道案内できる。</p> <p>①絵葉書を読んで概要を捉え、送る目的や相手のことを考えて返事を書くことができる。②自分の町を紹介するために、簡単な語句や文を用いて書いて</p>	<p>①待ち合せをするために、人や物の場所について質問したり答えたりしようとしている。②体験や感想を伝え合おうとしている。</p> <p>①自分のことを知ってもらうために、情報を整理して、つながりのある文章を書こうとし、お互いに読んで感想を伝え合おうとしている。</p> <p>①身近な人物をALTに紹介するために、構成を考えてスピーチをしようとしている。②スピーチについてやり取りしたことを整理・再構築して紹介文を書こうとしている。</p> <p>①教科書のキャラクターについてよりよく知るために、その情報を整理して、簡単な語句や文を用いてやり取りしたり書いたりしようとしている。</p> <p>①外国人の生徒に日本の中学校の生活を紹介するために、生徒の活動の様子などについて現在進行形を使って説明しようとしている。②グリーティングカードを読み、返事を書こうとしている。</p> <p>①世界や地域の問題を伝え解決するために、自分にできることやこれから取り組んでいきたいことについて自分の考えを伝え合ったり、書いたりして表現しようとしている。②相手が目的地にたどり着けるように適切に道案内しようとしている。</p> <p>①絵葉書を読んで概要を捉え、送る目的や相手のことを考えて返事を書こうとしている。②自分の町を紹介するために、簡単な語句や文を用いて書いて説明しようとしている。③思い</p>
---	--	---	---	--

		(期末考査) (GTEC) 【NH Unit 11】 L, W 過去の状態や気持ち、過去の ある時点にしていたこと について説明できる。 【NT1 Lesson11】 R	10	明する技能を身につけている。	説明している。③思い出を残す ために体験したことや感じた ことを簡単な語句等を用いて 紹介できる。	出を残すために体験したこと や感じたことを簡単な語句等 を用いて紹介しようとしてい る。
3	1	(宿題テスト) 【Let's Talk 4】 SI 【Let's Listen3】 L 【Grammar7】 【Stage Activity3】 W,SP (英語発表会の準備) 【Learning Literature】 R 【Let's Read2】 R (第3回学推)	12	①これまで学んだ学習事項を 用いた文の形・意味・用法を理 解している。②既習事項を用い て発表する技能を身につけて いる。	①思い出に残った学校行事に ついて情報を整理したり感想 を考えたりして原稿を作り、聞 き手を意識して発表できる。② 物語のあらすじを理解し概要 を捉えられる。③ラジオ番組を 聞いて概要を聞き取ることが できる。	①思い出に残った学校行事に ついて情報を整理したり感想 を考えたりして原稿を作り、聞 き手を意識して発表しようと している。②物語のあらすじを 理解し概要を捉えようとして いる。③ラジオ番組を聞いて概 要を聞き取ろうとしている。
	2	【NT1 Lesson8】 R 【NT1 Lesson9】 R 【NT1 Further Reading①】	12	①不規則変化動詞の過去形の 特徴やきまりを理解している。 ②過去に体験したことを順序 だてて説明できる技能を身に 付けている。 ③物語の概要や要点を理解し ながら読む技能を身に付けて いる。	①過去に体験したことを事実 と意見を区別して説明できる。 ②要点を捉えながら物語を読 み、身近なところからどんな行 動が起こせるか自分の立場で 考え英語で発表できる。	①過去に体験したことを事実 と意見を区別して説明しよう としている。②要点を捉えなが ら物語を読み、身近なところか らどんな行動が起こせるか自 分の立場で考え英語で発表し ようとしている。
	3	(学年末考査) 【NT1 Lesson10】 R, SP 【NT1 Lesson12】 R, SP	12	①未来を表す文の形・意味・用 法を理解している。②許可を求 めたり、支持を伝えたりする時 の文の形・用法を理解してい る。③比較の表現の文の形・意 味・用法を理解している。	①地球規模の環境問題の解決 のために何ができるか考え、英 語で発表できる。②インドの言 語の特徴について要点を捉え ながら読むことができる。③英 語と日本語について共通点や 相違点をまとめ英語で発表で きる。	①地球規模の環境問題の解決 のために何ができるか考え、英 語で発表しようとしている。② インドの言語の特徴について 要点を捉えながら読もうとし ている。③英語と日本語につい て共通点や相違点をまとめ英 語で発表しようとしている。
年間授業時数			140			

令和8年度 <2学年 英語> 年間指導計画

週時数	4
使用教科書	NEW HORIZON(東京書籍)
使用補助教材	New Treasure 1(Z会) New Treasure 2(Z会) Winning Plus 1 Winning Plus 2 中学版システム英単語(駿台文庫)

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・授業に積極的に参加し、能動的に言語活動を行うことができる。 ・教科書などの基本的な英文を、聞き手が理解できる正しい発音で音読することができる。 ・英検3級程度の英語を読んだり、聞いたりして内容を理解することができる。

評価の観点と方法・材料
<p>【言語についての知識・理解】 <input type="checkbox"/>語彙・表現⇒評価場面：基本文テスト・定期考査等、システム英単語テスト <input type="checkbox"/>文型・文法⇒評価場面：基本文テスト・定期考査等 <input type="checkbox"/>文化(自国文化・国際理解)⇒評価場面：Presentation・定期考査等 <聞く力> <input type="checkbox"/>Listening⇒評価場面：Listening Test・定期考査等</p> <p>【思考・判断・表現】 <話す力> <input type="checkbox"/>ワークシート, Speech⇒評価場面 ペアワーク, 発表, Interview Test <書く力> <input type="checkbox"/>Writing⇒評価場面(ワークシートでのWriting, 定期考査, 課題, 夏季休暇等のワークシート)</p> <p>【主体的に取り組む態度】 <活動への取り組み姿勢>⇒Daily Conversation, 音読筆写への取組, Pair work, group work の取組, Speech, skit 等への取組, スタディサプリ English の取組 ⇒評価場面 ・授業中の観察 ・ワークシート ・スタディサプリ ENGLISH レッスン進捗状況</p>

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	◎ Unit0 My Spring Vacation(There is[are]) ○Lesson11(NT1) What Can We Do for the World?	12	過去形や過去進行形、There is[are]の文の形・意味・用法を理解し、自分の経験を伝える技能を身につけている。	思い出を伝えるために、自分の経験について、簡単な語句や文を用いて書いたり話したりしている。	思い出を伝えるために、自分の経験について、簡単な語句や文を用いて書いたり話したりしようとしている。
	5	Further Reading 2 The Big Smiles of Children in Ghana 【中間考査】	4	場面や登場人物の心情を表す表現の理解をもとに、物語の流れに沿って登場人物の気持ちを読み取る技能を身につけている。	気持ちをこめて音読することができるように、物語の場面や登場人物の心情の変化を読み取っている。	気持ちをこめて音読することができるように、物語の場面や登場人物の心情の変化を読み取ろうとしている。
	6	◎Unit 6 Research Your Topic ○Lesson12 (NT1) Languages in India	12	比較表現を用いた文の形・意味・用法の理解をもとに、複数のものを比べて説明する伝え合う能を身につけている。	調査や発表の効果的なやり方について考えるために、複数のものを比べた文章の概要を捉えたり、特徴を比較しながら調査の結果や意見を伝え合ったりしている。	調査や発表の効果的なやり方について考えるために、複数のものを比べた文章の概要を捉えたり、特徴を比較しながら調査の結果や意見を伝え合ったりしようとしている。
	7	◎Unit2 Food Travels around the World(接続詞 when, if, that, because) 好きな食べ物やその理由について ○Lesson1 (NT2)	15	接続詞 when, if, that, because を用いた文の形・意味・用法を理解し、何かをする、時や条件、考えや事実、理由について、理解したり、伝えたりする技能を身につけている。	何かをする目的や気持ちとその原因、夢実現のためにしていることなどについて、文章の概要を捉えたり、理解したり伝えたりするために簡単な語句や文を用いて伝え合っている。	何かをする目的や気持ちとその原因、夢実現のためにしていることなどについて、簡単な語句や文を用いて、理解したり、伝え合ったりしようとしている。
		◎ Unit4 Homestay in the United States 日米の生活習慣や文化のちがいでいについて ○Lesson2 (NT2)	15	have to, 助動詞 must, を用いた文の形・意味・用法を理解し、必要があることやないこと、しなければならないことやしてはいけないこと、ホームステイの体験について、事実や気持ちを整理し、理解したり、伝えたりする技能を身につけている。	日米の生活習慣や文化のちがいを知り、ともに暮らすヒントを考えるために、習慣やマナーについて書かれた文章の概要を捉えたり、アドバイスを伝えたりしている。	日米の生活習慣や文化のちがいを知り、ともに暮らすヒントを考えるために、習慣やマナーについて書かれた文章の概要を捉えたり、アドバイスを伝えたりしようとしている。

2	9	◎Unit5 Universal Design (疑問詞+to, 主語+動詞+(人)+疑問詞+to, 主語+be 動詞+形容詞+that)	15	疑問詞+to, 主語+動詞+(人)+疑問詞+to, 主語+be 動詞+形容詞+that を用いた文の形・意味・用法を理解し、どのようにしたらよいかや確信や喜びの気持ち、ある人物の功績などについて、理解したり説明したりする技能を身につけている。	だれもが暮らしやすい社会について考えるために、身近なものやことの使い方ややり方を説明したり、相手の考えや気持ち、ある人物の功績について書かれた文章の概要を捉えたり、してみたいことを伝え合ったりしている。	だれもが暮らしやすい社会について考えるために、身近なものやことの使い方ややり方を説明したり、相手の考えや気持ち、ある人物の功績について書かれた文章の概要を捉えたり、してみたいことを伝え合ったりしようとしている。
	10	だれもが使いやすいものや、暮らしやすい社会について ○Lesson3 (NT2)				
	11	◎Unit3 My Future Job (不定詞(副詞的用法・名詞的用法・形容詞的用法), It is + to) 自分が体験したことや学んだことなどについて ○Lesson4 (NT2)	16	不定詞を用いた文の形・意味・用法の理解をもとに、何かをする目的や感情の原因、大切だと思ふことを伝えたり、言葉に情報を加えて説明したりする技能を身につけている。	自分の将来像や夢を考えて伝え合うために、職業について書かれた文章の概要を捉えたり、自分の夢や夢実現のためにしていることなどについて説明したりしている。	自分の将来像や夢を考えて伝え合うために、職業について書かれた文章の概要を捉えたり、自分の夢や夢実現のためにしていることなどについて説明したりしようとしている。
	12	○Lesson5 (NT2) (動名詞)	16	動名詞を用いた文の形・意味・用法の理解をもとに、何かをする目的や感情の原因、大切だと思ふことを伝えたり、言葉に情報を加えて説明したりする技能を身につけている。	ホームステイなどでお世話になった人へ感謝の気持ちを伝えるために、思い出や気持ちなどを整理し、お礼の手紙を書いている。	ホームステイなどでお世話になった人へ感謝の気持ちを伝えるために、思い出や気持ちなどを整理し、お礼の手紙を書こうとしている。
3	1	◎ Unit7 World Heritage Sites(受け身(平叙文, 疑問文, by つき, 助動詞つき)) 世界遺産の特徴について ○Lesson6 (NT2)	16	受け身(平叙文, 疑問文, by つき, 助動詞つき)の文の形・意味・用法を理解している。事実などを整理し、受け身などを用いて理解したり説明したり、相手からの質問に答えたり書いたりする技能を身につけている。	世界遺産などについて、事実や行為者などを整理し、紹介された文章の概要や対話の概要を捉えたり、相手に質問したり答えたりしている。	世界遺産などについて、理解したり伝えたりするために、事実などを整理し、対話の概要を捉えたり、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手に質問したり答えたりしようとしている。
	2					
	3	◎Unit 1 (NH3) Sports for Everyone ○Lesson7 (NT2)	16	現在完了形(経験用法), SVOC (C=形容詞), SV00 (that 節)の文の形・意味・用法の理解をもとに、これまでの経験や人の気持ちの変化などについて、伝え合う技能を身につけている。	ALT の先生に町のおすすめの場所を紹介するために、その場所の特徴やよい点を整理して伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。	ALT の先生に町のおすすめの場所を紹介するために、その場所の特徴やよい点を整理して伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。
		英語学習発表会	4			
年間授業時数			140			

令和8年度 <3学年 英語科> 年間指導計画

週時数	140
使用教科書	NEW HORIZON 3 (東京書籍)
使用補助教材	New Treasure 2 (Z 会) New Treasure 3 (Z 会) New Treasure 2 文法問題集 New Treasure 3 文法問題集 ウイニング PLUS 英語 3 中学版システム英単語 (駿台文庫)

目標
<ul style="list-style-type: none"> ・授業に積極的に参加し、能動的に言語活動を行うことができる。 ・教科書などの基本的な英文を、聞き手が理解できる正しい発音で音読することができる。 ・英検準2級程度の英語を読んだり、聞いたりして内容を理解することができる。

評価の観点と方法・材料		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<言語についての知識・理解> ・語彙・表現 ⇒評価場面 基本文テスト・定期考査等 英単語 Stock3000 テスト ・文型・文法 ⇒評価場面 基本文テスト・定期考査等 ・文化 (自国文化・国際理解) ⇒評価場面 Presentation・スピーチ・地域研究等	<読む力> ・単元ごとに確認 (Q&A T/F) ・定期考査等 <話す力 (やり取り) > ・ペアワーク、ディベート <話す力 (発表) > ・スピーチ、発表、ディベート <書く力> ・ワークシートでのライティング ・定期考査、課題 <聞く力> ・Listening ⇒評価場面: Listening Test・定期考査等	<活動への取り組み姿勢> ・Daily Conversation ・Pair work、Group Work の取組 ・Speech、Skit、Debate 等への取組 ・スタディサプリの取組 ⇒評価場面 ・授業中の観察、発表 ・ワークシート ・ICT 機器を用いた学習進捗状況

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	◎ Unit 4 How can we help each other in a disaster? ○ Lesson9 (NT2) Kevin, a Popular Guitar Player	12	現在分詞・過去分詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。	防災への意識を高めるために、外国人の体験談や外国人支援について書かれた文章の要点を捉えたり、標識が何を意味しているかについて話したり書いたりしている。	防災への意識を高めるために、外国人の体験談や外国人支援について書かれた文章の要点を捉えたり、標識が何を意味しているかについて話したり書いたりしようとしている。
	5	Further Reading 1 Can Magnets Help the Growth of Soybean Seeds? ◎ Unit 5 What makes a good leader? ○ Lesson10 (NT2) Seeing a Broadway Show	4 12	名詞を修飾する文と、関係代名詞 who, that [which] (主格・目的格) を用いた文の形・意味・用法を理解している。	平和や人権の大切さを考えるために、ガンディーの生涯と功績について書かれた文章の概要を捉えたり、あこがれの人物を紹介したりしている。	平和や人権の大切さを考えるために、ガンディーの生涯と功績について書かれた文章の概要を捉えたり、あこがれの人物を紹介したりしようとしている
	6	◎ Unit 3 How can we save animals? ○ Lesson11 (NT2) The Time Yumi Spent in New York	16	<It is ... (for+ (人など)) +to> の文、<want+ (人など) +to> や <let [help]+ (人など) +動詞の原形> を用いた文の形・意味・用法を理解している。	環境問題と私たちの生活について考えるために、絶滅のおそれのある動物について書かれた文章の概要を捉えたり、現状や自分の考えを書いたりしている。	環境問題と私たちの生活について考えるために、絶滅のおそれのある動物について書かれた文章の概要を捉えたり、現状や自分の考えを書いたりしようとしている。

1	7	◎ Unit 6 What does it mean to be a global citizen?	6	仮定法と主語を説明する関係代名詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。	国をこえて助け合う大切さを理解するために、国際社会の状況について書かれた文章の概要を捉えたり、意見や感想を伝えたりとしている。	国をこえて助け合う大切さを理解するために、国際社会の状況について書かれた文章の概要を捉えたり、意見や感想を伝えたりしようとしている。
	9	○ Lesson12 Let's Get Together Again	10			
	10	Further Reading 2 A Woman Who Changed People's Old Ideas	4			
		◎ Unit 2 How do you choose your clothes? ○ Lesson1 (NT3) What We Can Gain From Volunteer Work	11	12	現在完了形、現在完了進行形、過去完了形を用いた文の形・意味・用法を理解している。	日本の伝統文化の魅力を知るために、言語や文化について書かれた文章の概要を捉えたり、お互いの好きなことや取り組んできたことについてたずねたり伝えたりしている。
12	○ Lesson2 (NT3) Living in Harmony	12	12	助動詞を用いて、現在・過去の推量や、過去の習慣の文の形・意味を理解している。	さまざまな人とともに暮らす社会について知るために、生活や芸術に書かれた文章の概要を捉え、考えている。	学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。ペアで協力して活動に取り組むことができる。
	○ Lesson3 (NT3) Learning Through Different Cultures	12	12	不定詞のいろいろな表現を用いた文の形や意味を理解している。	文学に関する知識を深めるために、海外文学や日本の民話に関する文章を読み、自分の考えをまとめている。	学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。ペアで協力して活動に取り組むことができる。
	Further Reading 1 The World of English Haiku	4				
3	1	○ Lesson4 (NT3) The Development of Information Technology	12	受動態の発展的用法として進行形や完了形、使役動詞を用いた文の形や意味を理解している。	コンピューターの発展について知るために、発展に寄与した人物に関して書かれた文章を読み、概要をとらえている。	学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。ペアで協力して活動に取り組むことができる。
	2	○ Lesson5 (NT3) How to Stay Healthy	12	副詞節の接続詞を用いて、様々な文をつなぐ表現の形式と意味を理解している。	医学の進歩について知るために、医療の発展に貢献した人物について書かれた文章の概要を捉え、自分の考えをまとめている。	学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。ペアで協力して活動に取り組むことができる。
	3	○ Lesson6 (NT3) Conveying Messages Through Art	12	関係代名詞の限定用法と非制限用法を用いた文の形や意味、用法について理解している。	芸術について深く理解するために、作家が作品に込めたメッセージを捉え、特徴を説明したりしている。	学んだ表現を用いて積極的に言語活動を行おうとしている。ペアで協力して活動に取り組むことができる。
年間授業時数			140			

令和8年度 <1学年 総合的な学習の時間> 年間指導計画

目 標 「人生設計学」のもと、次の力を育む。自ら学ぶ意欲をもち、課題を見付け、その解決に向かう力。自らの考えをまとめ、表現できる力。人とのかかわりの中で、自己を豊かにする力。将来を見すえ、社会的リーダーとなるべく自己を成長させる力。

学期	月	項目	学習内容	時数	評価の内容
1	4	・総合学習について ・校外学習の準備	・ガイダンス。総合的な学習の時間にすべきことについて学ぶ。 ・資料の集め方、図書館の利用方法について。 ・学級や委員会など、学校生活に自分がどのようにかかわっていくか、自分の生き方を考える。 ・校外学習に向けての準備、事前学習をする。 ・体験活動についての課題設定。環境や自然についての調べ学習。	4	・テーマへの意識 ・学習方法 ・適切な課題設定 ・テーマへの意欲 ・準備、事前学習への意欲 ・自主的な調査活動
	5	・校外学習 ・校外学習のまとめ ・集団の中での自分	・校外学習での漁業、酪農、棚田観察などの体験。 ・校外学習で学んだことをまとめる。	10	・課題のまとめ ・適切な課題設定 ・仲間との協調
	6	・合唱祭 ・文化祭の準備	・合唱祭で合唱するため、仲間のことをよく知り、クラスや学年のまとまりについて考える。 ・校外学習で学んだことを発表形式にまとめる。	4	・合唱への取り組み ・班の協力 ・資料の記録整理
	7	・文化祭	・校外学習での漁業、酪農、棚田観察などの体験のまとめ。 ・自分たちの生活と自然とのかかわりについて学習する。 ・1学期の反省と2学期からの学校生活についての目標設定。	3	・体験のまとめ方 ・仲間との協調 ・自己分析
2	9	・文化祭 ・体育祭	・文化祭において、校外学習の体験活動・学習を発表する。 ・体育祭において、異年齢集団に自分がどのようにかかわっていくのか、自分の生き方を考える。	4	・集団での研究活動 ・わかりやすい発表 ・適切な課題設定 ・上級学年との協調 ・準備への取り組み
	10	・身近にある職業を知る	・勤労、職業についての学習の動機付け。 ・働くことの意義や職業について知る。 ・生活の中の身近な職業について調べる。 ・資料の活用の仕方を学ぶ。 ・興味のある職業について調べ、自分の将来を考える。	4	・職業への関連付け ・情報の取捨選択 ・集団での研究活動 ・グループの協力
	11	・職業調べ	・マナーや言葉遣いについての学習。 ・職業調べで働くことの意義や喜び・苦勞などを知る。 ・職業調べの結果をまとめ、クラスや学年の仲間に詳しい内容を伝えるときともに、より良い発表の仕方を学び、他のグループからもいろいろな職業について知る。	6	・見学のまとめ方
	12	・職業調べから学ぶ	・職業調べから自分の将来について考え、自分にとって何が課題かを考える。 ・職業調べで感じたことなどから、自分の将来には何が必要かを考える。特に、学習面の改善について考える。	4	・適切な課題設定 ・新たな課題の発見 ・話を聞こうとする態度
3	1	・今の自分と将来の自分 ・職業調べの発表	・自分を知り、自分を生かす生き方や職業について考える。また、地域や保護者、専門分野の人から職業・仕事について話を聞く。 ・職業調べの発表を通して表現能力・発表能力を高める。また、発表について相互評価する。	4	・自分を知らうとする態度 ・発表の仕方 ・発表を聴く態度
	2	・校外学習の事前学習	・校外学習に向けての準備、事前学習をする。 ・体験活動についての課題設定。環境や自然についての調べ学習。	4	・適切な課題設定 ・話を聞こうとする態度
	3	・一年間のまとめ	・一年間の総合的な学習の時間の総括。 ・自分にどのような資質、能力、態度等が育まれたのかを自己評価する。 ・次年度に向けた課題設定。 ・課題追究や発表方法を振り返り、自分の学習の確認をする。	3	・課題のまとめ ・課題についての考察 ・新たな課題の発見
				年間授業時数	50

令和8年度 <2学年 総合的な学習の時間> 年間指導計画

目 標 「人生設計学」のもと、次の力を育む。自ら学ぶ意欲をもち、課題を見付け、その解決に向かう力。自らの考えをまとめ、表現できる力。人とのかかわりの中で、自己を豊かにする力。将来を見すえ、社会的リーダーとなるべく自己を成長させる力。

学期	月	項目	学習内容	時数	評価の内容
1	4	・総合学習について ・校外学習、農業体験の準備	・ガイダンス。総合的な学習の時間にすべきことについて学ぶ。 ・資料の集め方、図書館の利用方法についての復習。 ・校外学習、農業体験に向けての準備、事前学習をする。	7	・テーマへの意識 ・適切な課題設定 ・テーマへの意欲
	5	・校外学習、農業体験 ・集団の中での自分	・田植えを体験する。民泊し、農業を体験する。 ・農業体験で学んだことをまとめる。 ・自分たちの生活と自然とのかかわりについて学習する。 ・体験活動についての課題設定。環境や自然についての調べ学習。	8	・課題のまとめ ・適切な課題設定 ・仲間との協調
	6	・合唱祭 ・文化祭の準備	・合唱祭で合唱するため、仲間のことをよく知り、クラスや学年のまとまりについて考える。 ・校外学習で学んだことを発表形式にまとめる。	7	・合唱への取り組み ・事前準備への意欲 ・班の協力 ・自主的な調査活動
	7	・文化祭の準備	・校外学習での農業、環境学習などの体験のまとめ。 ・自分たちの生活と自然とのかかわりについて学習する。 ・1学期の反省と2学期からの学校生活についての目標設定。	6	・体験のまとめ ・適切な課題設定 ・仲間との協調
2	9	・文化祭 ・体育祭 ・職場体験の調査	・文化祭において、校外学習の体験活動・学習を発表する。 ・ファーストステージ論文の中間発表を行う。 ・体育祭において、異年齢集団に自分がどのようにかかわっていくのか、自分の生かし方を考える。 ・職場体験についての事前調査をする。	7	・集団での研究活動 ・わかりやすい発表 ・上級学年との協調 ・準備への取り組み
	10	・職場体験の準備	・職場体験の事前学習を行う。 ・働くことの意義や職業について知る。 ・身近な地域の産業について調べる。 ・資料の活用の仕方を学ぶ。 ・興味のある職業について調べ、自分の将来を考える。	7	・事前学習への意欲 ・地域の特徴 ・情報の取捨選択 ・集団での研究活動 ・グループの協力
	11	・職場体験の研究・準備 ・職場体験	・マナーや言葉遣いについての事前学習。 ・職場体験で働くことの意義や喜び苦勞などを知る。 ・職場体験の結果をまとめ、クラスや学年の仲間に詳しい内容を伝えるとともに、より良い発表の仕方を学び、他のグループからもいろいろな職業について知る。	7	・勤労への意欲 ・体験のまとめ方 ・発表を聞く態度
	12	・職場体験から学ぶ	・職場体験から自分の将来について考え、自分にとって何が課題かを考える。 ・職場体験で感じたことなどから、自分の将来には何が必要か考える。特に、学習面の改善について考える。 ・職場見学の発表を通して表現能力・発表能力を高める。また、発表について相互評価する。	5	・適切な課題設定 ・新たな課題の発見 ・話を聞こうとする態度
3	1	・今の自分と将来の自分 ・職場体験の発表	・自分を知り、自分を生かす生き方や職業について考える。また、地域や保護者、専門分野の人から職業・仕事についての話を聞く。	5	・自分を知らうとする態度 ・発表の仕方 ・発表を聴く態度
	2	・学習発表会に向けて ・校外学習の事前学習	・ファーストステージで学んだ知識・技能を活用した発表を行う。 ・校外学習に向けての準備、事前学習をする。 ・体験活動についての課題設定。歴史や伝統文化についての調べ学習。	5	・発表のしかた ・準備への意欲と協力 ・適切な課題設定 ・話を聞こうとする態度
	3	・二年間のまとめ	・自分にどのような資質、能力、態度等が育まれたのかを自己評価する。 ・セカンドステージに向けた課題設定。 ・課題追究や発表方法を振り返り、自分の学習の確認をする。	6	・課題のまとめ ・課題についての考察 ・新たな課題の発見
				年間授業時数	70

令和8年度 <3学年 総合的な学習の時間> 年間指導計画

目標 「人生設計学」のもと、次の力を育む。自ら学ぶ意欲をもち、課題を見付け、その解決に向かう力。自らの考えをまとめ、表現できる力。人とのかかわりの中で、自己を豊かにする力。将来を見すえ、社会的リーダーとなるべく自己を成長させる力。

学期	月	項目	学習内容	時数	評価の内容
1	4	・総合学習について ・伝統文化について ・下町遠足	・ガイダンス。総合的な学習の時間にすべきことについて学ぶ。 ・資料の集め方、図書館の利用方法について復習する。 ・日本の伝統文化について考察する。 ・都内の名所、旧跡などについて考察する。	7	・テーマへの意識 ・適切な課題設定 ・テーマへの意欲
	5	・下町遠足 ・合唱祭	・伝統工芸体験の準備をする(下絵、アイデア、場所確認)。 ・下町遠足の事後学習をする。 ・仲間のことをよく知り、クラスや学年のまとまりについて考える。 ・合唱の選曲、課題曲や自由曲の歌詞の解釈をすることにより、合唱祭に向けての士気を高める。	7	・課題のまとめ ・自主的な調査活動 ・適切な課題設定。仲間との協調。
	6	・合唱祭 ・文化祭の準備	・合唱祭での自分の役割を考え、発表後、クラスに協力できたか振り返る。 ・演劇の出来上がりまでの一連の行程を学ぶ。 ・文化祭の演劇の準備(演目決め、キャスト決め等)。	8	・合唱への取り組み ・事前準備への意欲 ・班の協力
	7	・研修旅行の準備 ・文化祭の準備 ・大学研究	・京都、奈良の歴史について学習。 ・文化祭の発表にむけての準備。 ・1学期の反省と2学期からの学校生活について目標設定。	6	・資料の記録整理 ・仲間との協調 ・自己分析
2	9	・文化祭 ・体育祭 ・研修旅行の準備	・文化祭発表準備。 ・演技練習、大道具、小道具の制作、音響、照明準備。 ・体育祭において、異年齢集団に自分がどのようにかかわっていくのか、自分の生かし方を考える。 ・京都、奈良の地理、郷土研究。	7	・適切な課題設定。上級学年との協調。 ・準備への取り組み ・集団での研究活動
	10	・研修旅行の準備	・資料の活用の仕方を学ぶ。 ・課題設定。環境や自然についての調べ学習。 ・京都、奈良での見学ルートの作成。 ・京都での体験学習の下調べ。	8	・事前準備への意欲 ・地域の特色 ・情報の取捨選択 ・集団での研究活動 ・グループの協力
	11	・研修旅行の準備 ・研修旅行 ・大学訪問	・京都での体験学習の事前準備。 ・研修旅行の結果をまとめ、クラスや学年の仲間に詳しい内容を伝えるときともに、より良い発表の仕方を学ぶ。 ・大学についての調べ学習。 ・学部、学科についての調べ学習。	8	・発表のまとめ方 ・グループの協力
	12	・研修旅行から学ぶ	・研修旅行にて自分で学習したことや、他の生徒の発表から、歴史や環境についての学習を深める。 ・研修旅行の発表を通して表現能力・発表能力を高める。 ・まとめ、発表について相互評価する。	5	・適切な課題設定 ・新たな課題の発見 ・発表の仕方 ・発表を聴く態度
3	1	・今の自分と将来の自分 ・探究学習	・自分を知り、自分を生かす生き方や職業について考える。また、地域や保護者、専門分野の人から職業・仕事についての話を聞く。	4	・自分を知らうとする態度 ・話を聞こうとする態度
	2	・ボランティアを考える	・ボランティアについて学習し、自分でできるボランティアについて考える。 ・ボランティアに携わる人の話を聞き、精神や意義、喜びを学ぶ。	6	・適切な課題設定 ・話を聞こうとする態度
	3	・1年間のまとめ	・1年間の総合的な学習の時間の総括。 ・自分にどのような資質、能力、態度等が育まれたのかを自己評価する。 ・次年度に向けた課題設定。 ・課題追求や発表方法を振り返り、自分の学習の確認をする。	4	・課題のまとめ ・課題についての考察 ・新たな課題の発見
				年間授業時数	70

令和8年度 <1学年 特別の教科 道徳> 年間指導計画

目 標 中学生としての自覚を持ち、望ましい生活習慣を身に付け、豊かな人間性を養う。

学期	月	項目	観点の評価規準	時数	行事
1	4	節度、節制 希望と勇気、克己と強い意志	<ul style="list-style-type: none"> 心身の健康を増進し、望ましい生活習慣を身に付ける心を養う。 学校生活のスタートにあたり目標や強い意志を持つ。 	3	入学式
	5	思いやり、感謝 礼儀 自然愛護	<ul style="list-style-type: none"> 新しい人間関係を築き、思いやりを持って相手に接する心を養う。 礼儀の意義を理解し、時と場所に応じた適切な言動をとれるようにする。 自然の大切さや偉大さを感じ、自然愛護の精神を養う。 	3	校外学習 生徒総会 生徒会選挙 中間考査
	6	よりよい学校生活、 集団生活の充実 感動、畏敬の念 向上心、個性の伸長	<ul style="list-style-type: none"> 自己が属する集団の意義について理解し、役割と責任を自覚する。 美しいものや気高いものに感動する心を養う。 個性を伸ばし、充実した生活を目指す。 	4	合唱祭
	7	思いやり、感謝 生命の尊さ	<ul style="list-style-type: none"> 多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる。 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。 	3	期末考査
2	9	友情、信頼 よりよい学校生活、 集団生活の充実	<ul style="list-style-type: none"> 友情の尊さを理解し、互いに励ましあい高めあう心を養う。 行事と関連させ、集団の向上を図る。 	3	文化祭 体育祭
	10	遵法精神、公德心 相互理解、寛容	<ul style="list-style-type: none"> 法律やきまりの意義を理解し、社会の秩序と規律を守る意識を高める。 公德心や社会連帯の自覚を高める。 それぞれの個性や立場を尊重する姿勢を養う。 	4	中間考査
	11	勤労 自主、自律、自由と責任 郷土を愛する態度	<ul style="list-style-type: none"> 勤労の尊さや意義について考えを深める。 自主自立の精神を重んじ、自主的に物事を考える。 地域の一員として郷土を愛し、発展に努める。 	4	
	12	相互理解、寛容 家族愛、家庭生活の充実	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを伝え、相手の意見も尊重する態度を養う。 家族の一員としての自覚を持って、家庭生活を築く心を養う。 	2	期末考査
3	1	真理の探究、創造 公正、公平、社会正義	<ul style="list-style-type: none"> 真実を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうとする心を養う。 正義感や公正、公平な態度を養う。 	3	
	2	真理の探究、創造 公正、公平、社会正義	<ul style="list-style-type: none"> 社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努める。 自分の弱さや醜さを克服する強さや気高く生きる力を養う。 日本人として自覚を持って国を愛し、発展に努める。 	4	百人一首大会
	3	国際理解、国際貢献 向上心、個性の伸長	<ul style="list-style-type: none"> 世界の中の日本人としての自覚を持つ。 より高い目標を持ち、実現を目指す心を養う。 	2	学年末考査 卒業式 生徒総会
年間授業時数				35	

令和8年度 <2学年 特別の教科 道徳> 年間指導計画

目 標 2年生としての自覚を持ち、思いやりのある人間関係を築くとともに、勤労を尊ぶ姿勢を養う。

学期	月	項目	観点の評価規準	時数	行事
1	4	よりよい学校生活、 集団生活の充実 節度、節制 思いやり、感謝	<ul style="list-style-type: none"> 心身の健康を増進し、望ましい生活習慣を身に付ける心を養う。 第2学年の学校生活のスタートにあたり目標や強い意志を持つ。 新しい人間関係を築き、思いやりを持って相手に接する心を養う。 	3	入学式 始業式
	5	社会参画 よりよい学校生活、 集団生活の充実 礼儀 自然愛護	<ul style="list-style-type: none"> 社会参画の意識と社会連帯の自覚を高める。 自己が属する集団の意義について理解し、役割と責任を自覚する。 礼儀の意義を理解し、時と場所に応じた適切な言動をとれるようにする。 自然の偉大さ、生命の尊さを感じ尊ぶ気持ちを養う。 	3	農業体験 生徒総会 生徒会選挙 中間考査
	6	希望と勇気、克己と強い意志 相互理解、寛容 向上心、個性の伸長	<ul style="list-style-type: none"> 希望に向かい強い意志を持って努力する心を養う。 学級の一員として協力し合う心を養う。 個性を伸ばし、充実した生活を目指す。 	4	合唱祭
	7	向上心、個性の伸長 生命の尊さ 遵法精神、公德心	<ul style="list-style-type: none"> 自己を見つめ、自己の向上を図る。 生命の尊さを理解し、かけがえない自他の生命を尊重する。 公德心や社会連帯の自覚を高める。 	3	期末考査
2	9	友情、信頼 よりよい学校生活、 集団生活の充実	<ul style="list-style-type: none"> 友情の尊さを理解し、互いに励ましあい高めあう心を養う。 集団生活の役割と責任を自覚し、秩序ある生活を心がける。 	3	文化祭 体育祭
	10	相互理解、寛容 感動、畏敬の念	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの個性や立場を尊重する姿勢を養う。 美しいものや気高いものに感動する心をもつ。 	4	中間考査
	11	勤労 自主、自律、自由と責任 国際理解、国際貢献	<ul style="list-style-type: none"> 勤労の尊さや意義について考えを深める。 自主自立の精神を重んじ、自主的に物事を考える。 世界の中の日本人としての自覚を持ち、世界に目を向ける。 	4	職場体験
	12	公正、公平、社会正義 家族愛、家庭生活の充実	<ul style="list-style-type: none"> 正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努める。 家族の一員としての自覚を持って、家庭生活を築く心を養う。 	2	期末考査
3	1	真理の探究、創造	<ul style="list-style-type: none"> 真実を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうと努める。 	3	探究発表会
	2	よりよく生きる喜び 我が国の伝統と文化の尊重、国を 愛する態度	<ul style="list-style-type: none"> 人の強さ、弱さを理解し、生きる喜びについて考える。 優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。 	4	職業人講話 百人一首大会
	3	郷土の伝統と文化の尊重、郷土 を愛する態度	<ul style="list-style-type: none"> 郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、郷土の発展に努める。 	2	学年末考査 卒業式 生徒総会
				年間授業時数	35

令和8年度 <3学年 特別の教科 道徳> 年間指導計画

目 標 自分の言動に責任を持ち、自己の生き方在り方を考え、地域や社会に貢献する態度を養う。

学期	月	項目	観点の評価規準	時数	行事
1	4	節度、節制 相互理解、寛容 我が国の伝統と文化の尊重、 国を愛する態度	<ul style="list-style-type: none"> 心身の健康を増進し、望ましい生活習慣を身に付ける心を養う。 自分の考えを伝え、相手の意見も尊重する態度を養う。 我が国の伝統を理解し、国を愛する心を養う。 	3	入学式
	5	礼儀 公正・公平・社会正義 希望と勇気、克己と強い意志	<ul style="list-style-type: none"> 礼儀の意義を理解し、時と場所に応じた適切な言動をとれるようにする。 正義感や公正、公平な態度を養う。 より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げる。 	3	校外学習 生徒総会 生徒会選挙 中間考査
	6	友情、信頼 よりよい学校生活、集団生活の充実 真理の探究、創造 よりよく生きる喜び	<ul style="list-style-type: none"> 友情の尊さを理解し、互いに励ましあい高めあう心を養う。 教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってより良い校風を作るとともに、様々な集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努める。 真実を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうと心を養う。 自分の弱さや醜さを克服する強さや気高く生きる力を養う。 	4	合唱祭
2	7	向上心・個性の伸長 遵法精神、公德心 生命の尊さ	<ul style="list-style-type: none"> より高い目標を持ち、実現を目指す心を養う。 法律やきまりの意義を理解し、社会の秩序と規律を守る意識を高める。 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。 	3	期末考査
	9	生命の尊さ 思いやり、感謝 友情、信頼	<ul style="list-style-type: none"> 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。 新しい人間関係を築き思いやりを持って相手に接する心を養う。 友情の尊さを理解し、互いに励ましあい高めあう心を養う。 	3	体育祭 文化祭
	10	郷土の伝統と文化の尊重、 郷土を愛する態度 我が国の伝統と文化の尊重、 国を愛する態度 郷土の伝統と文化の尊重、 郷土を愛する態度 遵法精神、公德心	<ul style="list-style-type: none"> 郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努める。 優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展に努める。 地域の一員として郷土を愛し、発展に努める。 法律やきまりの意義を理解し、社会の秩序と規律を守る意識を高める。 	4	中間考査
	11	自主、自律、自由と責任 感動、畏敬の念 勤労 社会参画・公共の精神	<ul style="list-style-type: none"> 自主自立の精神を重んじ、自主的に物事を考える。 美しいものや気高いものに感動する心を養う。 勤労の尊さや意義について考えを深める。 社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努める。 	4	研修旅行
3	12	国際理解、国際貢献 家族愛、家庭生活の充実	<ul style="list-style-type: none"> 世界の中の日本人としての自覚を持つ。 家族の一員としての自覚を持って、家庭生活を築く心を養う。 	2	期末考査
	1	勤労 よりよく生きる喜び 国際理解、国際貢献	<ul style="list-style-type: none"> 勤労の尊さや意義について考えを深める。 自分の弱さや醜さを克服する強さや気高く生きる力を養う。 世界の中の日本人としての自覚を持つ。 	3	
	2	思いやり、感謝 節度、節制 公正、公平、社会正義 自然愛護	<ul style="list-style-type: none"> 多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる。 心身の健康を増進し、望ましい生活習慣を身に付ける心を養う。 正義感や公正、公平な態度を養う。 自然の大切さや偉大さを感じ、自然愛護の精神を養う。 	4	
	3	社会参画、公共の精神 自主、自律、自由と責任	<ul style="list-style-type: none"> 社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努める。 自主自立の精神を重んじ、自主的に物事を考える。 	2	学年末考査 前期課程修了証書授与式
年間授業時数				35	

令和8年度 <1学年 探究> 年間指導計画

週時数	36
使用教科書	
使用補助教材	探究に役立つ！学校司書と学ぶレポート・論文作成ガイド

目標
・自分の住む地域や三鷹の魅力について調査し、それにかかわる社会課題を発見する。解決策を調べ、提案する。

評価の観点と方法・材料
提出物、発表、発表資料、活動への取り組み・態度

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	○オリエンテーション ○バナナワーク	12	自分の考えだけに固執せず、先行事例・研究、文献を調べることが出来る。マッピングなどの思考ツールを使って、新たな意味や関係、アイデアを創造することが出来る。	地域社会やグローバル社会における自らの役割を考え、継続的に自己評価し、動機がしっかりと説明できる。自分の行動の根底にある規範や価値観を理解し、しっかりと説明できる。	他者のニーズ・視点・行動をしっかりと理解し、尊重しながら、自分の考えや思いも他者にしっかりと伝え、必要に応じて他者と協力しながら、問題を解決しようとしている。
	5	○地域探究「問いを立てよう」 ○地域探究（三鷹を探究する）				
	6 7	○地域探究（自分たちの地元を探究する） ○フィールドワーク事前指導 フィールドワーク（夏季休業実施）				
2	9	○お礼状作成	12	自らの課題に対して、関連する知識の体系と文脈を理解し、アウトラインを作成することを通じて論理的に筋道を立てて考えることができる。また、研究目的、問題の設定に正対しているか、吟味した上で、説明ができる。	地域社会やグローバル社会における自らの役割を考え、継続的に自己評価し、動機がしっかりと説明できる。自分の行動の根底にある規範や価値観を理解し、しっかりと説明できる。	他者のニーズ・視点・行動をしっかりと理解し、尊重しながら、自分の考えや思いも他者にしっかりと伝え、必要に応じて他者と協力しながら、問題を解決しようとしている。
	10	○地域フィールドワークまとめ				
	11	○地域探究（「問い」の再構築）				
	12	○地域探究（考察） ○地域探究（ポスター作成）				
3	1	○地域探究（プレゼンテーション準備）	12	自らの課題に対して、関連する知識の体系と文脈を理解し、アウトラインを作成することを通じて論理的に筋道を立てて考えることができる。また、研究目的、問題の設定に正対しているか、吟味した上で、説明ができる。	地域社会やグローバル社会における自らの役割を考え、継続的に自己評価し、動機がしっかりと説明できる。自分の行動の根底にある規範や価値観を理解し、しっかりと説明できる。	他者のニーズ・視点・行動をしっかりと理解し、尊重しながら、自分の考えや思いも他者にしっかりと伝え、必要に応じて他者と協力しながら、問題を解決しようとしている。
	2	○地域探究（リハーサル） 探究発表会				
	3	○今年度の反省と次年度に向けての準備				
年間授業時数			36			

令和8年度 <2学年 探究> 年間指導計画

週時数	36
使用教科書	
使用補助教材	探究に役立つ！学校司書と学ぶレポート・論文作成ガイド

目標
・5月に実施する校外学習や11月に実施する職場体験をフィールドワークとし、白馬村や起業への魅力について調査し、それにかかわる社会課題を発見し、解決策を調べ、提案できるようになる。

評価の観点と方法・材料
提出物、発表、発表資料、活動への取り組み・態度

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	○白馬の魅力を考える ○白馬の課題を発見するための「問い」づくり。	12	自らの課題に対して、関連する知識の体系と文脈を理解し、アウトラインを作成することを通じて論理的に筋道を立てて考えることができる。また、研究目的、問題の設定に正対しているか、吟味した上で、説明ができる。	地域社会やグローバル社会における自らの役割を考え、継続的に自己評価し、動機がしっかりと説明できる。自分の行動の根底にある規範や価値観を理解し、しっかりと説明できる。	他者のニーズ・視点・行動をしっかりと理解し、尊重しながら、自分の考えや思いも他者にしっかりと伝え、必要に応じて他者と協力しながら、問題を解決しようとしている。
	5	○白馬フィールドワークの成果の共有・班ごとに課題設定				
	6 7	○白馬地域探究のポスター作成				
	9	○白馬地域探究プレゼンテーション練習 ○白馬地域探究リハーサル ○白馬地域探究発表会 ○起業探究(起業とは?)	12	自らの課題に対して、関連する知識の体系と文脈を理解し、アウトラインを作成することを通じて論理的に筋道を立てて考えることができる。また、研究目的、問題の設定に正対しているか、吟味した上で、説明ができる。	地域社会やグローバル社会における自らの役割を考え、継続的に自己評価し、動機がしっかりと説明できる。自分の行動の根底にある規範や価値観を理解し、しっかりと説明できる。	他者のニーズ・視点・行動をしっかりと理解し、尊重しながら、自分の考えや思いも他者にしっかりと伝え、必要に応じて他者と協力しながら、問題を解決しようとしている。
	10	○社会課題を見つける。(「問い」づくり)				
	11 12	○起業するに当たったの準備。(会社を作る) ○起業するに当たったの(企画書作り)(起業理念の作成)(会社名の決定) ○社会課題を解決するためのアイデア作り。				
	1	○社会課題を解決するためのアイデア作り	12	自らの課題に対して、関連する知識の体系と文脈を理解し、アウトラインを作成することを通じて論理的に筋道を立てて考えることができる。また、研究目的、問題の設定に正対しているか、吟味した上で、説明ができる。	地域社会やグローバル社会における自らの役割を考え、継続的に自己評価し、動機がしっかりと説明できる。自分の行動の根底にある規範や価値観を理解し、しっかりと説明できる。	他者のニーズ・視点・行動をしっかりと理解し、尊重しながら、自分の考えや思いも他者にしっかりと伝え、必要に応じて他者と協力しながら、問題を解決しようとしている。
	2	○起業探究(プレゼンテーション練習) ○起業探究(リハーサル)探究発表会				
	3	○今年度の反省と次年度に向けての準備				
			36			

令和8年度 <3学年 探究> 年間指導計画

週時数	36
使用教科書	
使用補助教材	課題研究メソッド 2nd Edition

目標
人文・社会科学および自然科学についての研究テーマについて調べ、協働しながら研究に取り組み、その結果をまとめてわかりやすく発表する、という活動を通して、探究学習の方法を学ぶとともに、課題発見や問題解決の能力を高める。

評価の観点と方法・材料
提出物、発表、発表資料、活動への取り組み・態度

学期	月	単元と学習内容	時数	観点の評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	4	○ガイダンス	12	選択したテーマについての知識を取得する方法を複数試行できる。また、研究目的、問題の設定に正対しているか、吟味した上で説明ができる。	選択したテーマの課題を検証していく上で、自らの役割を考え、行動に移し、継続的に活動できる。自分の行動の根底にある規範や価値観を理解し、しっかりと説明できる。	他者のニーズ・視点・行動をしっかりと理解し、尊重しながら、自分の考えや思いも他者にしっかりと伝え、必要に応じて他者と協力しながら、問題を解決しようとしている。
	5	○提示されたテーマの中で自分の興味がある分野はどれかを考える。 ○興味を持ったテーマが同じになったメンバーで、リサーチクエストの設定をする。				
	6	○リサーチクエストや仮説を検証するための方法を考える ○先行研究を調べる				
	7	○検証方法を実施する				
	9	○検証とリサーチクエスト再考を繰り返す	12	自らの課題に対して、関連する知識の体系と文脈を理解し、アウトラインを作成することを通じて論理的に筋道を立てて考えることができる。また、研究目的、問題の設定に正対しているか、吟味した上で、説明ができる。	選択したテーマの課題を検証していく上で、自らの役割を考え、行動に移し、継続的に活動できる。自分の行動の根底にある規範や価値観を理解し、しっかりと説明できる。	他者のニーズ・視点・行動をしっかりと理解し、尊重しながら、自分の考えや思いも他者にしっかりと伝え、必要に応じて他者と協力しながら、問題を解決しようとしている。
	10	○検証結果をまとめる				
	11	○再実験・文献調査等を繰り返して検証をより良いものにしていく				
	12					
	1	○再実験・文献調査等を繰り返して検証をより良くし、スライドにまとめる。 ○プレゼンテーション練習	12	自らの課題に対して、関連する知識の体系と文脈を理解し、アウトラインを作成することを通じて論理的に筋道を立てて考えることができる。また、研究目的、問題の設定に正対しているか、吟味した上で、説明ができる。	選択したテーマの課題を検証していく上で、自らの役割を考え、行動に移し、継続的に活動できる。自分の行動の根底にある規範や価値観を理解し、しっかりと説明できる。	他者のニーズ・視点・行動をしっかりと理解し、尊重しながら、自分の考えや思いも他者にしっかりと伝え、必要に応じて他者と協力しながら、問題を解決しようとしている。
	2	○探究発表会リハーサル 探究発表会				
	3	○今年度の反省と次年度に向けての準備				
			36			

令和8年度 <1～3学年 特別活動> 年間指導計画

	項目	学習内容(時期)	時数	指導方法・教材など
1 学 年	環境美化への理解	清掃の仕方(4月)	0.5	プリント
	集団への帰属意識	学級目標(4月)	0.5	学年集会後プリント
	適切な目標設定	個人目標(4,9,1月)	1.5	プリント
	個人の役割と責任感	委員・係の選出(4,10月)	2	立候補、推薦により学級委員を選出、 学級委員により他の委員を選出
	自己及び他者の理解	班作り(4,6,9,11,1月)	2.5	プリント
	基本的なマナーと衛生管理(食育)	給食のマナー(4月)	1	プリント
	自主的な計画作り	校外学習(4,5,3月)	4	担任指導
	自己及び他者の理解	合唱祭(5,6月)	4	担任指導
	自己及び他者の理解	文化祭、体育祭(7,8,9月)	4	担任指導
	伝統文化への理解	芸術鑑賞教室(6月)	2	プリント
	自主的な計画作り	定期考査の取り組み(5,7,10,12,3月)	2.5	担任指導
	自らの弱点の認識と克服方法の探究	学力推移調査等の振り返り(5,12,3月)	1.5	担任指導、プリント
	目標到達度の確認と反省	各学期の反省(7,12,3月)	1.5	担任指導
	適切な目標設定	長期休業日の過ごし方と計画(7,12,3月)	1.5	担任指導、プリント
	自己及び他者の理解	球技大会への取り組み(3月)	2	担任指導
安全と健康の理解	安全指導(毎月)	2	担任指導	
安全と健康の理解	避難訓練(毎月)	2	担任指導 年1回は生活指導部主催	
2 学 年	環境美化への理解	清掃の仕方(4月)	0.5	プリント
	集団への帰属意識	学級目標(4月)	0.5	学年集会後プリント
	適切な目標設定	個人目標(4,9,1月)	1.5	プリント
	個人の役割と責任感	委員・係の選出(4,10月)	2	立候補、推薦により学級委員を選出、 学級委員により他の委員を選出
	自己及び他者の理解	班作り(4,6,9,11,1月)	2.5	プリント
	基本的なマナーと衛生管理(食育)	給食のマナー(4月)	1	プリント
	自主的な計画作り	校外学習、遠足(4,5,2,3月)	4	担任指導
	自己及び他者の理解	合唱祭(5,6月)	4	担任指導
	自己及び他者の理解	文化祭、体育祭(7,8,9月)	4	担任指導
	伝統文化への理解	芸術鑑賞教室(6月)	2	プリント
	自主的な計画作り	定期考査の取り組み(5,7,10,12,3月)	2.5	担任指導
	自らの弱点の認識と克服方法の探究	学力推移調査等の振り返り(5,12,3月)	1.5	担任指導、プリント
	目標到達度の確認と反省	各学期の反省(7,12,3月)	1.5	担任指導
	適切な目標設定	長期休業日の過ごし方と計画(7,12,3月)	1.5	担任指導、プリント
	自己及び他者の理解	球技大会への取り組み(3月)	2	担任指導
安全と健康の理解	安全指導(毎月)	2	担任指導	
安全と健康の理解	避難訓練(毎月)	2	担任指導 年1回は生活指導部主催	
3 学 年	環境美化への理解	清掃の仕方(4月)	0.5	プリント
	集団への帰属意識	学級目標(4月)	0.5	学年集会後プリント
	適切な目標設定	個人目標(4,9,1月)	1.5	プリント
	個人の役割と責任感	委員・係の選出(4,11月)	2	立候補、推薦により学級委員を選出、 学級委員により他の委員を選出
	自己及び他者の理解	班作り(4,6,9,11,1月)	2.5	プリント
	基本的なマナーと衛生管理(食育)	給食のマナー(4月)	1	プリント
	自己及び他者の理解	合唱祭(5,6月)	4	担任指導
	自己及び他者の理解	文化祭、体育祭(7,8,9月)	4	担任指導
	伝統文化への理解	芸術鑑賞教室(6月)、遠足、研修旅行(5,11月)	2	プリント、担任指導
	自主的な計画作り	遠足(4,5月)、研修旅行(10,11月)	4	担任指導
	自主的な計画作り	定期考査の取り組み(5,7,10,12,3月)	2.5	担任指導
	自らの弱点の認識と克服方法の探究	学力推移調査等の振り返り(5,12,3月)	1.5	担任指導、プリント
	目標到達度の確認と反省	各学期の反省(7,12,3月)	1.5	担任指導
	適切な目標設定	長期休業日の過ごし方と計画(7,12,3月)	1.5	担任指導、プリント
	自己及び他者の理解	球技大会への取り組み(3月)	2	担任指導
安全と健康の理解	安全指導(毎月)	2	担任指導	
安全と健康の理解	避難訓練(毎月)	2	担任指導 年3回は生活指導部主催	
	年間授業時数		35	

図書館・保健室より

図書館から

学校図書館は、多様な資料や検索のためのツールを用意して、皆さんのひとりひとりが自ら学ぶことができる環境を整えています。広く豊かな本の世界を通して、理解する力や考える力、また表現する力を培ってください。

また、中学・高校時代に図書館を利用する習慣を身に付けておくと、将来、大学生や社会人になってから、各種の図書館を活用するうえで、大きな助けになるはずです。

〈読書〉

書物は時代や空間を超えて、人の営みを伝えてきました。個人で体験できることには限りがありますが、読書をするすることで、未知の世界に触れ、複雑な社会や人の心を理解するヒントが得られます。様々な考え方や感じ方に接し、自分自身や社会について考えることは、未来を模索することにつながっていきます。中学・高校時代に多くの本に出会うことによって、視野を広げ、ものの見方を確立し、自分の意見を表現できるよう成長してほしいと願っています。

また、くつろいだ気分で想像の世界に楽しみを発見する読書もあります。学校図書館には、エンターテインメント小説、趣味やスポーツの実用書や写真集など、気軽に楽しみながら読める本や雑誌もたくさんあります。時には、ひとりでできる息抜きを楽しんでください。

〈調査・研究〉

本校の学習では、自らテーマを設定し調査をする探究的な学びを实践する機会が多く、レポート作成や発表授業が活発に行われています。テーマの設定や調査に、インターネットだけでなく、図書館にある本や事典などの資料を活用できるようになりましょう。

【資料の探し方】

学校では閲覧室にある蔵書検索パソコンが利用できます。また本校の蔵書検索サイト「三鷹中等教育学校 図書館」(https://lib-finder.net/mitaka_ss/) からオンラインで検索することも可能です。検索の際は、調べたい事柄にたいして関連するキーワードを複数用意すると、より情報をみつけやすくなります(例：節電について調べたい…省エネ、電気、発電、エネルギーなど)。そうしたキーワードが浮かばない場合は、まずは百科事典でその事柄を調べると、必要最低限の知識を得ることができます。

また、図書館には本だけでなく、新聞や雑誌もあります。そちらも調べてみましょう。

【資料の読み方】

調べものをする際は、楽しみの読書とは違い、1 ページ目から順番に読む必要はありません。見つけた資料に必要な情報があるか、内容を示している「目次(もくじ)」か、巻末にある「索引(さくいん)」から該当するページを探して確認しましょう。

また、本の巻末には「参考文献一覧」という、本を書く際に参考にした資料の一覧がついている場合があります。1冊の本から、関連する内容の本を何冊も見つけることができます。

必要な情報を見つけたら、それがどの資料のどこに載っていたのかをメモしましょう。本の場合は「書名」「著者名」「出版社」「出版年」が基本です。

図書館は、みなさんの「知りたい、学びたい」を応援する場所です。おおいに活用してください。

保健室から

保健室では、みなさんが充実した学校生活を送れるように、サポートをしていきます。みなさんも自分の体調を把握し、自分で健康管理ができるようにしましょう。

<前期課程>

小学校時代に比べて、通学時間が長くなります。学習内容も難しくなり、予習・復習・宿題と勉強時間が長くなるとともに部活動の練習内容も厳しくなります。思春期は大切な成長期なので、必要に応じ身体を休息させることが大切です。

<後期課程>

後期課程は義務教育ではありませんので、決められた出席日数をこなし単位をとることが大切です。体調管理を行い、充実した学校生活を送りましょう。

<前期課程・後期課程共通の健康管理>

自分の生活リズム

睡眠時間を削っての生活は、単に疲労感や眠気を招くばかりではなく、頭痛や肩こり立ちくらみ、生理の不順、胃腸の調子が悪いといった症状を招きます。

身体の疲労が重なると「やる気が出ない」「何もしたくない」「理由はないが涙がでてくる」など心への影響がでてくることもあります。

規則正しい生活を送り、自分なりの生活リズムをつくりましょう。

睡眠と栄養

中等教育学校の6年間は身体が最も成長する時期です。睡眠と栄養と適度な運動は成長に欠かせない大切な要素です。睡眠は休息をとるという点からも、また睡眠中に成長ホルモンの分泌が促進されている点からも重要です。自分に必要な睡眠時間をつかんでください。

食生活の面では、栄養のバランスを考えて摂取しましょう。前期課程の給食は、成長に必要なエネルギー、栄養バランスを考えた献立となっています。

後期課程は、弁当を持参します。自分で弁当を作る（購入する）人もいるでしょう。パンだけ、おにぎりだけでなく野菜（サラダやジュース）・たんぱく質（チーズ等）も加えるなどバランスを考えましょう。

学校感染症について

インフルエンザなど学校感染症に罹患した場合は、速やかに学校に連絡し出席停止期間は十分に休養をしましょう。登校を再開する時には「学校感染症による欠席届」を担任に提出してください。

心の健康

中学・高校時代は精神的・身体的・社会的に大人へと成長していく時期です。

その過程で不安感や挫折感を感じることもあると思います。自分の心と向き合いひとりで考えることも大切ですが、信頼できる大人に相談することも時には必要です。

保健室でも相談に応じますし、スクールカウンセラーも来校し相談対応をしています。

6年間の学習計画

国語科 6年間の指導計画

目 標 ・文化の源となる国語教育という視点に立ち、読むこと・書くことはもちろん、話すこと・聞くことの領域においても「ことば」の働き・成り立ちに興味や関心を持ち、言語文化を深く理解し尊重する態度を養う。実社会において「ことば」の正しい、主体的な使い手となり、自分の気持ち、考えを適切に表現できる力を身につけさせる。他者を理解し、物事を論理的に思考し深化させていくことのできる言語力を養成する。

指導の特徴 ○学校設定科目…「文化科学Ⅰ」「文化科学Ⅱ」の設置。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
読書に親しむ。漢字と言葉の正しい理解と習得。自分の意見や考えを言葉にして率直に表現する。他者の言葉を的確に受け止める。	意欲的に読書に取り組み、視野を広げる。文章表現の仕方を学び、文章を書き慣れる。討論・討議を通して他者を理解し、自分の論理を鍛える。	自ら課題を設定し、読書を行う。古今の文章を読み叡智に触れて、自分の考えを発展させる。価値判断を伴った読解力を付ける。効果的な表現方法を工夫する。

課程	ステージ	学年	目標と学習内容	履修科目	授業時数	三鷹市小中一貫カリキュラムとの連携	
前期課程	ファーストステージ	1	○国語 ・楽しく読む。 ・工夫して音読・朗読・群読をし、読解力と表現力を育てる。 ・口語文法を学び、日本語の特性を知る。 ・漢字の成り立ち・故事成語・四字熟語を学んで漢字の造語力を知る。 ・古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れる。 書写 ・字形・配列などを理解して楷書で書く。 ・漢字の行書の基礎。	○文化科学Ⅰ ・読解力、表現力の基礎を養う。 ・身の回りに材をとったスピーチや、グループでの話し合い活動を通じて、効果的なプレゼンテーションの方法を学ぶ。 ・論理的な文章の構成や、資料の読み取り方を学ぶ。 ・百人一首の暗唱を行い、和歌に親しむ。	国語 文化科学Ⅰ	週4時間 週1時間	・日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりする。 ・スピーチ「私のお気に入り」ショウ・アンド・テル
		2	○国語 ・正しく読む。 ・仲間や社会とのかかわりを描いた文学作品を読み、日常生活から社会全体へと視野を広げる。 ・通知文、説明文、図表などの制作を行い、情報を伝える編集方法について学ぶ。 ・熟語の構成・漢語と和語の性質を学び、日本語の豊かさを理解する。 ・文語文法・訓読のきまりの基礎を学び古典独特の表現を味わう。 ・百人一首の鑑賞とともに近現代の短歌・俳句を学び、定型詩の伝統と特色を考える。 書写 ・漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して書く。		国語	週4時間	・収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書く。 ・書いたものをグループで回して読み合い、良さやアドバイスを伝えあい、推敲する。
		3	○国語 ・広く読む。 ・社会や世代を超えて読み継がれる物語や小説を読んで自己と社会を考える。 ・論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読み、読み取ったことを簡潔にまとめた文章を書く。 ・ディベート・パネルディスカッションを行い、対話と説得の技術を身につける。 ・文語文法（用言）・訓読のきまりを体系的に学び、読解力の基礎を固める。 ・世界の様々な文字の特性と背景にある文化を知るとともに、我が国における仮名の成り立ち・特性を理解する。 書写 ・多様な文字に関心を持ち効果的に字を書く。		国語	週4時間	・論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読む。 ・報道されていることを読み取り、起こった出来事をとらえる。
後期課程	セカンドステージ	4	○現代の国語 ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。	○言語文化 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。 ・読書に親しみ、言語文化の担い手として言葉を通して他者や社会を理解する。 ・古典の世界に親しみ、作品や文章の歴史的、文化的背景などを理解する。 ○文化科学Ⅱ ・漢文と現代の文章をつなげ、言語文化を発展的に深め、理解する。	現代の国語 言語文化 文化科学Ⅱ	2単位 2単位 1単位	
		5	○文学国語 ・文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてほしいことが伝わるように書かれているかなどを吟味する。 ・ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。	○古典探究 ・古典の作品や文章の種類と特徴について理解を深める。 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増し、語彙を豊かにする。	文学国語 古典探究	2単位 3単位	
		6	○論理国語 ・読んで広げる。 ・時代や地域で異なる多様な文化を相対的にとらえ尊重するとともに、普遍的真理を追究する態度を育てる。 ・近代、現代を考えさせる小説・評論を読み、時代と人間・社会と人間について話し合って考えを深め、文章に表現する。	○発展古典、古典演習（選択） ・古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにする。 ○現代文演習（選択） ・現代文や古典の作品を通して、より深く解釈をするとともに、ものの見方・感じ方・考え方を深める。	論理国語 発展古典 古典演習 現代文演習	2単位 4単位 2単位 2単位	

社会科 6年間の指導計画

目 標 ・「思いやり・人間愛を持った社会的リーダー」として必要な、公民的資質を養う。6年間を通じ各分野の基本的な事項に関する知識・技能を確実に習得させるとともに、分野相互の関連を図り、社会的事象に対する正しい理解と人間への多面的な関心と愛情を身に付けた社会的リーダーとして必要な判断力・表現力を身に付ける。

指導の特徴 5・6年次の本人の進路選択に応じた選択科目の設置。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
社会的事象に関する基本的な知識と技能を身につける。(その際、一貫教育の特性を生かし、後期課程の理解に不可欠な部分については十分な時間を確保する)。	社会的事象に関する幅広い知識と技能の定着を図る。また、社会事象の原因や背景を考察したり、多面的多角的に追及したりする力を養う。	社会的事象を理解・分析し、課題を解決する総合的な力を身につける。また、それらを分かりやすく表現する能力を培う。

課程	ステージ	学年	目標と学習内容	履修科目	授業時数	三鷹市小中一貫カリキュラムとの連携		
前期課程	ファーストステージ	1	○地理的分野 (1) 世界の様々な地域 (2) 日本の様々な地域	○歴史的分野 (1) 歴史のとらえ方 (2) 古代までの日本 (3) 中世の日本 (4) 近世の日本 (5) 近代の日本と世界 (6) 現代の日本と世界	社会	週4時間	<地理的分野> ・地域の規模に応じた調査、身近な地域 <歴史的分野> ・歴史のとらえかた、身近な地域の歴史を調べる活動 <公民的分野> ・政治分野：地方自治 ・経済分野：政府の役割 ・地方財政	
		2			社会	週3時間		
		3	○公民的分野 (1) 私たちと現代社会 (2) 私たちと経済 (3) 私たちと政治 (4) 私たちと国際社会の諸課題		社会	週4時間		
後期課程	セカンドステージ	4	○地理総合(必履修) (1) 地図や地理情報システムでとらえる現代社会 (2) 国際理解と国際協力 (3) 持続可能な地域づくりと私たち ○歴史総合(必履修) (1) 工業化の進展と国民国家の建設 (2) 結び付く世界と日本の開国 (3) 帝国主義とアジア諸国の変容 (4) 第一次世界大戦と大衆社会 (5) 経済危機と第二次世界大戦 (6) 第二次世界大戦後の世界と日本 (7) 冷戦と植民地化・第三世界の台頭 (8) 世界秩序の変容と日本	○公共(必履修) (1) 公共の扉 (2) 自立した主体としてよりよい社会の形成 (3) 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	地理総合 歴史総合 公共	2単位 2単位 2単位		
		5	○世界史探究(選択必修) (1) 世界史へのまなざし (2) 諸地域の歴史的特質の形成 (3) 諸地域の交流・再編 (4) 諸地域の結合・変容 (5) 地球世界の課題	○日本史探究(選択必修) (1) 原始・古代の日本と東アジア (2) 中世の日本と世界 (3) 近世の日本と世界 (4) 近現代の地域・日本と世界	○地理探究(選択必修) (1) 自然環境 (2) 資源・産業 (3) 交通・通信・観光 (4) 人口・都市・村落 (5) 生活文化・民族・宗教 (6) 現代世界の地域区分 (7) 現代世界の諸地域 (8) 持続可能な国土像の研究	世界史探究 日本史探究 地理探究	4単位 4単位 4単位	※1科目選択
		6	【選択科目】 発展地理 地理演習 発展世界史 世界史演習 発展日本史 日本史演習 倫理 政治・経済			発展地理 地理演習 発展世界史 世界史演習 発展日本史 日本史演習 倫理 政治・経済	2単位 2単位 4単位 2単位 4単位 2単位 2単位 2単位	

数学科 6年間の指導計画

目 標 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を以下のとおり3ステージ分けて育成する。

指導の特徴 ○習熟度別指導の実施…2学級3展開の授業を実施し、個々に応じたきめ細かな習熟度別指導を行う。

○継 続 的 指 導…精選した内容を系統的、体系的に指導する。

○発 展 的 指 導…中等教育学校の後期課程における指導内容の一部については、前期課程における指導内容に移行させて発展的な学習として指導する。

○学 校 設 定 科 目…「自然科学Ⅰ」を設定し、「日本の文化と幾何学」を題材に、意欲、興味関心を高める課題学習指導を行う。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
<p>○数量や図形などについての基礎的な概念や法則を理解する。</p> <p>○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能について学ぶ。</p> <p>○数学を活用して事象を論理的に考察する力や数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>○数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度や問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。</p>	<p>○数量や図形などについての基礎的な概念や法則について理解を深める。</p> <p>○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を伸ばす。</p> <p>○数学を活用して事象を論理的に考察する力や数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>○数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度や問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。</p>	<p>○基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。</p> <p>○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。</p> <p>○数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>○数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>

課程	ステージ	学年	目標と学習内容	関連教材	履修科目	週授業数 単位数
前期課程	ファーストステージ	1	<p>○代数分野</p> <p>(1) 正の数と負の数 具体的な場面を通して正の数と負の数必要性と意味を理解し、四則計算ができるようにするとともに、正の数と負の数を用いて表現し考察することができるようにする。</p> <p>(2) 文字を用いた式、四則演算 文字を用いることの必要性と意味を理解し、文字を用いた式の計算ができるようにする。また、目的に応じて式を変形したり、数量や数量の関係を捉え説明したりすることができるようにする。</p> <p>(3) 一元一次方程式、連立二元一次方程式 等式や方程式の必要性と意味について理解し、一元一次方程式や連立二元一次方程式を解くことができるようにするとともに、方程式を具体的な場面で活用することができるようにする。</p> <p>(4) 比例と反比例 関数関係の意味を理解するとともに、比例や反比例として捉えられる二つ数量について、表、式、グラフなどを用いて調べ、具体的な事象について考察し表現することができるようにする。</p> <p>(5) データの活用 ヒストグラムや相対度数の必要性と意味を理解するとともに、目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し、判断することができるようにする。</p> <p>(6) 確率 多数の観察や多数回の試行の結果を基にして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現することができるようにする。</p> <p>○幾何分野</p> <p>(1) 平面図形 基本的な作図や図形の移動について理解するとともに、扇形の弧の長さや面積の求め方について理解し、これらを具体的な場面で活用することができるようにする。</p> <p>(2) 空間図形 空間図形についての理解を深めるとともに、基本的な錐体や柱体、球の表面積や体積について理解し、これらを具体的な場面で活用できるようにする。</p>	<p>検定教科書</p> <p>体系数学 ・1代数編 ・1幾何編 ・2代数編</p> <p>数学の泉</p> <p>体系問題集 (発展編) ・1代数編 ・1幾何編 ・2代数編</p>	数学	4時間

		<p>○代数分野</p> <p>(1) 式の展開と因数分解 具体的な事象の中にある数量について文字を用いた式に表現したり式の意味を読み取ったりする能力を養うとともに、文字を用いた式の四則計算ができるようにする。</p> <p>(2) 平方根 正の数の平方根の必要性和意味について理解し、平方根を含む式の計算をすることができるようにするとともに、具体的な場面で活用することができるようにする。</p> <p>(3) 一次関数 事象の中にある一次関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。</p> <p>(4) データの活用 四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解するとともに、これらを用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断することができるようにする。</p> <p>(5) 確率 場合の数を基にして得られる確率の必要性和意味を理解するとともに、確率を用いて不確定な事象を捉え考察し表現することができるようにする。</p> <p>○幾何分野</p> <p>(1) 平面図形の性質 基本的な平面図形の性質を見出し、平行線と角の性質、多角形の角の性質を基にしてそれらを確認説明することができるようにする。</p> <p>(2) 図形の合同 平面図形の合同、三角形の合同条件の意味、証明の必要性和意味及びその方法について理解することができるようにする。</p> <p>(3) 三角形と四角形 三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり、新たな性質を見いだしたりすることができるようにする。</p>	<p>検定教科書</p> <p>体系数学 ・ 2代数編 ・ 1幾何編</p> <p>数学の泉</p> <p>体系問題集 (発展編) ・ 2代数編 ・ 1幾何編</p>	数学	4時間
	2	<p>○自然科学 I 「日本の文化と幾何学」と「データの活用」</p> <p>(1) 和算や算額の歴史について理解を深めるとともに、算額作りに必要な幾何の諸定理（三平方の定理や円の性質など）を理解し、利用することができるようにする。</p> <p>(2) 幾何の諸定理を利用して算額を作ったり、仲間の作品を意欲的に鑑賞し、解きあったりすることができるようにする。</p> <p>(3) データの分析についての理解を深める。</p>	<p>体系数学 ・ 2代数編 ・ 2幾何編</p> <p>数学の泉</p>	自然科学 I	1時間
セカンドステージ	3	<p>○代数分野</p> <p>(1) 二次方程式 二次方程式の必要性和意味を理解し、因数分解や平方根の考えを基にして二次方程式を解くことができるようにするとともに、具体的な場面で二次方程式活用できるようにする。</p> <p>(2) 関数 $y=ax^2$ 関数 $y=ax^2$ として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができるようにするとともに、具体的な事象を捉え考察し表現することができるようにする。</p> <p>(3) 標本調査 標本調査の必要性和意味を理解するとともに、コンピュータを用いて標本調査の実験を行い、母集団の傾向を推定し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現したりすることができるようにする。</p> <p>○幾何分野</p> <p>(1) 図形の相似 平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解するとともに、三角形の相似条件を基にして図形の性質を論理的に考察し表現したり、新たな定理を見だしそれを活用したりすることができるようにする。 また、基本的な立体の意味を理解するとともに、相似比と面積比や体積比との関係について理解し活用することができるようにする。</p> <p>(2) 円周角と中心角 円周角と中心角の関係の意味を理解し証明ができるようにするとともに、具体的な場面で活用できるようにする。</p> <p>(3) 平面図形の探究 三角形の性質や円の性質など平面図形に関する基本的な性質や定理についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにするとともに、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができるようにする。</p>	<p>検定教科書</p> <p>体系数学 ・ 2代数編 ・ 2幾何編</p> <p>数学の泉</p> <p>体系問題集 (発展編) ・ 2代数編 ・ 2幾何編</p>	数学	4時間
		<p>○数学 I</p> <p>(1) 数と式 数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。また、式を多面的に見たり処理したりするとともに、一次不等式を事象の考察に活用できるようにする。</p>	<p>数学 I</p> <p>体系数学 3 数式・関数編 論理・確率編</p>	数学 I	3単位

後 期 課 程	4	<p>(2) 二次関数 二次関数とそのグラフについて理解し、二次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(3) 図形と計量 三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(4) データの分析 統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。</p> <p>(5) いろいろな式（数学Ⅱ） 整式の乗法・除法及び分式式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。また、方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。</p>	<p>数学Ⅰ</p> <p>体系数学3 論理・確率編</p>		
		<p>○数学A</p> <p>(1) 場合の数と確率 場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(2) 整数の性質 整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(3) 図形の性質 平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。（復習）</p>	<p>数学A</p> <p>体系数学3 論理・確率編</p>	<p>数学A</p>	<p>2単位</p>
サ イ ド ス テ ー ジ	5	<p>○数学Ⅱ</p> <p>(1) 図形と方程式 座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(2) 指数関数・対数関数 指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(3) 三角関数 角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(4) 微分・積分の考え 微分・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。</p>	<p>数学Ⅱ</p> <p>体系数学5</p>	<p>数学Ⅱ</p>	<p>4単位</p>
		<p>○数学B</p> <p>(1) 数列 簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(2) 統計的な推測 確率の理論を統計に応用し、区間推定と仮説検定の方法を理解するとともに、母集団の特徴や傾向を推測し判断できるようにする。</p>	<p>数学B</p>	<p>数学B</p>	<p>2単位</p>
		<p>○数学C</p> <p>(1) ベクトル ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。</p>	<p>数学C</p>	<p>数学C</p>	<p>1単位</p>
	6	<p>○数学Ⅲ（選択）</p> <p>(1) 極限 数列や関数値の極限の概念を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(2) 微分法 微分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>(3) 積分法 積分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できるようにする。</p>	<p>数学Ⅲ</p>	<p>数学Ⅲ</p>	<p>4単位</p>
		<p>○数学C（選択）</p> <p>(1) 平面上の曲線と複素数平面 平面上の曲線がいろいろな式で表されること及び複素数平面について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p>	<p>数学C</p>	<p>数学C</p>	<p>2単位</p>
		<p>○数学Ⅰ（選択）</p> <p>数学Ⅰ、数学Aの内容に関する復習と大学共通テスト受験に向けた問題演習を行う。</p>	<p>数Ⅰ・A</p>	<p>数学Ⅰ</p>	<p>2単位</p>
		<p>○数学Ⅱ（選択）</p> <p>数学Ⅱ、数学Bの内容に関する復習と大学共通テスト受験に向けた問題演習を行う。</p>	<p>数Ⅱ・B</p>	<p>数学Ⅱ</p>	<p>2単位</p>
	<p>○数学Ⅱ（応用）（選択）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学Ⅱ、数学Bの全範囲にわたって問題解決能力を高める。 ・問題演習を通じて、大学入試における得点力向上を目指す。 	<p>数学Ⅱ・B</p>	<p>数学Ⅱ</p>	<p>2単位</p>	

理科 6年間の指導計画

- 目 標 ・自然に対する興味を深め、疑問を持ち、疑問に対する答えを探究する力を身につける。
 ・「社会的リーダー」として必要な、筋道を立てて物事を考える論理的な思考力を身につける。

指導の特徴 ○学校設定科目…「自然科学Ⅱ」の設置。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
身のまわりの現象に実験や観察を通して触れることで、自然に対する興味・関心を深める。 科学的探究を行うための基本的な能力や態度を育てる。	自然に対する疑問を持ち、筋道を立てて物事を考える論理的な思考力を育てる。 自然と人との関わり合いや共生、生命の尊重を通じ、社会的リーダーとして必要な基本的人権を尊重する態度を育成する。	専門性の高い授業を展開するとともに、各科目間を横断的に考える力も育てる 個々の生徒の興味・関心に応じて科目を選択できるようにする。

課程	ステージ	学年	目標と学習内容				履修科目	授業時数	三鷹市小中一貫カリキュラムとの連携
前期課程	ファーストステージ	1	物理分野 身近な物理現象 ・光による現象 ・音による現象 ・力による現象	化学分野 物質のすがた ・いろいろな物質 ・気体の発生と性質 ・物質の状態変化 ・水溶液	生物分野 生物の世界 ・身近な生物の観察 ・植物のなかま ・動物のなかま	地学分野 大地の変化 ・火山 ・地震 ・地層 ・大地の変動	理科	週3時間	・硬貨の密度から物質を特定する。 ・さまざまな細胞を観察し、その共通点、相違点を知る。
		2	物理分野 電流とその利用 ・電流と回路 ・電流と磁界 ・電流の正体	化学分野 化学変化と原子、分子 ・物質の成り立ち ・いろいろな化学反応 ・化学変化と熱の出入り ・化学変化と物質の質量	生物分野 生物のからだのつくりとはたらき ・生物をつくる細胞 ・植物の体のつくりとはたらき ・動物の体のつくりとはたらき	地学分野 気象のしくみと天気の変化 ・気象観測 ・気圧と風 ・天気の変化 ・日本の気象	理科	週4時間	・毎日の天気予報を聞いたり、見たりして明日の天気を予報する。
	セカンドステージ	3	物理分野 運動とエネルギー ・力の合成と分解 ・水中の物体に加わる力 ・物体の運動 ・仕事とエネルギー	化学分野 化学変化とイオン ・水溶液とイオン ・化学変化と電池 ・酸、アルカリとイオン	生物分野 生命のつながり ・生物の成長とふえ方 ・遺伝の規則性と遺伝子 ・生物の種類の多様性と進化	地学分野 地球と宇宙 ・天体の動き ・月と惑星の運動 ・宇宙の中の地球	理科	週4時間	・リアモーターカーの仕組みを知る。 ・デジタルカメラを用いて、物体の運動を記録する。
			自然界のつながり ・生物同士のつながり ・自然界を循環する物質 地球の明るいまいたいのために ・自然環境と人間 ・科学技術と人間 ・これからの私たちの暮らし						
			○自然科学Ⅱ I 理科実験の基礎 化学、生物、物理、地学・・・実験の基本操作 II 文献閲読 III その他 外部機関との連携授業				自然科学Ⅱ	週1時間	

課程	ステージ	学年	目標と学習内容	履修科目	授業時数	三鷹市小中一貫カリキュラムとの連携	
後期課程	セカンドステージ	4	<p>○化学基礎 物質の構造と化学変化を理解する</p> <p>物質の構成</p> <ul style="list-style-type: none"> 物質の探求 物質の構成粒子 <p>物質と化学結合</p> <ul style="list-style-type: none"> イオンとイオン結合 分子と共有結合 金属と金属結合 <p>物質の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> 物質と化学反応式 酸と塩基 酸化還元反応 	<p>○生物基礎 細胞・遺伝・生体内の環境・生態系について理解する</p> <p>生物と遺伝子</p> <ul style="list-style-type: none"> 生物の特徴 細胞 代謝 遺伝子とその働き <p>生物の体内環境の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> 生物の体内環境 <p>生物の多様性と生態系</p> <ul style="list-style-type: none"> 植生の多様性と分布 生態系とその保全 	化学基礎 生物基礎	2単位 2単位	
		5	<p>○物理基礎 運動とエネルギー、その他物理現象についての理解</p> <p>物体の運動とエネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動の表し方 様々な力とその働き 力学的エネルギー <p>様々な物理現象とエネルギーの利用</p> <ul style="list-style-type: none"> 熱 波動 電気 エネルギーとその利用 様々な物理現象 	<p>○化学 物質の状態・物質の性質と反応の理解</p> <p>物質の変化と平衡</p> <ul style="list-style-type: none"> 化学反応とエネルギー <p>無機物質</p> <ul style="list-style-type: none"> 非金属元素 金属元素 <p>有機化合物</p> <ul style="list-style-type: none"> 有機化合物の特徴と分類 脂肪族炭化水素 酸素を含む脂肪族化合物 構造式の決定 <p>○地学基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> 地球の構造 地層の形成 地球の環境 太陽系と宇宙 	物理基礎 化学 地学基礎	2単位 2単位 2単位	
	サードステージ	6	<p>○物理 様々な運動・電磁気の理解 原子構造理解</p> <p>様々な運動</p> <ul style="list-style-type: none"> 平面運動、剛体、運動量、円運動 単振動、万有引力、気体分子運動 <p>波動</p> <p>電気と磁気</p> <p>原子の物理学</p> <p>○化学 気体・固体の性質 平衡についての理解</p> <p>物質の状態と平衡</p> <ul style="list-style-type: none"> 気体の性質 固体の構造 溶液 <p>物質の変化と平衡</p> <ul style="list-style-type: none"> 反応の速さとしくみ 化学平衡 高分子化合物の性質と利用 天然高分子化合物 <p>○生物 生命現象・生殖・環境・進化についての理解</p> <ul style="list-style-type: none"> 生物の進化と系統 生命現象と物質 遺伝子の発現と調節 生殖と発生 生物の環境応答 生態と環境 	<p>○物理演習 物理全般の復習</p> <p>国公立2次、私大一般入試の問題演習</p> <p>○化学基礎演習 化学基礎全般の復習</p> <p>大学入学共通テストへの演習</p> <p>○生物演習 生物全般の復習</p> <p>国公立2次、私大一般入試の問題演習</p> <p>○生物基礎演習 生物基礎全般の復習</p> <p>国公立2次、私大一般入試の問題演習</p>	物理 物理演習 化学 化学基礎演習 生物 生物演習 生物基礎演習	4単位 2単位 4単位 2単位 4単位 2単位 2単位	

音楽科 6年間の指導計画

- 目 標 ○ 様々な表現活動の練習や発表の機会を通して、音楽を愛好する心情を育て、豊かな音楽表現の力を身につける。
- 幅広い鑑賞活動を通じて、音楽を味わい、理解し、深く感受する力を養う。
- 様々な音楽に触れ、幅広い情操教養を身につけることで、生涯音楽に関わっていく態度を育成する。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽表現に必要な基礎的な力を身につける。 ・ 音楽鑑賞に必要な基礎的な能力を身につける。 ・ 合唱活動を通し、集団で音楽を作り上げる楽しさを味わわせる。 ・ 独唱や独奏発表を数多く経験させ、個人の表現力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽表現に必要な幅広い力を高める。 ・ 作品の背景や他の芸術とのつながりを理解し、幅広い鑑賞の力をつける。 ・ 小グループによる創作的な音楽作りや即興的演奏活動をする。 ・ アンサンブル活動を通し、集団で取り組む音楽表現の創意・工夫をする。

課程	ステージ	学年	目標と学習内容	留意事項	履修科目	授業時数
前期課程	ファーストステージ	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合唱曲とパートの役割 ・ 合唱の響きと表現① ・ 詩と音楽の関わり ・ 和楽器の演奏①② ・ 音楽の要素とイメージのつながり ・ 器楽作品の演奏①② ・ 日本の音楽① ・ 独唱曲① ・ 次年度の合唱に向けて① 		音楽	週1時間
		2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合唱曲とパートの役割 ・ 合唱の響きと表現② ・ 楽曲の形式 ・ 和楽器の演奏③ ・ 独唱曲②③ ・ 器楽作品の演奏③ ・ 絵画と音楽の結びつき ・ 日本の音楽② ・ 次年度の合唱に向けて② 		音楽	週1時間
	セカンドステージ	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合唱曲とパートの役割 ・ 合唱の響きと表現③ ・ 楽曲の構成 ・ 器楽作品の演奏④⑤ ・ 作者の思いや時代背景と音楽の結びつき ・ 日本の音楽③ ・ 独唱曲④ ・ 次年度の合唱に向けて③ 		音楽	週1時間
後期課程	セカンドステージ	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合唱曲とパートの役割 ・ 合唱の響きと表現④ ・ 独唱曲⑤⑥ ・ 作品と音楽史・鑑賞①②③ ・ 器楽作品の演奏⑥⑦ ・ 表現・理論のまとめ ・ 歌唱まとめ 		芸術選択 音楽 I	2単位

美術科 6年間の指導計画

- 目 標 ・6年間の継続した美術の表現及び鑑賞の活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、豊かな想像性、発想力、表現力を養う。
- 創造する力と発想を表現へとつなげる力の伸長を目指す。
 - 豊かに発想し、表現力をつけるための技能・技術力の伸長を目指す。
 - 過去から現代にいたる日本及び世界の文化に対する知識と鑑賞力を育成する。
 - 教科外での貢献や学習や生活の中でも活用できる程度の美術の知識及び技能を、思考力・判断力・表現力をもって身に付ける。
 - 生活や社会の中で想像力や表現力を生かし、試行錯誤、調整力をもって生きていけるようにする。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
様々な素材を扱い、対象を観察する力、発想し構成する力や基礎的技能を身につける。美術作品などについて基礎的な理解を広げる。	基礎的表現力、鑑賞力をもとに幅広い視野で、見通しを持ちながら表現活動を目指す。日本及び世界の文化の知識を育成し美術を通した国際理解を深める。	より深い自己の追及により個性豊かな表現力を高める。鑑賞力の育成をめざし生涯にわたり芸術を愛好する心情を育て、感性と美意識を深める。

課程	ステージ	学年	目標と学習内容	留意事項	履修科目	授業時数
前期課程	ファーストステージ	1	1. 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができるようにする。 2. 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。 3. 楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。 A 表現（絵・デザイン・色の学習・レタリング・版画・彫刻） B 鑑賞 共通事項	・展示発表	美術	週1時間
		2	1. 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を工夫して表すことができるようにする。 2. 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 3. 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。 A 表現（絵・デザイン・版画・彫刻・工芸） B 鑑賞 共通事項	・展示発表	美術	週1時間
	セカンドステージ	3	1. 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を工夫して表すことができるようにする。 2. 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 3. 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。 A 表現（絵・デザイン・版画・彫刻・工芸） B 鑑賞 共通事項	・展示発表	美術	週1時間
後期課程	サードステージ	4	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美術体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 1. 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、造形的に表すことができるようにする。 2. 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 3. 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。 A 表現（絵画・デザイン・彫刻・映像メディア・工芸） B 鑑賞	・展示発表	芸術選択 美術Ⅰ	2単位
	5					
	サードステージ	6	芸術を通し、社会人・教養人として基礎を完成させる。 ○前期（各自のテーマにそって作品制作） ○後期（卒業制作・鑑賞）	・展示発表 ・受験対策	選択科目	2単位

書写・書道 6年間の指導計画

目 標 ・書写・書道の学習活動を通し、思考力、判断力、表現力を養い、生活や学習に生かす態度を育成する。また書写から書道への円滑な接続を図ることで書美への関心を高め、表現や鑑賞の能力を伸ばし、感性を高め、生涯にわたり書を愛好する心情と書の伝統や文化を尊重する態度を身につける。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
書写の基礎・基本の習得および書字過程を重視した学習活動を通して、思考力や判断力、表現力を養う。文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる能力を育成する。	文字が果たす役割や文化としての意義について理解することで、文字の芸術性に関心を向ける素地を養う。また、書道の幅広い活動を通して、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を育成し、書の伝統や文化についての理解を深める。	書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する態度を育成するとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統や文化についての理解を深め、尊重する態度を育成する。

課程	ステージ	学年	目標と学習内容	留意事項	履修科目	授業時数
前期課程	ファーストステージ	1	1. 文字の基礎的知識の理解 ・漢字や仮名の由来 2. 書写(毛筆)の基礎・基本の習得 ・執筆・姿勢 ・用具・用材 ・筆使い ・筆順 3. 文、文章の書き方 ・字形や大小の捉え方 ・漢字と仮名の調和および配列 ・硬・毛関連学習	・展示発表	書写	週1時間
		2	1. 行書の書き方の習得 ・行書の特徴 ①速書き、筆脈 ②点画の連続 ③払い、はね、筆順の変化 ④点画の省略 2. 行書とそれに調和した仮名の書き方の理解 3. 多様な書字場面への活用 ・目的や必要に応じた筆記具や書体(楷書又は行書)の選択	・展示発表	書写	週1時間
	セカンドステージ	3	1. 文字の役割を考える ・身のまわりの多様な文字の発見 ・文字を手書き文字することの意義 ・文字の伝達性と表現性 2. 文字文化としての意義を考える ・伝統的な書式(手紙、慶弔袋等) ・文字の表現性と芸術性についての探究(毛筆による書簡や名跡・名筆等)	・展示発表	書写	週1時間
後期課程	セカンドステージ	4	1. 書道の学習目標の理解 ・書写と書道 ・表現と鑑賞 2. 漢字の書 ・書体の変遷 ・基本用筆の習得 ・古典の鑑賞・字形と線質の関係 ・創作(イメージ書)への活用 3. 文化祭展示 ・伝統的な表現形態の理解(裏打ち) ・展示鑑賞 4. 仮名の書 ・成立と種類 ・基本用筆の習得 ・単体と連続 ・古筆の鑑賞と変体仮名の効用 ・散らし書きと余白美 ・創作への活用 5. 漢字仮名交じりの書(共同制作) ・創作法 ・自分達の今を表す言葉を考える ・意図に基づく表現の構想と工夫 ・これまでの書の学習を生かした作品制作	・展示発表 (美術館鑑賞)	芸術選択 書道 I	2単位
	サードステージ	5 6	1. 篆刻 ・印の歴史と篆書 ・印の効用 ・姓名印作成 2. 多様な書の美についての探究 ・漢字の書 古典の鑑賞 ・仮名の書 古筆の鑑賞 ・書の美の諸要素と表現効果 ・生活に生かす 3. 自主研究 ・自らの興味、関心に沿ったテーマ別研究および作品制作	・展示発表	選択科目 書道 I *	2単位

* 6年の選択科目は教育課程の都合上、設置しないこともある。

保健体育科 6年間の指導計画

目 標 ・健康・安全や運動についての理解を深め、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育成する。また、健康の保持増進のための実践力を育成し、体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身につける。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い運動経験 ・適切な健康管理と基礎的な体力の向上 ・積極的に運動し親しむ資質や能力の育成 ・運動や健康・安全についての理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康保持増進のための実践力育成と体力向上 ・各種運動の特性の理解と運動技能の向上 ・公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たす態度の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的な計画立案と運営 ・生涯を通じた適切な健康管理と体力の向上 ・継続的に運動を実践する資質や能力の育成 ・公正・協力・責任などの社会的態度の習慣化

課程	ステージ	学年	目標と学習内容	留意事項	履修科目	授業時数
前期課程	ファーストステージ	1	<ul style="list-style-type: none"> ○体育 <ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・陸上競技 ・水泳 ・球技 ・器械運動 ・武道 ・ダンス <p>各種目を通して、幅広い運動経験をし、そのうえで積極的に運動し、親しむ資質や能力を育成し、運動や健康・安全についての理解を深める。また、適切な健康管理と基礎的な体力の向上を目指す。</p>		保健体育	週3時間
		2	<ul style="list-style-type: none"> ○体育 <ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・陸上競技 ・水泳 ・球技 ・器械運動 ・武道 <p>各種目を通して、幅広い運動経験をし、そのうえで積極的に運動し、親しむ資質や能力を育成し、運動や健康・安全についての理解を深める。また、適切な健康管理と基礎的な体力の向上を目指す。</p>		保健体育	週3時間
	3	セカンドステージ	<ul style="list-style-type: none"> ○体育 <ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・陸上競技 ・水泳 ・球技 ・ダンス <p>健康保持増進のための実践力育成と体力向上を目指すと共に、各種運動の特性の理解と運動技能の向上、及び、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たす態度の育成を目指す。</p>		保健体育	週3時間
後期課程	セカンドステージ	4	<ul style="list-style-type: none"> ○体育 <ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・陸上競技 ・水泳 ・球技 <p>健康保持増進のための実践力育成と体力向上を目指すと共に、各種運動の特性の理解と運動技能の向上、及び、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たす態度の育成を目指す。</p>		体育 保健	2単位 1単位
		5	サードステージ	<ul style="list-style-type: none"> ○体育 <ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・陸上競技 ・水泳 ・球技 <p>生涯を通じた適切な健康管理と体力の向上を目指すと共に、継続的に運動を実践する資質や能力を育成し、運動における公正・協力・責任などの社会的態度の習慣化を目指す。</p>		体育 保健
	6	<ul style="list-style-type: none"> ○体育 <ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・陸上競技 ・水泳 ・球技 <p>各種目について、自主的な計画立案と運営を行う態度を育成し、生涯を通じた適切な健康管理と体力の向上、及び、公正・協力・責任などの社会的態度の習慣化を目指す。</p>	種目選択による授業	体育	3単位	

技術・家庭・情報科 6年間の指導計画

目 標 【技術分野】

体験的な学習活動を通して、ものづくりやコンピュータ活用に関する基礎的な知識と技術を習得し、実際の生活に活用できる能力と態度を身につける。

【家庭分野】

生活の自立に必要な衣食住などに関する基礎的な知識と技術を習得し、毎日の生活に活用できる能力と態度を身につける。生活の科学的な理解を深めるための実践的・体験的な学習活動を充実するとともに、生活の中から問題を見出しその課題を解決する過程を重視する。この過程を通して、社会の一員として、またリーダーとして、これからの展望し持続可能な社会を構成する基礎を築く。

【情報】

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。
- (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
- (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
○技術に関する基礎的な知識と技術の習得		
○生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し想像する能力と実践的な態度を育てる。		○生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力し主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育てる。
○情報とコンピュータに関する基礎的な知識と技術の習得	○情報とコンピュータに関して、情報活用能力の基礎を養う	○情報とコンピュータに関して、生活と社会に応用する知識と技術の習得

課程	ステージ	学年	目標と学習内容	留意事項	履修科目	授業時数	
前期課程	ファーストステージ	1	○技術分野 A 材料と加工に関する技術 B エネルギー変換に関する技術 C 生物育成に関する技術 D 情報に関する技術	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭分野 A 家族・家庭生活 B 衣食住の生活 C 消費生活・環境 D 生活の課題と実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術分野及び家庭分野の授業時数については、3学年間を見通した全体的な指導に基づき、いずれかの分野に偏ることなく配当して履修させる。 ・様々な学習で、コンピュータを活用することができるようになる。 ・セキュリティ・発達の段階に応じた情報モラルの指導 	技術・家庭	週2時間
		2	情報とコンピュータの基礎 情報とコンピュータと私たちの生活			技術・家庭	週2時間
	セカンドステージ	3				技術・家庭	週1時間
後期課程	サードステージ	4	○情報社会の問題解決 ○コミュニケーションと情報デザイン ○コンピュータとプログラミング ○情報通信ネットワークとデータの活用	セキュリティ・情報モラルの指導・プログラミング教育の推進・マルチメディアの適切な取り扱い	情報Ⅰ	2単位	
		5	○人の一生と家族・家庭及び福祉 ○衣食住の生活の自立と設計 ○持続可能な消費生活・環境 ○ホームプロジェクトと学校家庭クラブ ○情報 他教科の学習への活用	社会の一員としてこれからの展望し持続可能な社会の構築する姿勢を身につける。他教科との連携指導の中で情報活用能力の育成する。	家庭基礎	2単位	
		6	○情報社会の進展と情報技術 ○コミュニケーションとコンテンツ ○情報とデータサイエンス ○情報システムとプログラミング ○情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究	情報Ⅱは、情報Ⅰの基礎の上に、情報システムや多様なデータを適切かつ効果的に活用する力や、コンテンツを創造する力を育む。	情報Ⅱ	2単位	

英語科 6年間の指導計画

目標・国際社会でツールとして使用できる英語力を身につける。

指導の特徴

○少人数授業の実施…基礎・基本の充実。生涯学習の観点からの学習習慣の確立

○細かい目標設定による学力の把握・・・実用英語技能検定の活用

○外国人英語指導助手の活用による運用体験・・・JET・ALTとのチーム・ティーチングの活用

○複数学年にわたる継続的指導・・・リスニング・多読等による実践的な地力の向上

○学校設定科目…「文化科学Ⅲ（原典購読）」の設置

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
○積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	○実践的能力を身につけ、異文化を理解する力を育てる。	○多様な意見や考えの受信・発信を通じて、世界と積極的に関わる力を育てる。
○自学自習の方法と習慣を身につける。		

課程	ステージ	学年	学習内容	学校行事との関連	関連教材 時間数	英検取得目標	GTEC による CEFRJ level 目標
前期課程	ファーストステージ	1	<ul style="list-style-type: none"> ・be 動詞、一般動詞 ・命令文 ・can を用いた文 ・3人称単数 ・疑問詞を用いた疑問文 ・現在進行形 ・過去形 ・過去進行形 ・未来を表わす表現 	スピーチ・コンテスト 校内留学（全員）	NEW TREASURE STAGE 1 英語 週4時間	4級	A1-2 (60%)
		2	<ul style="list-style-type: none"> ・There is 構文 ・比較 ・助動詞 ・副詞節を導く接続詞 ・接続詞 that ・文型 ・不定詞 ・動名詞 ・受動態 ・現在完了 	スキット・コンテスト 校内留学（全員）	NEW TREASURE STAGE 1・2 英語 週4時間	3級	A1-3 (60%)
	セカンドステージ	3	<ul style="list-style-type: none"> ・名詞、不定代名詞、前置詞 ・後置修飾、分詞 ・関係代名詞 ・仮定法 ・比較表現 ・間接疑問文・完了形 ・知覚、使役動詞 ・関係代名詞・関係副詞 ・過去完了 	日本文化のプレゼンテーション 海外研修（希望者） ディベート大会	NEW TREASURE STAGE 2・3 英語 週4時間	準2級	A2-1 (69%)
後期課程	セカンドステージ	4	<ul style="list-style-type: none"> ・副詞節 ・名詞節 ・不定詞 ・分詞、 ・分詞構文 ・仮定法 ・動名詞 ・比較 ・語法 ・時制の一致 ・強調・倒置 	英語劇発表 海外研修(希望者)	英語コミュニケーションⅠ 3単位 論理・表現Ⅰ 2単位	準2級 準2級プラス	A2-2 (69%)
	サードステージ	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ディベート ・より高度な4技能のトレーニング ・オンライン英会話 	海外修学旅行	英語コミュニケーションⅠ 4単位 論理・表現Ⅱ 2単位 文化科学Ⅲ（原典購読）1単位	2級	B1-1 (59%)
		6	<ul style="list-style-type: none"> ・より高度な4技能のトレーニング 	グローバル遠足	英語コミュニケーションⅢ 4単位 論理・表現 2単位 英語コミュニケーション演習（選択科目） 2単位	2級 準1級	B1-1 (69%)

総合的な学習の時間・総合的な探究の時間（「人間と社会」含む）・学校設定科目「探究」 6年間の指導計画

目 標 問いを立てるプロセス、仮説・検証、論文作成、プレゼンテーション、その他各活動を通して探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通じて、①人間関係形成能力、②情報活用能力、③将来設計能力、④意思決定能力を育成することで、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指す。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
<p>○グループ探究の過程において、地域課題や社会課題などを通じて課題発見能力を養う。</p> <p>○文献調査やインタビューまた集団での対話的な学びを通して課題解決に向けた情報収集能力を養う。</p> <p>○将来の在り方・生き方を考え、社会に貢献しようとする志や使命感を持ち、取り組むことができる。</p> <p>全体目標重点項目①②</p>	<p>○探究に主体的・協働的に取り組むとともに、グループ内での発表や全校での探究発表会を通して、プレゼンテーションの能力を育成し、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養うことができる。</p> <p>○先行研究を題材に、自己の探究心を養い、将来自己が進む道を考え、実現に向けた取り組みを行うことできる。</p> <p>全体目標重点項目①②③</p>	<p>○自然・社会・人文科学を中心に教科横断的な課題学習を行い、実社会や実生活と自己との関わりから問いを導き出すことができる。</p> <p>○自ら課題を設定し、情報を集め、整理・分析して、まとめの論文作成やポスターセッションなどを通して、自己の進路実現に向けた取り組みができる。</p> <p>全体重点項目③④</p>

課程	ステージ	学年	目標と学習内容	留意事項	履修科目	授業時数
前期課程	ファーストステージ	1	<p>目標：</p> <p>○身近な地元・地域を題材に、探究の基本的な見方・考え方を習得する。</p> <p>○探究のプロセスを通じて、地域の魅力・課題を発見し、今後の展望を提示できる。</p> <p>内容（グループ探究）：</p> <p>○地域活性化を目的に地元を中心とした地域探究を実施する。</p>	・ポスター発表	総合探究	週1時間 隔週2時間
		2	<p>目標：</p> <p>○求められている課題を解決できる創造力を習得する。</p> <p>○地域活性化や未来の社会に向けて、課題を設定し、新たに創造する力を習得する。</p> <p>内容（グループ探究）：</p> <p>○地域活性化を目的においた白馬探究を行う。</p> <p>○より良い社会の実現を目的においた起業探究を実施する。</p>	・ポスター発表	総合探究	週2時間 隔週2時間
	セカンドステージ	3	<p>目標：</p> <p>○学術的観点から探究を実践し、課題設定・解決能力を育成し、探究のプロセスを習得する。</p> <p>内容（グループ探究）：</p> <p>○学術的観点からグループ毎に文理に分かれて、文理探究を実施する。</p>	・スライド発表	総合探究	週2時間 隔週2時間
後期課程	サードステージ	4	<p>目標：</p> <p>○先行研究から課題設定（気づき）を行い、探究（研究）のプロセスを習得できるになる</p> <p>内容（個人探究）：</p> <p>○「人間と社会」を活用し、演習を通じて「問い」を立てる訓練を行う。（2～3章）</p> <p>○年間で、個人探究に関わりのあるフィールドワークを実施する。（12時間）</p> <p>○先行研究などから新たな「問い」を立て、個人探究を実施する。</p>	・ポスター発表	探究	1単位
	5	<p>目標：</p> <p>○4年間の探究の学びを活かし、自分の興味関心のあるものに自ら課題を設定し、自ら解決できる資質能力を養う。</p> <p>内容（個人探究）：</p> <p>○自己の進路や自己の興味・関心の中から、社会課題と関連し、メンター制度や探究支援員を活用しながら、探究活動を実施する。</p>	・ポスター発表	探究	1単位	
	6	<p>目標：</p> <p>○5年間学んできた探究をまとめることができる。</p> <p>内容：</p> <p>○5年間学んできた探究を論文にまとめる。</p>	・論文発表	探究	1単位	

道徳 6年間の指導計画

目 標 ・道徳の時間を中心に、他人を思いやる心と互いに助け合う心をはぐくむとともに、物事を正しく判断し、自分の言動に責任をもつ態度を養う。また、自己の生き方、在り方を考えさせるとともに、地域や社会、ひいては世界の平和や人類の幸福に貢献する態度を身につける。

各ステージの目標

ファーストステージ【基礎力養成期】	セカンドステージ【活動実践期】	サードステージ【応用発展期】
「思いやり」と「勤労」	「責任」と「奉仕」	社会的リーダーとしての「奉仕」と「社会貢献」

課程	ステージ	学年	学習内容	学校特設科目・学校行事などとの関連
前期課程	ファーストステージ	1	<ul style="list-style-type: none"> ○望ましい生活習慣を身につけ、心身の健康の増進を図り、より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。 ○温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心を持ち、友情の尊さを理解して心から信頼できる友達を持ち、互いに励まし合い、高め合う。 ○生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重するとともに、自然を愛し、美しいものに感動する豊かな心を持ち、人間の力を越えたものに対する畏敬の念を深める。 	文化一般：情操の育成 文化科学Ⅰ：話し合い、心情理解力 校外学習：団結力、協力、環境保全
		2	<ul style="list-style-type: none"> ○礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとるとともに、多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝しそれにこたえる。 ○社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。 ○それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方がることを理解して、寛容の心を持ち謙虚に学ぶ。 	自然科学Ⅰ：論理的思考力 校外学習：農業体験、持続可能な生態系利用 職場体験：勤労意識の向上、郷土愛
	セカンドステージ	3	<ul style="list-style-type: none"> ○自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任を持ち、真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。 ○法や決まりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるよう努める。 ○自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。 ○世界の中の日本人としての自覚を持ち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する。 	自然科学Ⅱ：科学的な見方、考え方 研修旅行：伝統文化理解
後期課程	ファーストステージ	4	<ul style="list-style-type: none"> ○自他の尊重と自分の役割と責任を自覚し、集団生活の向上と、よりよい校風をつくるとともに、他者や異性、ジェンダーフリーについての理解を深め、相手の人権を尊重する態度を身につける。 ○郷土や自然を愛する心を養い、進んでボランティア活動や自治的な活動に取り組み、地域社会の一員としての自覚を持って郷土を愛し、理解を深める。 	文化科学Ⅱ：社会連帯、公正公平、権利と義務 総合的な学習「奉仕」：相互扶助、公德心
		5	<ul style="list-style-type: none"> ○望ましい生活習慣及び節度ある生活ができるように自主的に計画を立て実践し、自己を見つめて自己の向上を図るとともに、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。 ○国際社会の一員として、国家の発展に努めるとともに、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する。 	修学旅行（移動教室）：異文化理解 総合的な学習：個性の伸長、個性の尊重
	サードステージ	6	<ul style="list-style-type: none"> ○家族への敬愛と感謝の念を深め、家族の一員としての自覚を持って、充実した家庭生活を築くとともに、生命のつながりについても、理解を深める。 ○より高い目標を目指し、希望と勇気を持って着実にやり抜く強い意志を持つとともに、人間としての在り方生き方についても考える。 	文化科学Ⅳ：国際理解、異文化理解 総合的な学習：理想社会の実現

キャリア教育 6年間の指導計画

目 標 ・教科の学習、課題学習、論文作成、プレゼンテーション、その他各活動を通して、①人間関係形成能力、②情報活用能力、③将来設計能力、④意思決定能力を育成するとともに、「総合的な学習の時間」を中心に、さまざまな体験的学習を行い、自己の将来のあり方について目標を設定させ、明確な目的をもって進むべき大学・学部等を選択する力を身につける。社会的リーダーとしてどのように社会に貢献していくべきか考える力を身につける。

各ステージの目標

ファースト（1・2年）【基礎力養成期】	セカンド（3・4年）【活動実践期】	サード（5・6年）【応用発展期】
○体験的学習を通して、地域社会と自分とのかかわりを学び、職業観、勤労観を育成する。 ○自己の適性や能力を理解し、また自分の周りの仲間について理解し、人間関係形成能力を高める。	○人間の生き方について学ぶとともに、自己の適性について理解を深める。 ○進路についての情報収集と活用により、自己の将来の進路について考察する。	○卒業後の生き方を見ずえて、進路目標を決定する。 ○自己の適性を考慮し、進路実現に向けて具体的な準備を進めるとともに、6年一貫教育のまとめを行う。

課程	ステージ	学年	進路学習との関連場面			学年行事	備考
			【総合的な学習の時間】 ・プレゼンテーション能力の育成① ・グループによる協働① ・発表活動による学習成果の共有②	【特別活動】	【教科】		
前期課程	ファーストステージ	1	職業研究	・働くことについて③ ・職業について②③ ・職場見学③④ ・自分や仲間のことを知る①	・校外学習① ・個人面談④ 合唱祭① 体育祭① 文化祭①②③ ホームルーム① 移動教室 事前学習②	グループ学習① 実験、実習①	・校外学習 ・職場見学 ・放課後、土曜、夏期補習 ・学力推移調査 ・朝読書
		2		・職業について研究を深める② ・職場体験③④ ・農業体験① ・地域と接して学ぶ② ・ステージ探究発表会②③	・農業体験①③ ・個人面談④	コミュニケーション能力の育成① 情報の整理と活用②	・職場体験 ・農業体験 ・放課後、土曜、夏期補習 ・学力推移調査 ・朝読書
後期課程	セカンドステージ	3	大学訪問	・学部学科研究② ・大学訪問②④ ・社会とかかわりながら学ぶ②	・個人面談④ ・研修旅行② 球技大会①	理論的思考力の開発② 学力推移調査②	・大学訪問 ・研修旅行（関西方面） ・放課後、土曜、夏期補習 ・学力推移調査 ・朝読書
		4		・高大連携、大学模擬授業④ ・進路希望調査③ ・奉仕活動を通じた社会に貢献する態度の育成① ・ステージ探究発表会②③	・個人面談④ 生徒会、委員会活動③ セーフティ教室③ 進路説明会④ オープンキャンパス④	生活、家庭、保育の学習③ 言語能力と情操の育成③ 社会参加意識の啓発③	・奉仕実践報告会 ・高大連携校への授業参加 ・放課後、土曜、夏期補習 ・学力診断テスト ・朝読書
	5	・高大連携、大学模擬授業④ ・将来設計プランの作成③④ ・進路希望調査③ ・進路講演会③		・個人面談④ ・海外修学旅行② ・勉強合宿②	卒業後を見ずえた科目の選択④ 思考力と意思決定能力の育成④	・海外修学旅行 ・高大連携校への授業参加 ・勉強合宿 ・放課後、土曜、夏期補習 ・学力診断テスト ・朝読書	
	6	・大学模擬講義④ ・大学別進路ガイダンス② ・分野別進路ガイダンス② ・進路希望調査③ ・在校生卒業生懇談会④ ・ステージ探究発表会②③		・個人、三者面談④	図書館の活用②	・在卒懇談会 ・高大連携校への授業参加 ・放課後、土曜、夏・冬期補習 ・学力診断テスト ・朝学習	

東京都立三鷹中等教育学校 道徳教育全体計画

【法的根拠】
日本国憲法
教育基本法
学校教育法
学習指導要領

学校の教育目標
社会的リーダーとしての資質をもつ生徒を育成するため、次の教育目標を定める。
① 互いの基本的人権を尊重し、思いやりの心をもった豊かな人間性を養う。
② 高い見識と幅広い視野を培う。
③ 自立と共生の精神を養う。

【地域の実情】 穏やかな地域
【学校の実情】 国際交流が盛ん
【子供の実態】 学習意欲が高い
【教師の願い】 思いやりの心をもった社会的リーダーの育成
【保護者の願い】 生活面と学習面の両立

学校の道徳教育の重点目標
思いやり・人間愛(ヒューマニティ)を主題に、社会的リーダーとして必要な判断力と行動力、思いやりの心を育成する。

各学年の指導の重点

第1学年
中学生としての自覚をもち、豊かな人間性を養う。

第2学年
2年生としての自覚をもち、思いやりのある人間関係を築く。

第3学年
自分の言動に責任を持ち、自己の生き方
在り方を考え、地域や社会に貢献する態度を養う。

各教科

国語
言語感覚を養い国語を愛する心を育てる。

社会
我が国の国土・歴史に愛情をもち、公民的な資質の基礎を培う。

数学
数学的なものの見方や考え方の良さを生活に生かす態度を養う。

理科
自然に対する関心を高め、科学的な考え方を養う。

音楽
表現・鑑賞を通して音楽的な情操を養う。

美術
表現・鑑賞を通して美的な情操を養う。

技術・家庭
生活と技術との関わりを通し、進んで生活を工夫する態度を養う。

保健体育
運動に親しみ、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

外国語
外国の言語や文化に関心をもち、進んで交流する態度を養う。

選択

その他特に必要な教科
社会的リーダーを育成するため、高い見識と思いやりを養う。(探究等)

補
充
・
深
化
・
統
合

特別の教科 道徳

各学年の重点内容項目

- 1年
「思いやり」
・望ましい生活習慣の育成
・他人への思いやりと信頼
・生命尊重と自然愛護
- 2年
「勤労」
・礼儀作法の意義と感謝の精神
・郷土愛と勤労の尊さ
・向上心と個性の伸長
- 3年
「責任」
・自主・自律の精神
・法や決まりの理解と遵守
・集団生活の向上
・世界平和と人類の幸福への貢献

指導方針
・生徒一人一人の個性を尊重しながら、可能性を伸ばしていく指導
・生徒の道徳的な実践力を伸ばすため、各教科・特別活動との密接な連携

指導の工夫
・教材にある読み聞かせや朗読を利用するとともに、VTRやCDなどの視聴覚教材の利用を推進し、課題について生徒に十分理解させ、課題整理や課題解決の能力を育成する。
・生徒の体験や日常の出来事など身近な話題を多く取り入れたり、ICTを利用したり、理解しやすい教材を用い、具体的・積極的に生徒が自らの意見を述べ、円滑に議論できる条件や環境を設定する。

補
充
・
深
化
・
統
合

特別活動

学級活動
教師と生徒、生徒相互の理解を深め、互いに尊重する態度を育成する。

生徒会活動
自主的な活動を重んじ、進んで公共のために奉仕する態度を養う。

学校行事
集団の一員として自覚をもち、規律ある集団生活を築くとともに、助

総合的な学習の時間

- ・学校、家庭、地域三者の相互理解を深め、交流を密にして協力体制を整える。
- ・学校公開日、授業参観、道徳授業地区公開講座を通じ、道徳の授業を活性化させる。

生活指導

- ・思いやりの心をもてる集団を育成する。
- ・健康で安全な学校生活を送れる。

環境整備

- ・豊かな心を育て、道徳的実践意欲を高めるような環境を整備する。
- ・生徒と教師、生徒相互の望ましい人間関係を育てる。
- ・図書館の整備、充実に努める。

家庭・地域との連携

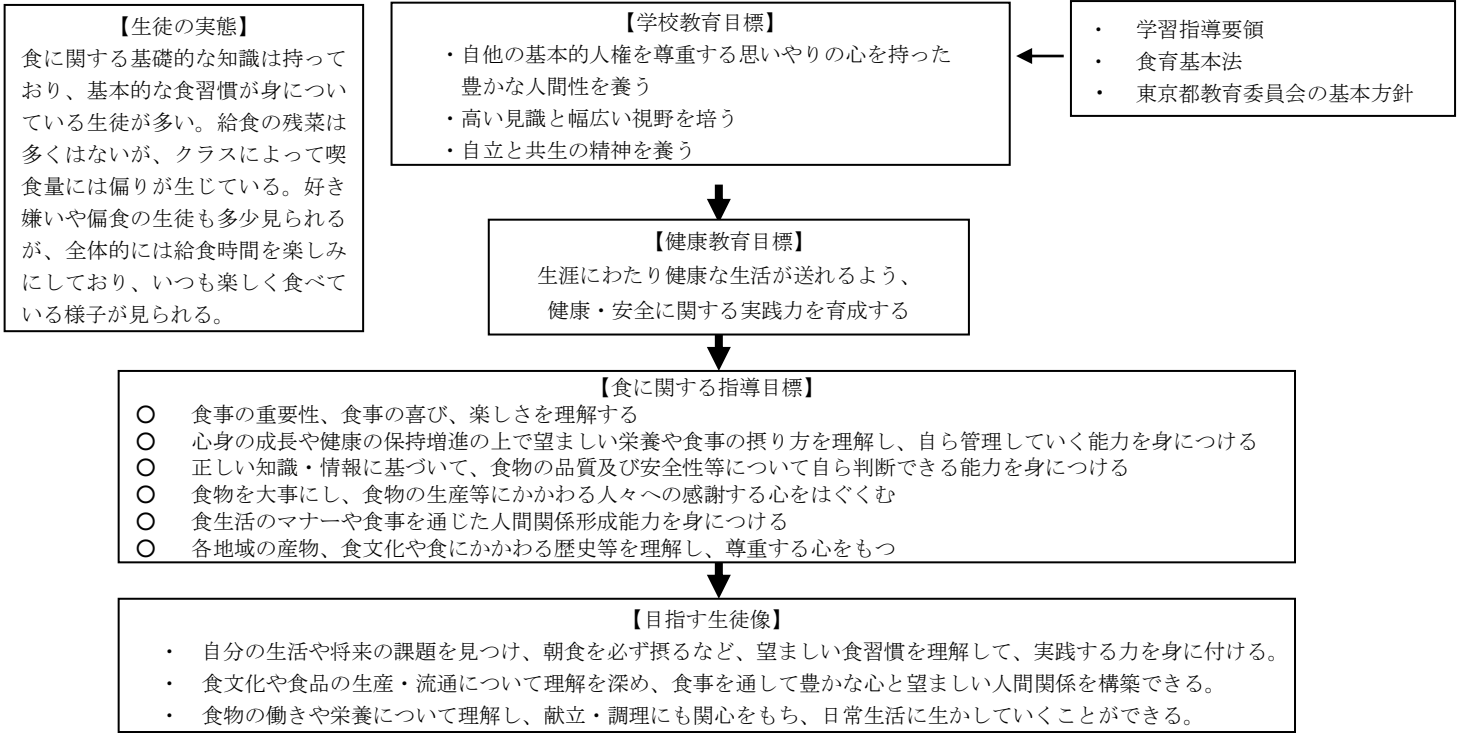
- ・学校、家庭、地域三者の相互理解を深め、交流を密にして協力体制を整える。
- ・学校公開日、授業参観、道徳授業地区公開講座を通じ、道徳の授業を活性化させる。

推進体制

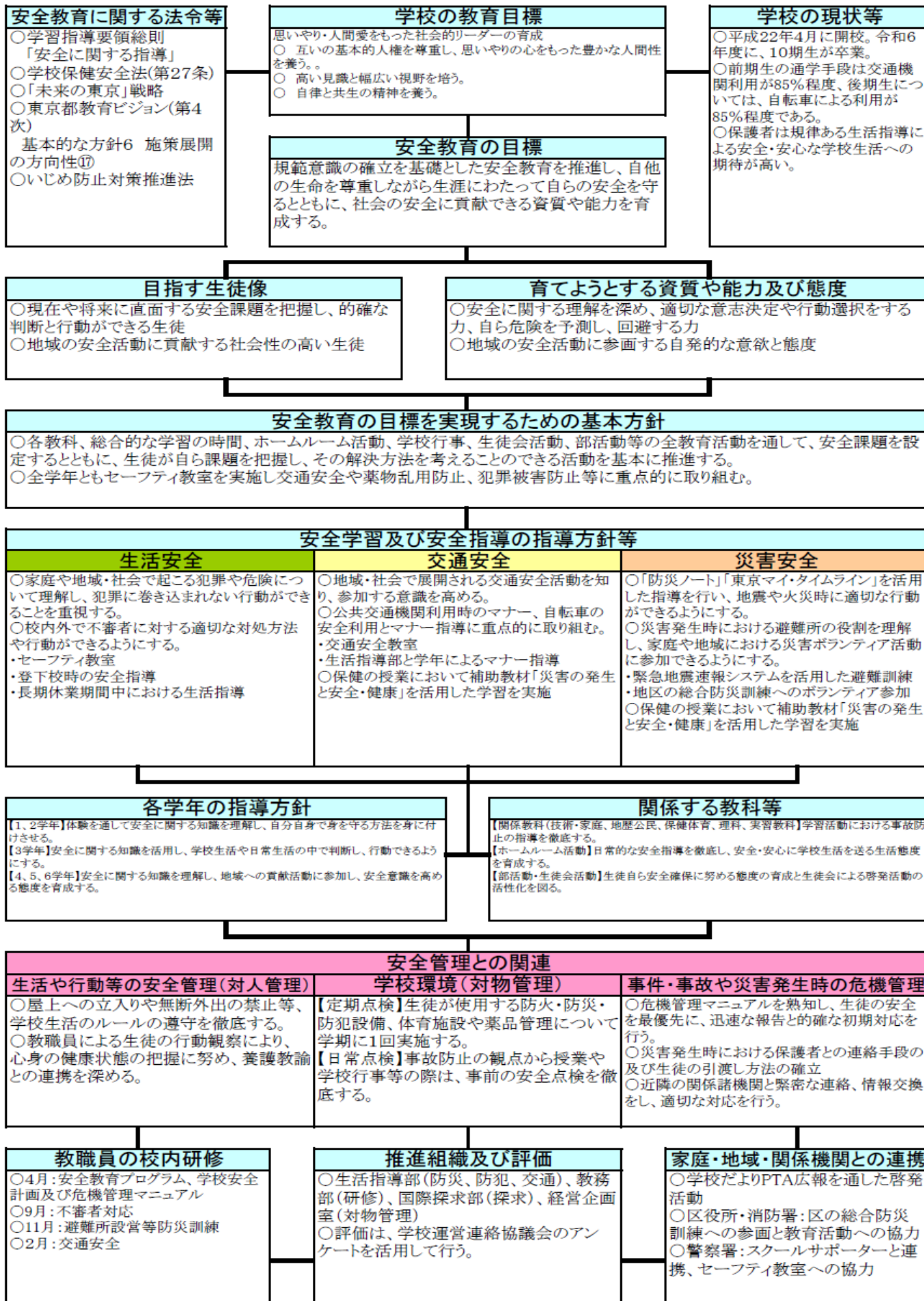
- ・道徳教育推進教師を中心に、各教科・各部と連携し、推進する。道徳授業地区公開講座を活用し、授業の在り方や他教科との連携について研究する。

特別活動全体計画

<p>日本国憲法 教育基本法 学校教育法 学習指導要領 都教委の教育目標</p>	<p>【学校の教育目標】 ○思いやり・人間愛をもった社会的リーダーの育成 *互いの基本的人権を尊重し、思いやりの心をもった豊かな人間性を養う。 *高い見識と幅広い視野を培う *自立と共生の精神を養う</p>	<p>【学校・地域の実態】 ・学習意欲が高い ・落ち着いた環境 ・部活動や行事が盛ん 【保護者の願い】 ・充実した進路指導 ・いじめ等のない安心できる学校</p>
<p>【教科指導の重点】</p>	<p>【学校像】 ①教養教育により広く深い教養、知性を培う学校 ②世界的視野をはぐくむ学校 ③豊かな人間性を育成し、望ましい職業観・勤労観を涵養する学校 ④一人一人の生徒の進路希望を実現する学校 ⑤地域社会とともに歩む学校 ⑥生徒が切磋琢磨する活力ある学校 ⑦中高一貫教育校としての一体性を重視する学校</p>	<p>【総合的な学習の時間】</p>
<p>国語 読むこと・書くことの基礎となる、漢字・語彙の学習に継続的に取り組み、国語を正確に理解し、適切に表現する力を育成する</p>	<p>【育てたい生徒像】 ① 社会の一員としての自覚をもち、「道徳」「総合的な学習・探究の時間」「人間と社会」等を通して高い倫理観を培うとともに、ボランティア活動への積極的な参加や地域との交流を通し、思いやりの心をもった社会的リーダーを目指す生徒 ② 高い見識を得るための学習活動と、豊かな人間性を得るための特別活動・部活動等の両立を目指し、限界までチャレンジする生徒 ③ 幅広い視野をもち、総合的な能力を育てるため、理系、文系にかかわらず全ての教科を意欲的に学習する生徒 ④ 自己の資質をより一層向上させることのできる進路を実現するために、高い目標をもち最後まで努力する生徒 ⑤ 全ての面において自主的、意欲的に取り組み、自分の意見を明確に表現するとともに、他者の意見を謙虚に受け止めることのできる生徒</p>	<p>①将来の在り方生き方を考え、社会に貢献しようとする志や使命感を育むために「人生設計学」を設定し、系統的なキャリア教育を展開しながら、進路希望を実現させる。 ②ボランティア活動や校外学習等の体験的活動を通して、実践力、コミュニケーション能力を育成し、思いやりの心と人間関係形成能力を培う。 ③自らの生き方と職業との関わりを考えさせ、職場見学や職場体験、講演会等の体験的学習等を計画的に行いながら、望ましい勤労観・職業観を育成する。 ④自然・社会・人文科学を中心に教科横断的な課題学習を行い、各ステージのまとめの論文の作成・発表を通してプレゼンテーション能力を育成する。</p>
<p>社会 社会科学の基礎的な知識の確実な習得に努め、社会的事象に対する正しい理解と人間への多面的な関心を身に付けさせる</p>	<p>【特別活動】 ①各学級の班活動や係活動を重視し、自己と他、集団との関わりを尊重する態度を育成する。生徒の自主性・自発性を重んじ、与えられた責任、使命を自覚できる人間に育てる。 ②生徒会、委員会、学級活動相互の連携を図り、学校行事の企画・立案・運営に主体的・自主的に関わる態度を育てる。異年齢集団との関わりの中から、集団との関わり方を学習し、達成感や成就感を実感させる。 ③部活動等の異年齢集団における継続的な活動において、目的を共有し互いに切磋琢磨することで、互いを尊重し合う豊かな人間関係を育て、個性や能力の伸長を図る。 ④集団への帰属意識の高まりや、学校生活の充実と発展を促す学校行事を実施し、異年齢集団における交流を深め、思いやりの心をもつ豊かな人間性を育て、社会的リーダーとしての資質を養う。</p>	<p>【道徳教育の指導】</p>
<p>数学 習熟の程度に応じた授業を実施し、発展的な内容や基本的な概念、原理・法則を理解させ、数学的な表現や処理の仕方を習得させる</p>	<p>【生活指導】 ①あいさつの励行、礼儀正しい態度や身だしなみ、集団生活でのマナー、規範意識の育成等、きめ細かく規律ある生活指導を通して、社会的、協調性、規範意識などを育成する。 ②生活指導全体計画に基づいて全教職員が協力した、生徒の発達段階に応じた生活指導を行い、基本的な生活習慣や生活態度を身に付けさせる。 ③スクールカウンセラーを活用し、学校全体で教育相談体制を組織する。</p>	<p>①各教科、総合的な学習の時間、および特別活動と密接に関連し、教育活動全体を通して道徳教育を展開し、「勤労・責任・思いやり」を兼ね備えた豊かな人間性を育む。 ②年間35時間の道徳の時間を確保し、他人を思いやる心や互いに助け合う心を育むとともに、物事を正しく判断し、自分の言動に責任をもつ態度を養う。 ③生徒の発達段階や特性等を考慮しながら、ボランティア活動などの体験活動を積極的に取り入れて、道徳的実践力を育成する。</p>
<p>理科 自然に対する興味を深め、疑問を持ち、疑問に対する答えを探求する力と、筋道を立てて物事を考える論理的な思考力を育てる</p>	<p>保健体育</p>	<p>外国語 習熟の程度に応じた少人数指導を実施し、ALTを活用しながら英語への興味・関心を喚起するとともに、語彙・定型表現等の基礎・基本の定着を図る</p>
<p>音楽 音楽を深く感受する力を養い、個性的で豊かな表現に必要な音楽技術を身につけ、自己表現力を高める</p>	<p>健康・安全や運動についての理解を深め、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質、能力と、明るく豊かで活力ある生活を営む態度の育成</p>	<p>【HR活動】 学級を単位として、学級や学校の生活への適応を図るとともに、その充実と向上、生徒が当面する諸課題への対及び健全な生活態度の育成に資する活動を行うこと。 (1)学級や学校の生活の充実と向上に関すること (2)個人及び社会の一員としての在り方、健康や安全に関すること (3)学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択に関すること</p>
<p>美術 生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、豊かな想像性、発想力、表現力を養う</p>	<p>【生徒会活動】 学校の全生徒をもって組織する生徒会において、学校生活の充実や改善向上を図る活動、生徒の諸活動についての連絡調整に関する活動、学校行事への協力に関する活動を行うこと。 学校生活の充実、改善向上を図る活動：生徒総会(5月) 学校行事への協力に関する活動：文化祭・体育祭(9月) 中高一貫校連携事業における生徒会連絡会(11月)</p>	<p>【学校行事】 全校または学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に資する定見的な活動を行うこと。 儀式的行事：始業式(4,8,1月)、入学式(4月)、終業式(7,12月)、修了式(3月) 学芸的行事：文化祭(9月)、芸術鑑賞教室(7,2月) 集団宿泊行事：海外修学旅行(11月) 健康安全・体育的行事：健康診断(4月)、体育祭(9月)、避難訓練(4回)・防災訓練 勤労生産・奉仕的行事：美化デー(毎月)、清掃(毎日)</p>



学年		第1学年	第2学年	第3学年		
教科との関連	社会	世界の生活と文化	生活・文化からみた日本	わたしたちの暮らしと経済		
	理科	いろいろな生物とその共通点	生物のからだとはたらき	自然と人間		
	技術・家庭	食生活と栄養 献立作りと食品の選択		私たちの成長と家族、家庭と子どもの成長、調理と食文化		
	保健体育	食生活と健康				
道徳	1 主として自分自身に関すること (1) 2 主として他の人とのかかわりに関すること (1) (2) 3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること (1) (2) 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること (5) (6) (8) (9) (10)					
総合的な学習の時間	食生活を考えよう (文科省教材活用) 地域と共に カレーづくり	農業体験 生産者との交流 新米を味わおう 職場体験	郷土料理 和菓子作り体験			
特別活動	学級活動	1 学期	2 学期	3 学期		
		○食に関する指導 ・給食のきまり ・朝食の大切さを知ろう ・夏の健康と食生活	○食に関する指導 ・栄養バランスを考えてみよう ・食材の生産者に思いをはせよう ・年末年始の食事	○食に関する指導 ・かぜの予防と食生活 ・1年間の給食活動の反省 ・食生活を見直してみよう		
	学校行事	入学式 健康診断 合唱祭	体育祭 文化祭	卒業式		
生徒会活動 給食委員会	・各月の給食目標にあわせた活動 ・アンコール給食 ・縦割り交流給食 ・国際交流					
給食指導 (給食指導目標)	4月	・給食のきまりを守り、協力して楽しい給食にしよう	8月	・自分の食生活をふり返るよい機会にしよう	12月	・冬の食生活と健康について考えよう
	5月	・食事にふさわしい環境づくりをしよう	9月	・運動と栄養の関連について理解しよう	1月	・食生活に関心をもとう ・給食週間にあわせ、給食の歴史やねらいを理解しよう
	6月	・衛生に気をつけて食事をしよう (手洗いの励行、清潔な身支度等)	10月	・バランスのとれた食事について考えよう	2月	・健康づくりを考え、食生活を見直そう
	7月	・夏の食生活と健康について考えよう	11月	・感謝して食事をしよう。 ・給食の係分担について見直そう	3月	・楽しい雰囲気でき好き嫌いせずおいしく食べよう ・食生活の反省をしよう
生活指導との関連	・学校生活のきまり ・夏休みの生活		・冬休みの生活		・1年間の生活の反省	
個別指導	・食物アレルギー個別対応					
家庭・地域との連携	・給食だよりの発行 ・地元の農家との連携 (地産地消) ・学校給食運営委員会		・学校給食試食会 ・学校保健委員会 ・栄養個別指導			・ICTを活用した取組



令和8年度 学校安全計画 年間指導計画

		4月	5月	6月	7月	9月	
各学年共通	I 生活	日常	登下校の安全、施設設備の安全点検 (学級活動) 1-①、②、③、2-④	スマホ、SNSの使い方 (学級活動) 3-⑥、⑦	不審者への対応 2-②、⑤、⑥	熱中症の予防、校庭での対処、体育館の換気 (朝の学活) 2-②、③、④	登下校の安全(文化祭・体育祭など行事の際の安全) (学級活動) 1-①、③、4-①、②
		定期	部活動と健康管理 (部活動)	セーフティ教室		夏休みの生活と安全 (学級活動) 4-①～③	
		教科等				性情報への対処 (保健・学級活動) 3-⑦、4-⑦、⑧、⑨	保健(学級活動)「自分の身の安全」/保健委員会の運営 (学校行事) 1-④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩、⑪、⑫、⑬、⑭、⑮、⑯、⑰、⑱、⑲、⑳、㉑、㉒、㉓、㉔、㉕、㉖、㉗、㉘、㉙、㉚、㉛、㉜、㉝、㉞、㉟、㊱、㊲、㊳、㊴、㊵、㊶、㊷、㊸、㊹、㊺
	II 交通	日常	通学経路の安全確認 (朝の学活) 1-①②③	交通環境に応じた自転車の利用 (学級活動) 2-①、②	雨天時の交通安全 (学級活動) 1-④、2-②		
		定期	全国交通安全運動への理解と参加、交通安全リーフレットの活用「自転車利用五則」「地域貢献」 (学校行事)2-①、4-①				全国交通安全運動への理解と参加、交通安全リーフレットの活用「自転車利用五則」「地域貢献」 (学校行事)2-①、4-①
		教科等					
	III 災害	日常	避難経路の確認 (学級活動) 1-①、2-①		落雷等の気象災害発生時の対応 (学級活動) 4-③	豪雨・暴風等の気象災害発生時の対応 (学級活動) 4-①、③	地震発生時の対応 (朝の学活) 2-②、③
		定期	避難訓練(火災)	避難訓練(地震)	避難訓練(火災・地震)	避難訓練(火災)	避難訓練(地震)
		教科等	我が家の防災対策 (学級活動) 7-②、③	防災ノート 1-①②	防災ノート 1-③④ 「東京マイ・タイムライン」を活用した指導		
1年	I 生活	日常定期	携帯電話のマナー (学級活動) 3-⑥、⑦	※部活動に「自分の身の安全」/交通安全の確保/災害時の対応/保健委員会の運営 (学校行事) 1-④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩、⑪、⑫、⑬、⑭、⑮、⑯、⑰、⑱、⑲、⑳、㉑、㉒、㉓、㉔、㉕、㉖、㉗、㉘、㉙、㉚、㉛、㉜、㉝、㉞、㉟、㊱、㊲、㊳、㊴、㊵、㊶、㊷、㊸、㊹、㊺	情報モラル:スマホ、SNSの使い方 (学級活動) 3-⑥、⑦、4-⑥		
		教科等		セーフティ教室			
	II 交通	日常定期					
		教科等	自転車の安全な乗り方と交通法規、交通安全リーフレットの活用 (学級活動) 2-⑤、⑥				
	III 災害	日常定期					
		教科等					
2年	I 生活	日常定期		※部活動に「自分の身の安全」/交通安全の確保/災害時の対応/保健委員会の運営 (学校行事) 1-④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩、⑪、⑫、⑬、⑭、⑮、⑯、⑰、⑱、⑲、⑳、㉑、㉒、㉓、㉔、㉕、㉖、㉗、㉘、㉙、㉚、㉛、㉜、㉝、㉞、㉟、㊱、㊲、㊳、㊴、㊵、㊶、㊷、㊸、㊹、㊺			
		教科等		セーフティ教室			
	II 交通	日常定期					
		教科等					
	III 災害	日常定期					
		教科等					
3年	I 生活	日常定期					
		教科等		セーフティ教室			
	II 交通	日常定期	自転車の安全な乗り方の確認 (学級活動) 2-⑤、⑥				
		教科等					
	III 災害	日常定期					
		教科等				教員研修(消防団との連携、AEDの使用方法の指導) (学校行事) 1-④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩、⑪、⑫、⑬、⑭、⑮、⑯、⑰、⑱、⑲、⑳、㉑、㉒、㉓、㉔、㉕、㉖、㉗、㉘、㉙、㉚、㉛、㉜、㉝、㉞、㉟、㊱、㊲、㊳、㊴、㊵、㊶、㊷、㊸、㊹、㊺	
教職員の研修等		安全教育プログラム、学校安全計画及び危機管理マニュアルの熟知			不審者対応		
保護者地域との連携							

